

社会医療法人同愛会年誌
博愛便2024

HAKUAI information





社会医療法人同愛会年誌 「博愛便 2024」 発刊にあたり

社会医療法人同愛会理事長
博愛病院院長
石 部 裕 一

同愛会年報「博愛便2024」を発刊するにあたり、日頃のご支援とご指導に深く感謝申し上げます。

今年も「博愛便2024」では、博愛病院に留まらず、同愛会全体の年報としての情報をお届けいたします。同愛会では、執行部の年次目標に基づき、各部署がバランススコアカードを用いて年間活動計画を策定し、PDCAサイクルを回しております。関係機関の皆様には、我々の活動実績をご高覧いただき、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、最近の大きな話題は、ポストコロナの新たな状況下において、高齢者医療・介護の風潮に重大な変化が表れつつあることです。キーワードは「高齢者」「救急医療」「ADL(日常生活動作)」です。高齢者が骨折などで入院された際、手術が成功しても、ADLの低下により以前のような自立生活が難しくなるケースが増加しています。このため、退院調整が複雑化し、入院期間の遅延が見られる傾向にあります。この問題は全国的にも大きな課題として取り上げられ、入院によるADLの低下を防ぐ方法が模索されています。厚生労働省は今回の診療報酬改定で、高齢者に対し入院直後からリハビリテーションを毎日実施し、栄養と口腔管理を徹底することで入院時のADL低下を防ぐ方策を提言しています。博愛病院では、今年からこの課題に取り組み、高齢者の救急医療に貢献していく予定です。

昨年10月に開設した重度障がい者のための医療支援型グループホーム博愛は、目標の20室には程遠いですが、徐々

に入所者を増やしています。全国的にもまれなこの施設は、博愛こども発達・在宅支援クリニックで診察されているような重度の障がい児(者)を対象としています。この施設の立ち上げにはクラウドファンディングによる多くの支援があり、市民の期待も大きいものとなっています。我々は全国の模範となるような運営を目指してまいります。

ポストコロナの状況下で同愛会の経営は大きな影響を受け、9年ぶりのマイナス決算となる見込みです。博愛病院の医業収益は予算のほぼ全額に達しましたが、物価上昇の影響もあり、経費が予算を大幅に上回り、医業利益は予算を下回りました。補助金の減収も影響し、当期純利益は大幅なマイナスとなりました。介護老人保健施設やわらぎもコロナクラスターの影響で入所者数が減少し、収益も減少しました。博愛こども発達・在宅支援クリニックは、開設から5年目を迎え、順調に運営されています。また、ふくよね博愛クリニックも開設から2年を経て、徐々にかかりつけ医機能と訪問診療の患者数が増えています。

同愛会・博愛病院では、救急医療だけでなく地域包括ケア機能も充実させ、常に新たな医療・介護サービスの創造を目指してまいります。この年報が地域医療機関の皆様と同愛会職員の架け橋となることを願い、「博愛便2024」発刊のご挨拶とさせていただきます。

2024年初夏

Profile

1967年 鳥取大学医学部医学科卒業
1968年 鳥取大学医学部附属病院研修医
1969年 天理よろづ相談所病院麻酔科医員
1971年 鳥取県立中央病院麻酔科医員
1974年 学校法人近畿大学医学部附属病院麻酔科講師
京都大学胸部疾患研究所臨床肺生理部門医員併任
1979年 近畿大学医学部麻酔科学講座講師
近畿大学医学部附属病院集中治療室室長兼務
京都大学胸部疾患研究所非常勤講師併任
1986年 米国ペンシルベニア大学医学部麻酔科客員研究員
1989年 厚生労働技官医療職国立大阪南病院麻酔科医長
近畿大学医学部非常勤講師併任
1991年 文部教官教育職鳥取大学医学部麻酔学講座助教授
1997年 鳥取大学医学部麻酔・蘇生学(現:麻酔・集中治療医学)講座教授
鳥取大学医学部集中治療部長兼務
2001年 鳥取大学医学部附属病院副院長
2003年 鳥取大学医学部附属病院院長
2005年 鳥取大学医学部附属病院院長
鳥取大学理事 鳥取大学副学長 鳥取大学医学部教授兼務
2007年 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院院長
2013年 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院顧問
(将来構想アドバイザー)

2013年 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院名誉院長
医療法人真誠会理事 院長代理
2015年 医療法人同愛会理事長 博愛病院院長
2016年 博愛病院院長退任
2020年 社会医療法人同愛会理事長
2022年 社会医療法人同愛会理事長 博愛病院院長

主な所属学会と取得資格

日本麻酔科学会(会員・認定指導医)
日本集中治療医学会(専門医・功労会員)
日本蘇生学会(功労会員)
日本老年麻酔学会(名誉会員)
American Society of Anesthesiologists
Society of Critical Care Medicine
山陰リスクマネジメント研究会
厚生労働省 麻酔科標榜医
日本医師会 認定産業医
厚生労働省健康局長 緩和ケア研修会修了

目 次

巻頭言	1
目 次	2
理念・運営方針	3
沿 革	5
組織図	6
令和5年度の主な出来事	8
病院概要	10

博愛病院

診療科・専門外来

内科(消化器内科)	12
内科(循環器内科)	15
内科(呼吸器内科)	16
内科(糖尿病・内分泌内科)	18
内科(脳神経内科)	19
内科(総合診療内科)	21
外科(消化器外科・肛門外科・乳腺外科)	22
外科(アミノインデックス外来)	25
外科(腎臓外科(臓器移植))	26
整形外科	27
産婦人科	29
麻酔科	31
放射線科	32
眼 科	33
小児科	34
臨床検査科	34
非常勤医師による専門外来	35
救急診療体制	36

看護部

看護部	37
外来看護	38
2階病棟(地域包括ケア病床)	38
3階A病棟(療養病床)	39
3階B病棟(回復期リハビリテーション病床)	39
4階A病棟(一般病床、地域包括ケア病床)	40
4階B病棟(一般病床)	40

中央診療部

手術室	41
透析室	41
内視鏡室	42
化学療法室	42
ドック健診センター	43

診療技術部

薬剤部	44
臨床検査部	45
診療放射線部	46
リハビリテーション部	47
臨床工学室	48
栄養管理室	49

在宅医療センター

在宅医療センター	50
訪問診療部	50
訪問看護ステーション博愛	51
訪問リハビリテーション博愛	51
サービスプラン博愛	52
ヘルパーステーション博愛	52

医療安全管理部

医療安全対策室	53
感染対策室	53

患者支援部

入退院支援室・医療相談室・地域連携室・患者相談室	54
--------------------------	----

その他

事務部・医師支援室・情報システム管理室	55
---------------------	----

チーム医療

感染対策チーム(ICT)	56
褥瘡対策チーム(スキンケアチーム)	56
抗菌薬適正使用支援チーム(AST)	56
整形外科チーム	56
緩和ケアチーム	57
心不全チーム	57
がんのリハビリテーションチーム	57
呼吸ケアサポートチーム(RST)	57
糖尿病チーム	58
栄養サポートチーム(NST)	58

ふくよね博愛クリニック

	59
--	----

博愛こども発達・在宅支援クリニック

	63
--	----

介護老人保健施設やわらぎ

	69
--	----

医療支援型グループホーム博愛

	75
--	----

活動目標	77
医療の質に関する指標	88
医療の質可視化プロジェクト	92
教育・研究実績	94
満足度調査(患者・開業医・職員)	100
広報物紹介	104
財務概況	105
外来診療予約・放射線科検査予約について	107

外来診療担当医師一覧表

同愛会 理念

ミッション (Mission)

あなたの健康、みんなの幸せ

ビジョン (Vision)

こどもから高齢者までみんなが健康で住みやすい地域社会の実現に貢献します。

バリュー (Value)

博愛精神：博愛の心で顧客のニーズに寄り添います。

地域貢献：医療・介護・福祉・保健の連携で地域の発展に貢献します。

患者第一：顧客の求めに気持ちよく応え患者第一の医療を実践します。

価値共創：地域と共にSDGsに取り組む新たな価値を創造します。

人材育成：誇り高き人材を育成し自己実現ができる組織を目指します。

令和3年4月1日改訂

博愛病院 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で医療を行い地域に貢献します。

運営方針

- 1 急性期から慢性期まで、患者さんの価値観に配慮した医療を提供します。
- 2 新しい医療知識と技能を修得し、根拠に基づいた医療を実践します。
- 3 博愛病院職員としての誇りを持ち、患者さんの心に寄り添う接遇を行います。
- 4 医療と介護の懸け橋となり、地域包括ケアシステムの円滑な運用に貢献していきます。
- 5 地域の期待と信頼に応えるため、断らない救急医療を目指します。
- 6 健康診断や人間ドックを推進し、病気の予防と早期発見に努めます。
- 7 これらの方針を実現するため、健全な病院経営を行います。

平成27年8月1日改定

ふくよね博愛クリニック 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で医療を行い、地域住民の健康管理に貢献します。

運営方針

- 1 いつでも気軽に受診でき、信頼されるかかりつけ医を目指します。
- 2 博愛病院との連携を図って、質の高い医療提供を継続します。
- 3 在宅医療を充実させるとともに、患者や家族が望む場所での過ごし方を支援します。
- 4 健康診断や予防接種を推進し、病気の早期発見と予防に努めます。
- 5 ふくよね博愛クリニック職員としての誇りを持ち、患者さんの心に寄り添います。
- 6 サテライトクリニックとして、博愛病院の診療機能向上に貢献します。
- 7 これらの方針を実現するため、健全なクリニック経営を行います。

令和4年4月1日制定

博愛こども発達・在宅支援クリニック 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で、すべての子どもの健康増進と健康管理に寄与し、子どもと家族が安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

運営方針

- 1 どんな子どもと一緒に育つことのできる地域をつくれます。
- 2 難病の子ども、障がいを持った子どもの在宅生活を支援します。
- 3 難病の子ども、障がいを持った子どもが将来自立して生活できるように支援します。
- 4 難病の子ども、障がいを持った子どもの保護者、きょうだいを支援します。
- 5 難病の子ども、障がいを持った子どもの最期の過ごし方を支援します。
- 6 難病の子ども、障がいを持った子どもを支援する人材を育成します。

平成31年4月1日制定

介護老人保健施設やわらぎ 理念・役割

理念

介護老人保健施設やわらぎは、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助します。また、家族や地域の人びと・機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

役割

- 1 包括的ケアサービス施設
利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援します。そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。
- 2 リハビリテーション施設
体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行います。
- 3 在宅復帰施設
脳卒中、廃用症候群、認知症等による個々の状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。
- 4 在宅生活支援施設
自立した在宅生活が維持できるよう、介護予防に努め、入所や通所リハビリテーションなどのサービスを提供するとともに、他のサービス機関と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努めます。
- 5 地域に根ざした施設
家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。

平成30年6月1日改定

医療支援型グループホーム博愛 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で、障がいの有無に関わらず誰もが地域で安心安全に暮らせる共生社会の実現に貢献します。

運営方針

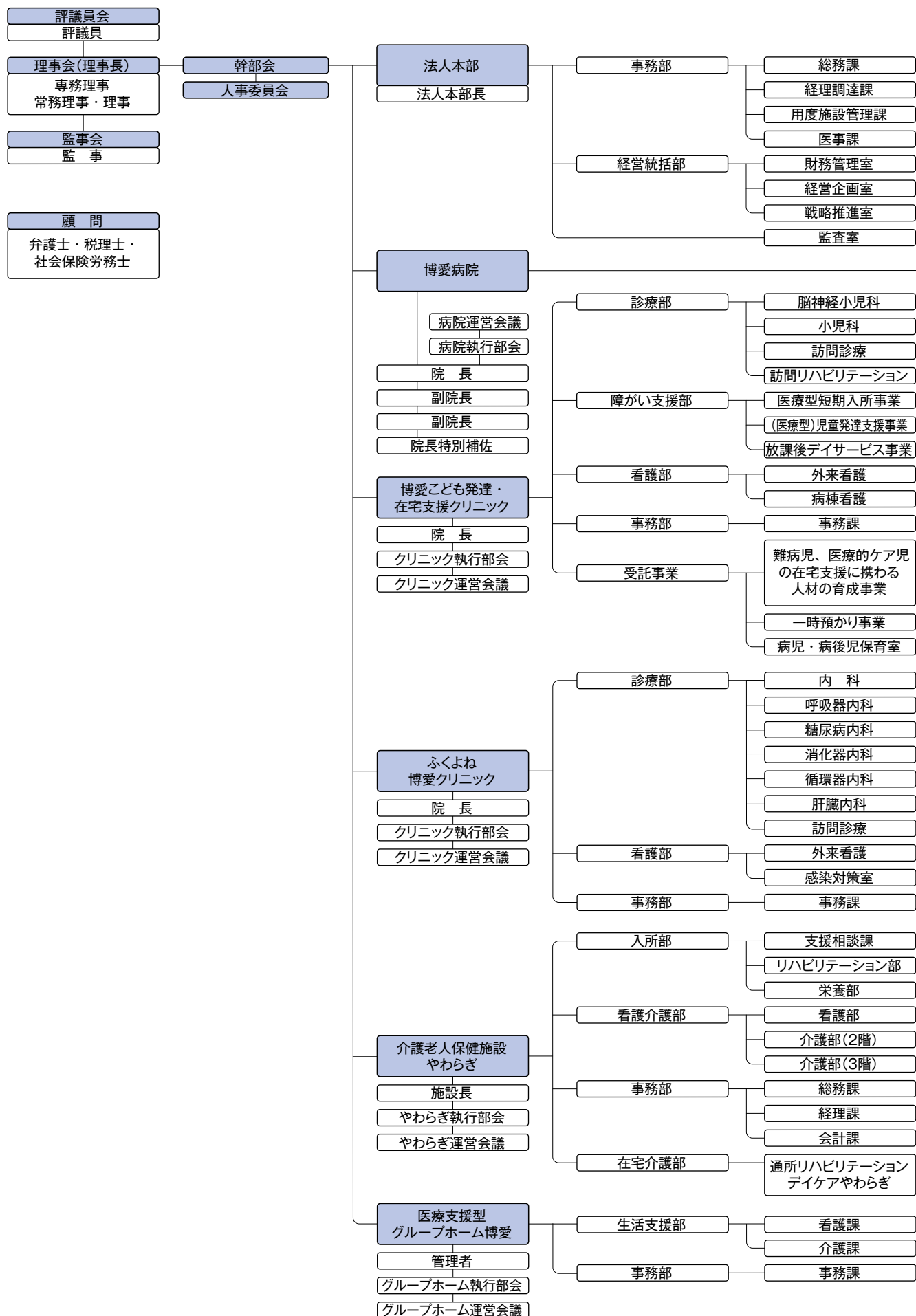
- 1 利用者の意思及び人格を尊重し、利用者第一のサービスを提供します。
- 2 終の棲家として、利用者が安心して健やかに過ごせる暮らしを支援します。
- 3 ご家族や地域との結び付きを重視し、すべての関係機関との連携に努めます。
- 4 医療的ケアが必要な重度障がい者の地域生活を支える責務を果たします。
- 5 医療的ケアが必要な重度障がい者を支援できる医療・介護の人材を育成します。

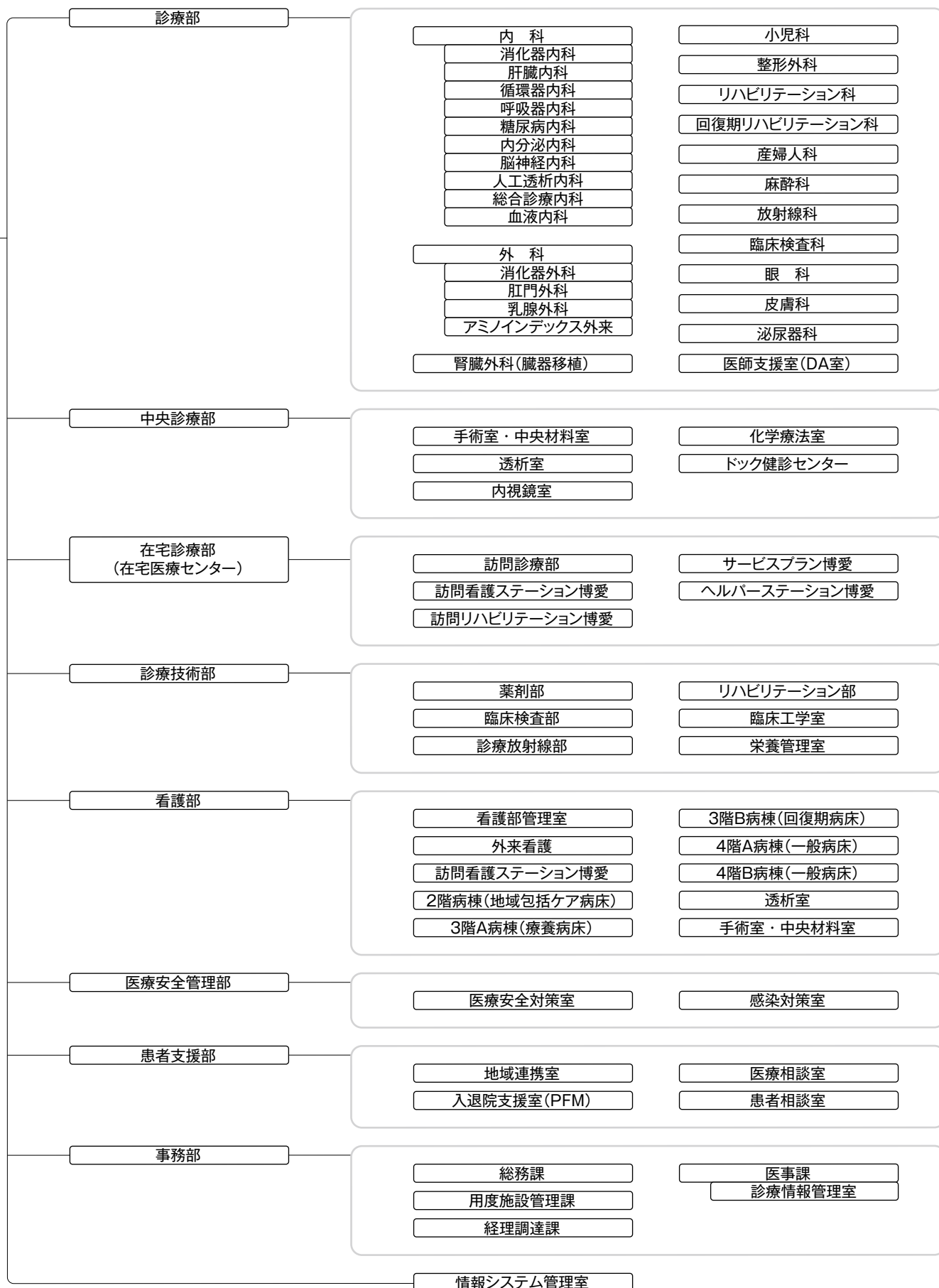
令和5年7月1日制定

沿 革

年 月	事 項
大正 9年	株式会社博愛病院創立の趣旨決定
大正10年 7月12日	博愛病院創立総会開催
大正10年10月 3日	株式会社博愛病院として登記(創立記念日とする)西伯郡米子町東倉吉町40番地
大正11年 6月20日	加茂町に博愛病院開院(総病床数130床)西伯郡米子町加茂町1丁目1番地
大正11年	看護婦養成所設立
昭和28年	第10病棟・第11病棟建築増床(総病床数242床)
昭和38年 6月 1日	株式会社から医療法人へ移行
昭和39年 9月	6床増床(総病床数248床)
昭和45年 3月	隔離病棟閉鎖・病床再編(総病床数195床)
昭和50年10月	加茂町から両三柳へ新築移転(総病床数180床)
昭和61年 1月	人工透析を導入し治療開始(4床)
昭和62年 7月	救急指定病院となる
平成 元年 7月	東館完成52床増床(総病床数232床)
平成 5年 5月	小児専門病棟30床増床(総病床数262床)
平成 6年 5月	介護老人保健施設やわらぎ開設
平成10年 2月	10床増床(総病床数272床)
平成11年12月	社会福祉法人博愛会設立に協賛、「博愛苑」開設支援
平成14年12月	本館増改修移転(総病床数247床)
平成19年 4月	訪問看護ステーション博愛と訪問看護センター合併し、博愛病院内に「訪問看護ステーション博愛」を設置
平成20年 8月	1階小児科病棟を閉鎖し、本館4階へ移転
平成21年 4月	回復期リハビリテーション病棟開設 病床再編:一般病床(急性期)217床、回復期リハビリテーション病床30床(総病床数247床)
平成21年 4月	院内保育所(はくあい保育園かるがも)開設
平成23年 7月	がん診療連携拠点病院に準じる病院に指定
平成25年 7月	特定医療法人財団へ法人格変更
平成25年 9月	病床数削減再編:一般病床(急性期)131床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成26年 6月	病床再編:一般病床(急性期)115床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床、地域包括ケア病床16床(総病床数199床)
平成27年 6月	病児保育所(病児保育かるがも)開設
平成27年11月	病床再編:一般病床(急性期)80床、地域包括ケア病床51床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成29年 5月	在宅医療センター竣工
平成30年 1月	病床再編:一般病床(急性期)72床、地域包括ケア病床59床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成31年 4月	博愛こども発達・在宅支援クリニック開設
令和 2年 2月	社会医療法人へ法人格変更
令和 2年 4月	日立記念病院を承継し、やすぎ博愛クリニックとして業務開始
令和 4年 4月	ふくよね博愛クリニック開設
令和 5年10月	医療支援型グループホーム博愛開設
令和 5年11月	病床再編:一般病床(急性期)64床、地域包括ケア病床67床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)

組織図 (社会医療法人同愛会)





(令和6年6月1日現在)

令和5年度 同愛会 主な出来事

年	月	日	事 項
令和5年	4月	1日	令和5年度 部署別活動目標シート(BSC)運用開始 ※令和5年3月28日理事会承認
	4月	1日	ユニフォーム変更(ドック健診センター・医事課・クラーク)
	4月	3日	辞令式、新採用者オリエンテーション
	4月	5日	ふくよね博愛クリニック循環器内科診療開始
	4月	12日	おしかけ出前講座実施(シンワ技研コンサルタント株式会社)
	4月	28日	医療支援型グループホーム博愛起工式
	5月	11日～	かるがもパトロール実施(5/20まで)
	5月	15日	SDGs折り鶴プロジェクト参加(G7広島サミット企画)
	5月	15日～	看護の日ポスター展示(5/31まで)
	5月	15日～	開業医満足度調査(6/16まで)
	5月	16日	中国四国厚生局適時調査
	5月	29日	やわらぎ改修工事(デイルーム・2階2床減・3階1床減)着工
	5月	31日	BSCスプリングレビュー開催
	6月	5日	医学・看護関連書 展示会開催(博愛病院教育委員会主催)
	6月	15日	防災避難訓練実施
	6月	22日	理事会・評議員会
	6月	27日	同愛会中期事業計画策定
	6月	27日	米子地区防火安全協会功労者表彰(石部理事長)
	7月	7日	ふくよね博愛クリニック糖尿病内科診療日拡充
	7月	10日～	かるがもパトロール実施(7/19まで)
	7月	12日	おしかけ出前講座実施(聴覚障がい者就労継続支援センターふくろう)
	7月	18日～	新人事考課制度に関するアンケート調査実施(8/31まで)
	7月	25日	同愛会年誌 博愛便発刊
	7月	27日	西部医師会との連絡協議会開催
	8月	1日	患者の権利と義務・ハラスメント防止ポスター院内掲示
	8月	3日	人間ドック健診施設機能評価認定取得
	8月	29日	おしかけ出前講座実施(米子市箕蚊屋地域包括支援センター 熊党集会所)
	8月	30日	やわらぎ改修工事(デイルーム・2階2床減・3階1床減)終了
	8月	31日～	第1回WEB医療安全対策研修会(9/30まで)
	9月	1日～	第5回職員満足度調査実施(10/16まで)
	9月	1日	博愛病院眼科医師2名体制へ拡充
	9月	8日	医療法に基づく西部総合事務所米子保健所立入検査
	9月	10日	非常螺旋滑り台塗装
	9月	12日～	人権・倫理研修会(WEB 9/22～10/20)
	9月	15日	やわらぎ2階・3階の食堂利用開始
	9月	15日	医療支援型グループホーム博愛ホームページ公開
	9月	21日～	かるがもパトロール実施(9/29まで)
	9月	21日～	新型コロナワクチン接種(令和6年3/31まで)
	9月	23日	博愛病院西館屋上防水シート張替え

年	月	日	事 項
	9月	30日	医療支援型グループホーム博愛開所式
	10月	2日	インフルエンザ予防接種受付開始(11/1～実施)
	10月	3日	同愛会永年勤続者表彰
	10月	7日	医療支援型グループホーム博愛鳥取県知事視察
	10月	10日	人事ソフト『SmartHR』からスマートフォン向けアプリ導入
	10月	11日	病院機能評価受審WGキックオフ
	10月	12日	防災避難訓練
	10月	12日	ふくよね博愛クリニック第1回健康教室開催
	10月	18日	おしかけ出前講座(米子瓦斯株式会社)
	10月	1日	博愛病院ホームページトップ画面リニューアル
	10月	16日～	患者満足度アンケート実施 (入院・透析:10/16～11/30、外来:11/6～11/10)
	10月	31日	救急外来外陰圧ハウス撤去
	11月	1日	病床再編(4階A病棟:一般病床33床→25床、地域包括ケア病床8床→16床)
	11月	1日～	職員向けストレスチェック実施(11/30まで)
	11月	2日	医学・看護関連書 展示会開催(博愛病院教育委員会主催)
	11月	6日	防犯訓練実施
	11月	7日	おしかけ出前講座(米子市箕蚊屋地域包括支援センター 熊党集会所)
	11月	8日	クラウドファンディング最終報告投稿
	11月	10日～	第1回WEB感染対策研修会(11/30まで)
	11月	14日～	WEB個人情報研修会(12/17まで)
	11月	29日	BSCオータムレビュー開催
	11月	30日	理事会・評議員会
	12月	11日～	かるがもパトロール実施(12/21まで)
	12月	14日	ふくよね博愛クリニック第2回健康教室開催
	12月	25日	博愛病院横大沢川沿い道路工事着工
	12月	25日	博愛病院ホスピタルアート取り組み開始
令和6年	1月	1日	同愛会CM放映(米子市公会堂前LEDビジョン 1年間)
	1月	1日	おしかけ出前講座メニューリニューアル
	1月	1日	博愛病院麻酔科医師1名体制へ変更
	1月	4日	新年互礼会
	1月	18日	おしかけ出前講座(はまだんカフェ)
	2月	6日	新型コロナ対策用仮設間仕切りボード撤去(2階)
	2月	8日	虐待防止研修(WEB 2/22～3/17)
	2月	9日	第2回WEB医療安全対策研修会(3/15まで)
	2月	9日	第2回WEB感染対策研修会(2/29まで)
	2月	13日	各部署BSCヒアリング(3/19まで)
	3月	22日	能登半島地震被災地支援活動報告会
	3月	28日	理事会・評議員会

病院概要

法人名称	社会医療法人同愛会 理事長 石部裕一
病院名称	博愛病院 院長 石部裕一
所在地	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地 TEL(0859)29-1100(代) FAX(0859)29-6322
創 立	大正10年10月
病床数	199床 急性期一般入院料4(DPC) 64床／地域包括ケア病棟入院料1 51床 地域包括ケア入院医療管理料1 16床／回復期リハビリテーション病棟入院料3 30床 療養病棟入院基本料1 38床
診療科	内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、内分泌内科、脳神経内科、人工透析内科、外科、消化器外科、肛門外科、乳腺外科、腎臓外科(臓器移植)、小児科、整形外科、リハビリテーション科、産婦人科、麻酔科、放射線科、臨床検査科、眼科、皮膚科、泌尿器科、血液内科、【計25科】
専門外来センター	人工関節専門外来、骨粗鬆症専門外来、糖尿病専門外来、乳腺専門外来 ドック健診センター、在宅医療センター(訪問看護ステーション博愛、訪問リハビリテーション博愛、サービスプラン博愛、ヘルパーステーション博愛)
その他事業	居宅療養管理指導事業 博愛居宅療養管理指導センター、障害福祉サービス事業重度障がい児者医療型ショートステイ、重度後遺障害者短期入院協力事業
関連施設	ふくよね博愛クリニック、博愛こども発達・在宅支援クリニック、介護老人保健施設やわらぎ、病児保育かるがも、院内保育所はくあい保育園かるがも、やすぎ博愛クリニック、医療支援型グループホーム博愛
敷地内禁煙	実施あり

職員数(職種別)

医師	34	臨床工学技士	5
薬剤師	9	管理栄養士	3
看護師	196	MSW	2
診療放射線技師	10	介護支援専門員	5
臨床検査技師	14	介護福祉士	21
理学療法士	25	看護助手	12
作業療法士	20	事務員等	77
言語聴覚士	8		
総数(嘱託、パート、出向含む)	441		

施設指定

がん検診精密検査医療機関
①胃がん②大腸がん③肝臓がん④肺がん⑤乳がん⑥子宮がん
(鳥取県健康対策協議会) (鳥取県成人健診管理指導協議会)
鳥取県心臓疾患精密検査医療機関
鳥取県肝疾患専門医療機関
鳥取県肝炎ウイルス医療機関検診協力医療機関
骨粗鬆症精密検査医療機関 (鳥取県保健事業団)
保険医療機関
救急指定病院
労働災害保険指定病院
労災保険二次健診等給付医療機関指定病院
母体保護法指定病院
児童福祉法指定助産施設
生活保護法指定病院
結核指定医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
協力型臨床研修指定病院
育成医療・更生医療指定病院(整形外科・眼科・腎臓)
精神通院医療指定病院
鳥取県がん診療連携拠点病院に準じる病院指定施設
発熱患者の「診察・検査医療機関」
日本内科学会認定医制度教育関連病院
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会認定制度指導施設
日本消化器がん検診学会大腸CT検査技術施設
日本肝臓学会認定施設
日本神経学会認定准教育施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設

施設認定

日本大腸肛門病学会認定施設
日本整形外科学会専門医研修施設
マンモグラフィ検診施設画像認定(デジタル)
日本がん治療認定医機構研修施設
日本臨床栄養代謝学会NST稼働認定施設
がん病態栄養専門管理栄養士研修実地修練施設
日本認知症学会教育施設
日本呼吸器学会関連施設
外国人患者の受け入れに係る準拠点病院
日本脾臓学会認定指導施設
日本麻酔科学会認定病院
日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本医学放射線学会画像診断管理認証施設(MRI安全管理に関する事項)
公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価認定
日本人間ドック・予防医療学会健康施設機能評価認定
日本人間ドック・予防医療学会優良健診施設指定
日本人間ドック・予防医療学会人間ドック健診専門医制度暫定研修施設

基本診療料の施設基準

情報通信機器を用いた診療
機能強化加算
医療情報取得加算
医療 DX 推進体制整備加算
一般病棟入院基本料
急性期一般入院料4
療養病棟入院基本料1
在宅復帰機能強化加算
救急医療管理加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1
急性期看護補助体制加算
看護補助体制充実加算 1
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
療養病棟療養環境加算1
医療安全対策加算1
医療安全対策地域連携加算1
感染対策向上加算1
指導強化加算
患者サポート体制充実加算
後発医薬品使用体制加算 1

データ提出加算2
 入院支援加算1
 地域連携診療計画加算
 入院時支援加算
 総合機能評価加算
 認知症ケア加算3
 せん妄ハイリスク患者ケア加算
 協力対象施設入所者入院加算
 回復期リハビリテーション病棟入院料3
 地域包括ケア病棟入院料1
 看護職員配置加算
 地域包括ケア入院医療管理料1
 看護職員配置加算

入院時食事療養費の基準

入院時食事療養 (I)
 入院時生活療養 (I)
 食堂加算

特掲診療料の施設基準

心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
 がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料Ⅰ
 がん患者指導管理料Ⅱ
 がん患者指導管理料Ⅲ
 移植後患者指導管理料(臓器移植後)
 小児運動器疾患指導管理料
 婦人科特定疾患治療管理料
 下肢創傷処置管理料
 院内トリアージ実施料
 救急搬送看護体制加算2
 外来腫瘍化学療法診療料1
 ニコチン依存症管理料
 がん治療連携計画策定料
 肝炎インターフェロン治療計画料
 薬剤管理指導料
 地域連携診療計画加算
 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
 医療機器安全管理料1
 別添1の「第14の2」の1の(1)に規定する在宅療養支援病院
 在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
 在宅がん医療総合診療料
 在宅酸素療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
 遺伝学的検査
 BRCA1/2遺伝子検査
 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
 HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
 検体検査管理加算(I)
 検体検査管理加算(IV)
 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
 神経学的検査
 コンタクトレンズ検査料1
 画像診断管理加算1
 画像診断管理加算2
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 心大血管疾患リハビリテーション料(I)
 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
 運動器リハビリテーション料(I)
 呼吸器リハビリテーション料(I)
 がん患者リハビリテーション料
 エタノールの局所注入(甲状腺)
 エタノールの局所注入(副甲状腺)
 人工腎臓1
 導入期加算1
 透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算
 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
 椎間板内酵素注入療法

食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、
 十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、
 小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、
 腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、
 膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、
 腸腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 輸血管管理料Ⅱ
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 麻酔管理料(I)
 保険医療機関間の連携による病理診断
 看護職員処遇改善評価料46
 外来・在宅ベースアップ評価料(I)
 入院ベースアップ評価料51

日本医療機能評価機構認定

一般病院1
 (100床以上)(主たる機能)

リハビリテーション病院
 (副機能)



2019年 3月 公益財団法人 日本医療機能評価機構認定
 認定番号JC2308 バージョン 3rdG:Ver.2.0
 2021年 3月 期中の確認完了
 2024年10月 更新予定

日本人間ドック・予防医療学会 健康施設機能評価認定



2023年 8月 日本人間ドック・予防医療学会
 健康施設機能評価認定
 優良健診施設指定
 2028年 4月 更新予定

消化器内科

【概 要】

当院の消化器内科は、日本消化器病学会指導施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本膵臓学会認定指導施設に認定されており、複数の認定医、専門医、指導医などの資格をもった医師が、消化管疾患、肝疾患、胆膵疾患に関して質の高い診断・治療を行っています。消化器外科、放射線科と合同カンファレンスを行い、最良の消化器疾患の診療を行えるように努めています。今回、消化器内科医師の入れ替えがあり、若い医師の教育にも力点を置きつつ積極的な診療を行っていきます。また、内視鏡室に配属されている看護師5名全員が消化器内視鏡学会の認定する消化器内視鏡技師の資格を取得し、消化器内科のカンファレンスにも参加して一緒にチーム医療を行っています。

対象疾患

- ◆食道疾患（逆流性食道炎、食道がん、静脈瘤など）
- ◆胃・十二指腸疾患（潰瘍、がん、胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症、機能性ディスペプシアなど）
- ◆腸疾患（大腸ポリープ、大腸がん、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性腸炎、感染性腸炎、過敏性腸症候群、便秘症など）
- ◆肝疾患（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん、脂肪肝など）
- ◆胆道疾患（胆石症、胆道がんなど）
- ◆膵臓疾患（急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん、嚢胞性膵疾患など）

【実 績】

上部消化管	令和3年度	令和4年度	令和5年度
上部消化管内視鏡検査(EGD)	4,699	4,511	4,770
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	27	19	24
下部消化管	令和3年度	令和4年度	令和5年度
下部消化管内視鏡検査(CS)	1,102	979	960
ポリヘクトミー	157	232	293
内視鏡的粘膜切除術(EMR)	343	278	265
カプセル内視鏡	4	7	4
CT colonography	41	27	39
肝・胆・膵	令和3年度	令和4年度	令和5年度
肝生検	2	0	0
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	61	57	57
内視鏡的十二指腸乳頭切開術(EST)	27	29	26
内視鏡的胆道結石除去術	36	34	29
内視鏡的胆道ドレナージ	10	7	10

【医師紹介】



消化器内科主任部長 松本 栄二(岡山大学 平成5年卒)

外来診療／火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本肝臓学会(専門医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

肝疾患を中心に診療を行っております。肝機能異常の診断、B型肝炎、C型肝炎など標準的な薬物治療、肝硬変のマネジメントなどの外来診療を行い、腹部エコー、CT、MRIなどの診断機器を用いて肝がんの早期発見、早期治療に努めております。また、ラジオ波焼灼療法、肝動脈塞栓術など肝がん治療を行っております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

非アルコール性脂肪性肝障害など肝疾患は増加傾向です。
肝疾患の診断や治療、その他、お困りでしたら当院に紹介していただけましたら幸いです。



消化器内科副医長 紙谷 悠(鳥取大学 平成28年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(内科専門医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆日本炎症性腸疾患学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

上部・下部消化管領域(消化管腫瘍・炎症性腸疾患・機能性消化管障害)や胆膵領域(悪性腫瘍・胆道結石など)を中心に診療しております。特に食道・胃・大腸における早期がんの内視鏡検査・治療(ESD・EMR)を専門としています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんに満足いただけるよう苦痛の少ない内視鏡診療を心がけております。内視鏡検査・治療が必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただけますと幸いです。



消化器内科医員 山形 祥世(兵庫医科大学 令和2年卒)

外来診療／水曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本消化器病学会
- ◆日本消化器内視鏡学会

FIELD/専門分野

主に内視鏡を扱う消化器診療(上下部消化管内視鏡検査、胆管結石や閉塞性黄疸に対する内視鏡治療、消化管止血術など)を中心に診療にあたっています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

苦痛の少ない内視鏡検査、丁寧な治療を日々心がけています。



院長特別補佐
消化器内科部長 濱本 哲郎(鳥取大学 昭和57年卒)(嘱託)

外来診療／火曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医、指導医)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医、指導医、名譽支部会員)
- ◆日本消化器がん検診学会(認定医、中国四国支部幹事)
- ◆日本肝臓学会(指導医)
- ◆日本消化管学会(胃腸科認定医、胃腸科専門医)
- ◆日本カプセル内視鏡学会(認定医、指導医)
- ◆日本人間ドック・予防医療学会(認定医、社員(全国評議員))
- ◆鳥取大学医学部附属病院連携診療教授
- ◆鳥取県健康対策協議会・大腸がん対策専門委員会委員長
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

上部・下部消化管および胆膵領域の疾患の診断・薬物治療のほか、消化管腫瘍の内視鏡的切除、胆管結石除去や腫瘍による閉塞性黄疸の減黄等の内視鏡的治療等を行っています。また、CTコロノグラフィーや大腸カプセル内視鏡などをいち早く導入して、大腸内視鏡検査に抵抗感が強い症例にも対応しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

医師、看護師、コメディカルが一つのチームとなって、患者さんの気持ちに寄り添いながら、消化器疾患の診断・治療を行っています。



消化器内科部長 堀 立明(鳥取大学 昭和55年卒)(嘱託)

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(総合内科専門医)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医)
- ◆日本肝臓学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆日本透析医学会
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆日本医師会認定健康スポーツ医
- ◆嚥下機能評価研修修了

FIELD/専門分野

B型肝炎、C型肝炎の専門的な検査、治療を行っています。NASHやアルコール性肝臓病に対する栄養管理、合併症の予防と治療、肝細胞がんのサーベイランスおよび診断と治療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

肝臓疾患に限らず、消化器疾患が疑われる場合など、ご遠慮なくご紹介下さい。



消化器内科部長 岸本 幸廣(鳥取大学 昭和48年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医、指導医、上部消化管内視鏡スクリーニング認定医、大腸内視鏡スクリーニング認定医)
- ◆日本肝臓学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器がん検診学会(認定医)
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆鳥取県健康対策協議会西部 胃がん・大腸がん検診読影会委員

FIELD/専門分野

HBV、HCVなどのウイルス性肝疾患、脂肪性肝疾患(NAFLD)などの肝疾患を中心として診療、研究してきました。現在はそれに加えて、上部下部消化管疾患、胆膵疾患も診察しています。消化器疾患の総合医を目指して診療しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

約50年間の臨床経験を活かし、消化器疾患全般にわたって、皆様に貢献できるように努力しています。また、患者さんへは丁寧な説明と、診療を心がけていきます。

循環器内科

【概要】

循環器疾患は高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、心不全、不整脈、心臓弁膜症など高齢化、生活習慣により発症する疾患が多く、現在増加してきています。特に心不全はあらゆる循環器疾患の終末像であり、生命予後、QOL を改善することが必要で患者個人個人に対するそれぞれの加療が必要です。基本的な検査である血液検査、胸部レントゲン、心電図、心エコーの検査で個々の患者に応じて治療法を考えていきます。心不全の原因となる心筋梗塞、弁膜症、高血圧症などは喫煙や塩分の摂りすぎといった生活習慣の悪化によって発症します。心不全患者は医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、リハビリテーション（理学療法士、作業療法士）等、多職種での「チーム医療」が必要となります。博愛病院では心不全チームを作り、心不全患者の包括治療を実践しています。週1回の心不全回診、月1度の症例検討会を通じ、個々の患者さんに応じた治療を行っています。

対象疾患

- ◆高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
- ◆心不全
- ◆不整脈
- ◆心臓弁膜症などの循環器疾患及び関連疾患である高コレステロール血症
- ◆慢性腎臓病

【医師紹介】



循環器内科主任部長 田中 保則（鳥取大学 昭和63年卒）

外来診療／月曜日・火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本循環器学会
- ◆日本透析医学会

FIELD/専門分野

高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、慢性心不全、不整脈、心臓弁膜症等の循環器内科疾患だけでなく関連疾患である高コレステロール血症、慢性閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、慢性腎臓病など幅広い疾患の診療を行っています。特に慢性心不全は高齢化に伴い増え続けている疾患で病院全体として取り組んでいます。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

2018年より心臓リハビリテーションを開始し、心不全患者さんをチーム医療で行っています。医師会との心不全連携パスを利用して、地域全体で診ることに取り組んでいます。



循環器内科部長 井川 剛（鳥取大学 平成12年卒）

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本循環器学会（循環器専門医）
- ◆日本内科学会（認定内科医、総合内科専門医）

FIELD/専門分野

循環器疾患全般の診断、治療、管理を中心に、循環器疾患の発症や増悪に関与する生活習慣病等の治療、また心臓リハビリテーションを行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

循環器疾患を疑う症状の原因精査や診断、治療、等々ございましたらご紹介下さい。

呼吸器内科

【概 要】

Covid-19単独での入院症例はほとんどなくなりましたが、呼吸器疾患以外の合併症を有する症例の症状悪化が散発しています。専用確保病床はなくなりましたが、該当診療科と協力体制を維持しつつ、外来・入院での診療を継続しています。

対象疾患

- ◆ 感染性呼吸器疾患（肺炎、非結核性肺抗酸菌症など）
- ◆ 気道閉塞性疾患
（慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎など）
- ◆ アレルギー性肺疾患（気管支喘息、過敏性肺臓炎など）
- ◆ 間質性肺疾患（特発性間質性肺炎、膠原病肺など）
- ◆ 腫瘍性肺疾患（肺がん、転移性肺がんなど）
- ◆ 胸膜疾患（気胸、膿胸など）
- ◆ 呼吸不全（急性呼吸不全、慢性呼吸不全）
- ◆ その他（気管支拡張症、睡眠時無呼吸症候群など）

【実 績】

項 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者延数(人)		7,311	7,411	7,064
入院患者延数(人) ※退院含む		12,278	11,394	11,462
HOT 延数(件)		185	191	194
CPAP 延数(件)		903	903	990
HMV 延数(件)		19	32	43
終夜睡眠ポリグラフィー延数(件)	簡易	11	15	20
	精密	13	7	34
気管支鏡検査延数(件) ※気管支ファイバーを使用した処置を含む		20	5	10

新型コロナウイルス入院患者		令和3年度	令和4年度	令和5年度
入院患者数(人)		159	199	69

【医師紹介】



呼吸器内科主任部長 山本 司生 (鳥取大学 平成8年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本呼吸器学会
- ◆日本感染症学会
- ◆日本環境感染学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆日本臨床栄養代謝学会TNT研修修了

FIELD/専門分野

呼吸器内科疾患一般
呼吸器感染症
睡眠時無呼吸症候群

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

罹患者数は減少傾向にあるもののCovid-19罹患者は散発的に発生しており、これに対する診療体制は維持しつつ禁煙外来や睡眠時無呼吸症候群についての検査・治療も行っておりますので、対象となりそうな症例がございましたらご紹介下さい。



呼吸器内科部長 西井 静香 (鳥取大学 平成19年卒)

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(総合内科専門医)
- ◆日本呼吸器学会(専門医)
- ◆日本肺癌学会
- ◆日本臨床腫瘍学会
- ◆日本呼吸器内視鏡学会
- ◆日本呼吸療法医学会
- ◆日本結核病学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆インフェクションコントロールドクター(ICD)

FIELD/専門分野

呼吸器疾患、肺がんを中心に一般内科にも携わってまいります。また、訪問診療も行っておりますのでご相談下さい。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

微力ながら地域の呼吸器内科診療に貢献したいと存じますのでよろしくお願いいたします。



呼吸器内科部長 総合診療内科部長 重白 啓司 (鳥取大学 昭和54年卒) (嘱託)

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本呼吸器学会

FIELD/専門分野

呼吸器疾患の診療を行っています。特に入院や在宅の長期療養患者さんの治療を中心として、丁寧に寄り添う診療を心がけています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

長引く咳、息苦しさなどは、患者さんが気にかけていても治療に結びついていないケースがあります。気軽にご相談ご紹介いただきますよう、お願いいたします。

非常勤 外来担当 外来診療／火曜日
鳥取大学呼吸器内科講師 山口 耕介

糖尿病・内分泌内科

【概 要】

糖尿病・内分泌疾患の外来診療、ならびに糖尿病治療調節・教育入院、急性慢性合併症治療を含めた入院診療を担当します。また、手術やその他の疾患にて他科入院中の糖尿病合併症例のフォローを行います。

糖尿病の診療にあたっては、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士・臨床検査技師など多職種からなる専門チームを組み、生活習慣の改善指導、支援や治療を行います。令和5年秋より新型コロナウイルス感染症の蔓延のために休止しておりましたが、博愛ウォーキングも再開しました。

対象疾患

◆糖尿病

◆脂質異常症

◆肥満症

◆メタボリックシンドローム

◆内分泌疾患

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
糖尿病教室	129人(84回)	130人(84回)	103人(62回)
博愛ウォーキング	—	—	14名(1回)

(令和3～4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見合わせた。)

◆かえで通信(2ヶ月に1回発行)／令和6年5月現在 第96号

【医師紹介】



糖尿病・内分泌内科主任部長 藤岡 洋平(鳥取大学 平成19年卒)

外来診療／月曜日・水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医)
- ◆日本糖尿病学会(専門医、指導医)
- ◆日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医
- ◆日本糖尿病協会 療養指導医
- ◆日本糖尿病合併症学会
- ◆アジア糖尿病学会
- ◆日本肥満学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会

FIELD/専門分野

糖尿病、高血圧、脂質異常症などの代謝疾患の治療を中心に行っています。特に糖尿病は専門分野であり、入院・外来でのインスリンやGLP1療法などの注射療法も含めて、治療調節を行います。また代謝疾患に加えて、甲状腺疾患や副腎疾患などの内分泌内科としての診断、治療を行っております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

コメディカルとも連携し、質の高い治療を目指してまいります。糖尿病診療においては、地域連携パスを積極的に利用し、病診連携をより活発に行いたいと考えております。



糖尿病・内分泌内科部長 竹内 龍男(鳥取大学 昭和57年卒)(嘱託)

外来診療／火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本糖尿病学会(専門医、研修指導医)
- ◆日本臨床栄養代謝学会TNT研修修了

FIELD/専門分野

糖尿病の診断、治療方針の決定、内服薬の調整、インスリンやGLP-1受容体作動薬など注射薬適応の判断、患者教育、急性合併症や慢性合併症への対応、他科連携、術前後の血糖コントロールなど、各々の患者さんの診療全般に関与します。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

多職種で連携しながら、誠実な診療を行います。また、ご紹介いただいた患者さんは、特別な事情がない限り、紹介元の先生にフォローをお願いしております。

脳神経内科

【概 要】

脳神経内科では脳、脊髄、末梢神経、筋疾患の診断及び内科的治療を行っています。入院診療では、代表的救急疾患である脳血管障害（脳卒中）の救急診療、回復期リハビリテーション、在宅へむけての地域包括診療を中心に行っています。外来診療では、頭痛、めまい、しびれ、認知症の診断・治療、慢性期脳血管障害の再発予防治療、神経難病の通院診療を主体に行っています。

特殊診療として、以下を行っています。

- 1) 摂食嚥下機能障害に対する嚥下機能評価と対応
- 2) 神経難病のレスパイト入院・訪問診療
- 3) 脳深部刺激（DBS）の調整・管理
- 4) ボツリヌス治療

令和6年2月にパーキンソン病に対するホスレポドパ・ホスカルビドパ持続皮下注治療を開始しました。

当院は日本神経学会准教育施設、また日本認知症学会教育施設です。

対象疾患

- ◆脳血管障害
- ◆パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患（神経難病）
- ◆アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症などの認知症
- ◆多発性硬化症・重症筋無力症などの神経免疫疾患
- ◆髄膜炎・脳炎などの神経感染症
- ◆てんかん
- ◆末梢神経障害
- ◆筋疾患
- ◆頭痛
- ◆めまいなど

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者延数（人）	6,696	6,743	6,774
入院患者延数（人）	6,280	7,291	8,455
嚥下造影検査（件）	29	30	36
嚥下内視鏡検査（件）	39	23	15
神経難病レスパイト入院（件）	13	10	8
DBS管理・調整（人）	8	10	9
ボツリヌス治療（件）	54	43	39

【医師紹介】



副院長
脳神経内科主任部長

足立 晶子（山口大学 昭和60年卒）

外来診療／月曜日・水曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本神経学会（専門医、指導医、代議員）
- ◆日本脳卒中学会
- ◆日本内科学会（認定内科医、総合内科専門医）
- ◆日本神経治療学会
- ◆日本認知症学会（専門医、指導医）
- ◆鳥取大学医学部附属病院連携診療教授
- ◆日本リハビリテーション医学会（認定臨床医）
- ◆米子医療センター附属看護学校 非常勤講師
- ◆日本摂食嚥下リハビリテーション学会（認定士）
- ◆認知症サポート医
- ◆日本臨床倫理学会（臨床倫理認定士）

FIELD/専門分野

外来では脳神経内科一般の診療を行い、嚥下障害の診療にも力を入れてきました。入院診療では2009年回復期リハビリテーション病棟開設時より病棟の専任医として主に脳血管障害のリハビリテーション、社会復帰に携わっています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

高齢化に伴い増加してきた認知症などの脳神経疾患の診療を、地域の先生方と連携して行っていきます。今後ともよろしくお願いいたします。



脳神経内科部長
在宅診療部部長

安井 建一（鳥取大学 平成8年卒）

外来診療／木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本神経学会（専門医、指導医）
- ◆日本内科学会（認定内科医、総合内科専門医、内科指導医、JMECCインストラクター、中国支部評議員）
- ◆日本救急医学会（ICLSディレクター）
- ◆日本神経治療学会
- ◆日本神経感染症学会
- ◆日本認知症学会
- ◆日本頭痛学会
- ◆日本臨床倫理学会（臨床倫理認定士）
- ◆鳥取大学医学部非常勤講師（臨床神経学）
- ◆米子医療センター附属看護学校 非常勤講師
- ◆嚥下機能評価研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆鳥取大学医学部臨床教授

FIELD/専門分野

脳血管障害を始めとした神経救急疾患の診療を主体として行っています。専門分野は、ALS、パーキンソン病、多系統萎縮症などの神経難病診療です。外来診療だけでなく、訪問診療、レスパイトや療養入院などにも対応しています。DBS、ITB、ヴィアレブ持続皮下注などのDAT管理、痙縮に対するボツリヌス毒素治療も行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみならず

当院の神経内科診療を出来るだけ質の高いものにするとともに、救急、入院、在宅と地域で出来る神経内科診療を積極的に行っていきたいと考えています。

非常勤 外来担当 外来診療／火曜日

鳥取大学脳神経内科 田中 七海

総合診療内科

【概 要】

総合診療とは、専門診療の対義語です。患者を全人的、多角的に捉え、特定の臓器・疾患に限定しない診療形態です。内科関連疾患を対象とする場合には総合診療内科と呼びます。当院では毎日紹介状のない初診患者を中心に診療を行っています。診察の結果、専門診療科の受診が必要と判断されれば適切な診療科へ紹介します。

従来、電話での救急患者の入院依頼は対応に時間がかかっていましたが、総合診療内科外来を通すことで時間短縮が可能となっています。

対象疾患

- ◆内科を初めて受診する患者で紹介状をお持ちでない方
- ◆内科以外に通院中で、内科受診が必要と思われる患者
- ◆内科に通院中で、予約外に受診を希望する患者
- ◆検診で精密検査を勧められた患者
- ◆救急外来を受診した後に外来予約を取った患者
- ◆各種ワクチン接種

※対象疾患のうち、明らかに専門外来を受診したほうがよい患者を除く

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
初診紹介件数(件)	52	58	59
初診患者数(人)	354	438	148
再来患者数(人)	2,401	1,835	1,620

【医師紹介】



総合診療内科部長
呼吸器内科部長

重白 啓司

外来診療／水曜日・金曜日

……………呼吸器内科(P17)参照

非常勤 外来担当 外来診療／第1・3・5木曜日
鳥取大学血液内科教授 河村 浩二

外科(消化器外科・肛門外科・乳腺外科)

【概 要】

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会の専門医、指導医による一般外科手術、消化器外科手術、消化器がんの手術や周術期の抗癌剤治療を行っています。胆石症や胃がん、大腸がん、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアの腹腔鏡下手術も行い、患者さんのニーズに応えています。令和6年度は常勤医が1名増となり、腹腔鏡下手術や緊急手術にもより対応しやすくなりました。その他、痔など直腸肛門疾患、消化器がん末期患者さんの在宅診療など、幅広い医療を提供しています。また乳腺外科は、日本乳癌学会認定の専門医(指導医)二人体制による乳腺疾患の専門外来です。乳がん検診で精査が必要な方、乳房にしこりを触れるなどの症状がある方の精査、診療等を行っています。乳がんと診断された方に対して、乳癌学会専門医の指導のもと、外科医師と協力して手術や術後の化学療法などを行っています。

対象疾患

- ◆胃がん
- ◆直腸肛門疾患
- ◆一般外科疾患など
- ◆乳がんの診断、治療
- ◆大腸がん
- ◆急性虫垂炎
- ◆乳がん検診で要精査
- ◆乳房に良性疾患(良性腫瘍、乳腺炎)など
- ◆胆石
- ◆ヘルニア
- ◆乳癌学会専門医の指導のもと、外科医師と協力して手術や術後の化学療法などを行っています。

【実 績】

疾 患	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	症 例	開腹/腹腔鏡	症 例	開腹/腹腔鏡	症 例	開腹/腹腔鏡
胃がん	8		6		4	3/1
胃全摘	0		2	2/0	1	1/0
胃切除	8	6/2	2	1/1	1	0/1
噴門切除	0		0		0	
その他			2		2	2/0
結腸がん	32	27/5	23	20/3	21	19/2
直腸がん	6	4/2	6	1/5	4	4/0
胆嚢がん	1				0	
胆石、胆嚢ポリープ、胆嚢炎	34	5/29	34	1/33	30	3/27
総胆管結石	0		0		1	1/0
直腸脱	3		2		4	
痔核	22		26		26	
ヘルニア	40	19/21	35	13/22	33	20/13
脾臓疾患	0		0		0	
肝臓疾患	1	1	2		1	1/0

【医師紹介】



消化器外科主任部長 近藤 亮(鳥取大学 平成元年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医、専門医)
- ◆日本消化器外科学会(認定医、専門医、指導医)
- ◆日本臨床栄養代謝学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会TNT研修修了
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆日本乳癌学会
- ◆日本乳癌検診学会

FIELD/専門分野

頻度の多い外科疾患である胃がん、大腸がん、胆嚢結石症、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアのほか、乳腺疾患、周術期抗がん剤治療、緩和医療、訪問診療など、手術から術後のフォローアップ、がん終末期の症状コントロールに至るまで広く対応しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

常に最新のガイドラインを参照し、最新の標準治療を提供するとともに、患者さん一人ひとりのニーズに沿った診療を心がけています。



消化器外科部長 竹本 大樹(鳥取大学 平成9年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器外科学会(専門医、指導医、消化器がん外科治療認定)
- ◆日本臨床外科学会
- ◆日本大腸肛門病学会
- ◆日本救急医学会
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆インフェクションコントロールドクター
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師

FIELD/専門分野

日本外科学会専門医及び指導医、日本消化器外科学会専門医および指導医として、消化器がんの手術を主に、一般外科、乳腺外科、腹部救急の分野で、日々診療にあたっています。また必要に応じて化学療法などの薬物療法を外来治療室の看護師、薬剤師と協力・情報交換しながら行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

消化器外科、一般・救急外科及び乳腺外科の分野で、地域の方々に寄り添い、質の高い医療が提供できるように診療に取り組んでいます。



消化器外科部長 安宅 正幸(鳥取大学 平成12年卒)

外来診療／火曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医、専門医)
- ◆日本消化器外科学会(消化器がん外科治療認定医、専門医、指導医)
- ◆日本臨床外科学会
- ◆日本内視鏡外科学会
- ◆日本胃癌学会
- ◆日本大腸肛門病学会
- ◆日本乳癌学会
- ◆日本癌治療学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師

FIELD/専門分野

胃がん・大腸がん・乳がんといった悪性腫瘍のほか、胆嚢結石症・鼠径ヘルニアなどの一般外科や急性虫垂炎・急性胆嚢炎などの腹部救急に携わっています。安心・安全・低侵襲な手術を心掛けるほか、術後フォロー、薬物療法、緩和ケア、訪問診療といった分野にも幅広く力を投入しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

平素より大変お世話になります。専門分野によらず、お力になれることがあればと思いますのでお気軽にご連絡下さい。

【実績】

疾患	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	症例	全摘/温存	症例	全摘/温存	症例	全摘/温存
乳がん	44	22/22	51	33/18	43	25/18
乳腺腫瘍	7		3		3	0/3
乳腺その他	1		1		0	

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
デジタルマンモグラフィ(3D)	5,659(3,323)	5,124(2,922)	5,217(2,600)
乳腺エコー(ABUS)	2,209(805)	2,689(751)	2,784(751)

【医師紹介】



外科部長 角 賢一(山口大学 昭和58年卒)(嘱託)

外来診療／火曜日・水曜日(新患のみ)・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医・専門医・指導医)
- ◆日本消化器外科学会(専門医・指導医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本乳癌学会(専門医・指導医)
- ◆日本臨床外科学会
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆介護支援専門員
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆乳房超音波読影認定医師

FIELD/専門分野

乳腺疾患:乳癌学会の専門医、マンモグラフィ読影医、乳房超音波読影医として、乳がん検診で精査が必要な方の精密検査を担当しています。また、乳がんの方の手術や化学療法も担当しています。

肛門疾患:内痔核に対するジオン注射や手術、直腸脱に対する経肛門的手術を施行しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

乳腺疾患や消化器疾患(肛門)の診断から治療までの診療に携わっています。

在宅診療にもかかり、患者さんやご家族のニーズに応えるようにしています。



乳腺外科部長 工藤 浩史(鳥取大学 昭和48年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日・水曜日 ドック健診センター：火曜日～木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本乳癌学会(専門医・指導医)
- ◆日本外科学会(専門医)
- ◆日本臨床細胞学会(細胞診専門医、教育研修指導医)
- ◆日本感染症学会(感染コントロール医)
- ◆日本人間ドック学会
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆日本乳癌検診学会

FIELD/専門分野

乳腺専門医および指導医として外来並びにドック健診センターで業務を担当し、乳がんの早期発見に日々努力しています。また、外来で発見された乳がんの手術や術前検査にも携わっています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院は乳腺専門医が2人いて、乳がん診断用機器も充実しているので、安心して患者さんをご紹介下さい。

アミノインデックス外来

【概要】

令和5年4月より、当院のドック受診者には、オプション検査としてアミノインデックス検査を追加、40名の方に受診いただきました。結果はレポートに記載させていただき、追加の検査が必要な方には、当院のアミノインデックス外来を受診いただき、精密検査を行わせていただきました。これまで、血中のアミノ酸濃度は各疾患によって変化することが知られていましたが、それを臨床応用する試みは行われていませんでした。現在、長年の研究結果から、血中アミノ酸濃度の変化から、がん、糖尿病、脳卒中・心筋梗塞の三大疾患に加え、認知症のリスクを評価できるようになりました。日本人の死亡原因は、がん、心疾患、脳血管疾患の順に高率で、糖尿病はこの三大疾患の主な原因の一つです。血中アミノ酸濃度の測定により、がん、糖尿病、脳・心疾患、認知症のリスクを知り、疾患の予防、早期発見、早期治療にお役立て下さい。がんの危険性に関しては、ランクAは通常の1/3、ランクBは通常の1.6倍、ランクCは通常の10倍のリスクを表します。

対象疾患

◆がん

男性 胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん
女性 胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん、卵巣がん

◆糖尿病

◆脳卒中・心筋梗塞
◆認知症

【実績】

平成30年4月～令和6年3月までの6年間に、当院のアミノインデックス外来、ならびにドック健診センターで検査を受けた方は189例であり、その判定結果は表1の示すように各がん腫のランクCの出現頻度は約10%でありました。この中で、がん発見例は大腸がん1例、甲状腺がん1例、前立腺がん2例、小腸がん1例、肺がん1例の6例であり、がん疑い病変は膵臓性腫瘍6例、肺がん疑い5例、膵胆管合流異常2例、甲状腺腫2例、膵腫瘍1例、小脳腫瘍1例、副腎腫瘍1例、胆嚢腫瘍1例、食道SMT1例、子宮頸部腫瘍1例、慢性膵炎1例の22例でありました。これらの症例の多くは、南部町での2400例の結果同様、ランクCが複数のがん腫に付いた症例であり、ランクCの数が多くなるほどがん発見率が高くなる傾向にありました(表2)。

表1 AICS判定結果

	n	ランクA	ランクB	ランクC
胃がん	189	120	41	28(15%)
肺がん	189	120	39	30(16%)
大腸がん	189	133	38	18(10%)
膵臓がん	189	143	31	15(8%)
前立腺がん	102	53	27	22(22%)
乳がん	87	59	20	8(9%)
子宮・卵巣がん	87	60	19	8(9%)
計	1,032	688	215	129(12%)

表2 ランクCの数とがん・がん疑発見率

ランクCの数	n	がん・がん疑発見数	がん・がん疑発見率
0個	117例	10例	10/117(6%)
1個	38例	7例	7/38(18%)
2個	19例	7例	7/19(37%)
3個以上	15例	4例	4/15(27%)
計	189例	28例	28/189(15%)

【医師紹介】



ドック健診センター長
外科部長

木村 修(鳥取大学 昭和52年卒)(嘱託)

外来診療／水曜日 ドック健診センター／月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医、認定登録医)
- ◆日本消化器外科学会(認定医、認定登録医、指導医、消化器がん外科治療認定医)
- ◆日本大腸肛門病学会(専門医、指導医)
- ◆日本人間ドック・予防医療学会(認定医、人間ドック健診情報管理指導士、暫定指導医)
- ◆鳥取県健康対策協議会西部胃がん・大腸がん検診読影会委員
- ◆難病指定医:身体障害者福祉法指定医(大腸、小腸)
- ◆医師卒後臨床研修指導医
- ◆中四国ストーマリハビリテーション研究会幹事
- ◆日本オスミー協会顧問医

FIELD/専門分野

これまでの多くの消化器疾患の外科治療、ならびにアミノインデックス検査の経験から、消化器疾患術後の方の経過観察、アミノインデックス検査を用いたがん、糖尿病、脳・心疾患、認知症のリスク判定、ならびにドック健診センターにおける生活習慣病予防、がんの早期発見に努めております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

アミノインデックス検査を用いたがん、糖尿病、脳・心疾患、認知症のリスク判定、ドック健診センターにおける生活習慣病予防、がんの早期発見に努めております。令和5年4月より、ドック健診センターの人間ドック健診におきましてもアミノインデックス検査をオプションとして開始いたしました。

腎臓外科(臓器移植)

【概 要】

移植患者、生体ドナーの定期外来と入院を中心に診療しています。米子市内はもとより、山陰両県や遠方からも受診されています。腎移植・膵腎同時移植患者の免疫抑制療法と拒絶反応の診断、がん健診を主とし、感染症、合併症、腎生検と拒絶反応治療は緊急入院で対応します。

外来では、一般血液・尿検査、感染マーカーの定期検査、免疫抑制剤の血中濃度測定と処方に加え、移植腎エコー、CT、MRAによる移植腎・膵の形態と血流評価、心機能評価、骨密度測定などをします。移植後糖尿病患者に対する内服・インスリン療法、骨粗鬆症の診断と治療、高齢患者の認知症と服薬対応、精神的支援も守備範囲です。入院患者では該当疾患の治療に加え、腎臓リハと栄養指導、さらに外来リハに継続して、長期生着と身体活動改善を目指しています。

維持透析患者では、透析条件の設定、定期検査・処方、自己血管や人工血管を用いたシャント手術、シャントトラブルに対応します。また、腹膜透析カテの挿入手術、腹膜透析導入も行います。

対象疾患

- ◆移植後免疫抑制療法(3剤併用または4剤併用による維持療法)
- ◆急性拒絶反応(腎生検診断、抗体療法、血漿交換など)
- ◆慢性拒絶反応
- ◆ウイルス感染症(CMV感染、BKV感染、帯状疱疹、ヘルペス感染、COVID-19感染、インフルエンザ感染など)
- ◆真菌感染症(カンジダ症、ニューモシスチス肺炎など)
- ◆細菌感染症(肺炎、腎盂腎炎、蜂窩織炎、胃腸炎など)
- ◆PTLD(抗がん剤治療)
- ◆移植後糖尿病(食事療法、運動療法、内服療法、インスリン注射)
- ◆ステロイド骨粗鬆症(骨密度検査、内服療法、注射など)
- ◆透析再導入(シャント作成、免疫抑制調整)
- ◆シャントトラブル(外科的シャント再建、グラフトシャント作成など)

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度
外来患者延数(人)	1,304	1,446
入院患者延数(人)	375	1,029
手術(件)	8	23

令和5年度は、外来延患者は1,446人。口唇ヘルペス1例、口腔内カンジダ症1例、CMV感染症1例、帯状疱疹2例、移植患者のCOVID-19感染11例でした。入院延患者は1,029人。FSGS再発1例、腎盂腎炎5例、下腿蜂窩織炎2例、移植後透析再導入1例、腎生検5例、拒絶反応治療4例、腹膜透析導入1例。手術件数23件。内シャント造設4例、人工血管シャント作成・置換10例、シャント瘤切除再建3例、外科的血栓内膜摘除術3例、感染グラフト摘出1例、腹膜透析カテ抜去1例、腹膜透析カテ挿入1例を行いました。

【医師紹介】



腎臓外科部長 杉谷 篤(九州大学 昭和58年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器外科学会(専門医、指導医、消化器癌外科治療認定医)
- ◆日本肝胆膵外科学会(名誉指導医)
- ◆日本透析医学会(透析専門医)
- ◆日本移植学会(評議員、移植認定医)
- ◆日本臨床腎移植学会(副理事長、腎移植専門医)
- ◆日本小児腎不全学会(理事)
- ◆日本・膵島移植学会(世話人)
- ◆日本臨床倫理学会(理事)
- ◆日本サイコネフロジー学会(代議員)
- ◆日本腎臓学会
- ◆日本腎臓リハビリテーション学会(腎リハ指導士)
- ◆移植腎病理研究会(幹事)
- ◆医師卒後研修指導医
- ◆外国医師臨床修練指導医
- ◆鳥取県難病指定医(専門医)

FIELD/専門分野

一般・消化器外科、移植外科(腎移植、膵移植)、血管外科、維持透析の診療を中心にしています。腎移植・膵移植患者と生体ドナーの定期外来で、免疫抑制療法と拒絶反応の診断、がん健診を主とし、感染症や合併症の治療、腎生検と拒絶反応治療、血漿交換療法、抗体療法は緊急入院で行います。また、透析患者のシャント造設、グラフト再建・置換、腹膜透析導入もしています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

この地域の移植患者、移植希望者、腎不全患者、透析患者さんのための診療と有益な情報提供を心掛けています。移植後の透析再導入、血液透析のシャントトラブル、腹膜透析導入など、気軽に声をかけて下さい。

整形外科(人工関節専門外来・骨粗鬆症専門外来・ペインクリニック)

【概 要】

昨今の人口高齢化を反映し、当科を受診される方も腰痛・膝痛など加齢による「変性疾患」が原因である場合が多く見受けられます。また、女性に関しては「骨粗鬆症」を基盤にした種々の病態のほか、骨粗鬆症関連骨折といわれる四肢・脊椎の骨折が増加する傾向にあります。一般整形外科診療としては、乳児・小児の先天性疾患や発育期の骨関節疾患、青壮年期の脊椎・関節疾患および外傷や骨折などの保存的・観血的治療を行っています。人工関節専門外来と骨粗鬆症専門外来では、それぞれの専門性を生かした治療を目指しています。患者さんのQOLを維持するために、痛みへの治療も行っています。

対象疾患

- ◆変形性腰椎症
- ◆腰椎椎間板ヘルニア
- ◆変形性頸椎症
- ◆脊椎骨粗鬆症
- ◆変形性関節症(股・膝・足など)
- ◆関節リウマチ
- ◆骨粗鬆症関連骨折(大腿骨近位部・上腕骨近位部・橈骨遠位端など)
- ◆閉経後骨粗鬆症
- ◆老年性骨粗鬆症
- ◆ステロイド骨粗鬆症
- ◆慢性腎臓病(CKD)・糖尿病など生活習慣病関連の骨粗鬆症
- ◆その他代謝性骨疾患
- ◆腰痛・下肢痛(坐骨神経痛、大腿神経痛)を引き起こす疾患(腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎変性すべり症)

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人工関節手術(膝・股・肩)数(件)	18	16	30
大腿骨近位部骨折手術(人工骨頭挿入術)数(件)	28	22	25
大腿骨近位部骨折手術(骨折観血的手術)数(件)	36	27	68
骨密度測定数(件)	1,224	1,413	1,632

【医師紹介】



副院長
整形外科主任部長

中村 達彦(鳥取大学 昭和61年卒)

外来診療／火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本整形外科学会(専門医、認定運動器リハビリテーション医、認定リウマチ医)
- ◆日本骨代謝学会
- ◆日本骨粗鬆症学会
- ◆日本骨折治療学会
- ◆日本医療マネジメント学会

FIELD/専門分野

乳児から超高齢者まで整形外科疾患全般に広く診療しています。股関節開排制限のある乳児に対してはレントゲン検査の他、超音波検査を行い脱臼の有無を調べ、その結果に沿った治療を進めてまいります。骨粗鬆症に対してはDXA装置を用いた骨密度測定結果と血液検査による骨代謝マーカー測定結果を参考にして最適な治療法を選択しています。関節リウマチに対しては必要に応じて生物学的製剤を使用し寛解を目指します。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんに喜ばれるような医療を心がけています。骨粗鬆症治療の病診連携を引き続き行ってまいります。他にお困りの症例があれば遠慮なくご紹介下さい。

整形外科部長 根津 明菜(久留米大学 平成21年卒)

外来診療／月曜日・水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

◆日本整形外科学会(専門医)



FIELD/専門分野

打撲、捻挫、骨折などの外傷、腰痛、神経痛、関節痛など整形外科一般疾患の診療を行っています。骨粗鬆症による脆弱性骨折の場合は、骨粗鬆症の治療も行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

痛みの改善や関節機能の回復を出来るだけ早期に行えるよう、患者さんの希望に寄り添って丁寧な診療を行いたいと思います。

整形外科部長 三木 純(山口大学 昭和55年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

◆日本整形外科学会(専門医、認定運動器リハビリテーション医)

FIELD/専門分野

整形外科全般の外来診療を行っています。痛みを抱えて生活することは心身に大きなストレスを与えます。痛みの原因を調べて、患者さんに分かりやすく説明し、納得いただいた上で治療方針を決定するように心がけています。糖尿病患者の骨粗鬆症など他疾患との関連も確認しながら診療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

長年続く腰や下肢の痛みなどでお困りの患者さんがおられましたら、お気軽にご相談、ご紹介下さい。

非常勤 外来担当

医療法人元町病院病院長 奥野 誠(外来診療／金曜日)
野島病院整形外科医師 岸本 英彰(外来診療／月曜日)

非常勤 手術・外来担当

鳥取大学整形外科助教 三原 徳満(外来診療／水曜日)

産婦人科

【概 要】

当院の産婦人科は良性の婦人科疾患の精査と治療、がん検診の精密検査と治療、また最近では思春期・更年期など女性特有の症状に対するいわゆる女性医療にも、最新、最善の治療を受けていただけるよう日々努力しています。婦人科良性腫瘍では、腹腔鏡、子宮鏡を用いた低侵襲での縮小手術を心がけており、また悪性腫瘍に対しては迅速で確かな診断に努め、治療を主に鳥取大学病院へ繋いでいます。産科診療については分娩は取り扱っておりませんが、初期の診察、健診は行っており、適時に分娩医療機関に連携しています。

対象疾患

- ◆ 良性疾患—子宮(子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、子宮腺筋症、子宮内膜症) 卵巣(卵巣のう腫、チョコレート嚢胞など) 卵管(卵管留水症、卵管膿瘍、子宮外妊娠) 外陰(外陰腫瘍、バルトリン腺膿瘍など)
- ◆ 悪性疾患—子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの診断や検診
- ◆ 骨盤臓器脱—子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤
- ◆ 生殖・内分泌異常—不妊症の検査と治療(人工授精まで)、思春期の月経異常、月経困難症、月経前症候群、更年期症候群など

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総手術数(件)	141	162	156
子宮全摘術(開腹)	20	13	24
腹腔鏡下手術	20	33	38
子宮鏡下手術	42	43	38
子宮脱手術(膣式)	19	22	16
子宮頸部円錐切除術	30	36	26

【医師紹介】



産婦人科主任部長 片桐 千恵子(鳥取大学 平成元年卒)

外来診療／月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆ 日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆ 日本女性医学学会(女性ヘルスケア専門医)
- ◆ 日本生殖医学会
- ◆ 日本産科婦人科内視鏡学会
- ◆ 日本女性心身医学会(認定更年期指導士)
- ◆ 臨床研修指導医研修修了
- ◆ 母体保護法指定医
- ◆ 日本スポーツ協会公認スポーツドクター

FIELD/専門分野

一般婦人科疾患、不妊症検査と治療、女性内分泌変化による思春期、更年期の諸症状、女性アスリートの健康支援、性に関するトラブルと疾患(性被害、性感染症、性教育など)

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

思春期や更年期など女性特有の症状について、予約制のみの外来も設けています。お役に立てることがあればご相談下さい。



産婦人科部長 下雅意 るり(鳥取大学 平成13年卒)

外来診療／火曜日・水曜日・木曜日(交代)

所属学会・専門医情報

- ◆日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆日本臨床細胞学会(専門医)
- ◆日本女性医学学会
- ◆日本婦人科腫瘍学会
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
- ◆緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
- ◆母体保護法指定医

FIELD/専門分野

婦人科腫瘍を専門としており、特にがん検診やHPVワクチンの啓発、早期受診の勧奨などががん予防に取り組んでいます。
その他、子宮筋腫や卵巣腫瘍といった良性疾患では、それぞれのライフスタイルを考慮した治療法をご本人と共に考え、選択していきます。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

年齢に関わらず全ての女性の健康をサポートするのが産婦人科医です。月経痛や月経不順、更年期症状、その他の不安を1人で悩まず、まずはお話だけでもOKです。「いつでも・誰でも」、お気軽にご相談下さい。



産婦人科部長 石原 幸一(鳥取大学 昭和56年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日(午後)・水曜日(午後)・木曜日(交代)・金曜日(午前)

所属学会・専門医情報

- ◆日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆日本産婦人科手術学会
- ◆日本婦人科腫瘍学会
- ◆日本臨床細胞学会
- ◆母体保護法指定医
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆厚生労働省緩和医療研修修了

FIELD/専門分野

子宮筋腫や卵巣腫瘍また増え続ける子宮内膜症など女性特有の疾患をできるだけ早期に診断するよう心がけております。そして保存的治療から子宮鏡や腹腔鏡を用いた内視鏡下手術まで患者さんにとって一番適切な治療を提供できるように日々の診療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

早急な治療が必要な患者さんに対応できるように十分な手術枠を確保してしております。いつでもお気軽にご紹介下さい。

麻酔科

【概 要】

当院麻酔科は、常勤専門医1名、非常勤専門医1名、大学麻酔科からの応援により手術麻酔を担当しています。人口の高齢化、手術技術の向上、低侵襲手術の増加により、手術適応年齢も高齢化しており、麻酔管理の困難な症例が増えていますが、全例を麻酔科専門医が管理しており、安全な周術期を提供しています。

対象疾患

◆手術室で行われる各科手術

◆造影室、レントゲン室で行われる手術、処置

【実 績】

麻酔別手術件数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
全身麻酔	605	556	518
脊硬麻	17	22	23
静脈麻酔	2	1	0
局所麻酔	179	203	251
総 数	803	782	792

【医師紹介】



麻酔科部長 多喜 小夜(鳥取大学 平成3年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本麻酔科学会(専門医、指導医)
- ◆日本産科麻酔学会
- ◆日本障害者歯科学会
- ◆日本臨床麻酔学会
- ◆厚生労働省麻酔科標榜医

FIELD/専門分野

各科手術の麻酔管理(全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔など)を行っています。術前診察から患者さんにかかわり、術前の全身状態を踏まえたうえで麻酔計画を立て、安全な周術期管理を心がけています。また、鳥取県立総合療育センターにおける障がい児(者)の全身麻酔下歯科治療の麻酔管理を出張で行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

少ないマンパワーではありますが、スタッフと協力して緊急手術にも速やかに対応しています。安全で快適な周術期の提供に努め、地域の皆様に信頼していただける医療を提供していきます。

非常勤 手術援助

鳥取大学麻酔科医師 廣澤 壽一

放射線科

【概 要】

各診療科や医院、病院からの依頼に応じて画像検査を行いその結果を画像診断報告書として報告しています。その際に進化したAI(人工知能)を用いた画像診断補助システムを利用しています。依頼された検査のみで診断がつかない場合は、追加の必要な検査を提示し、早期に的確な治療へと結びつくように努力しています。また、画像診断装置を利用したIVR(インターベンショナルラジオロジー)という治療を行っています。対象疾患は全身に及びます。

対象疾患

◆肝腫瘍

◆透析シャントトラブル

◆中心静脈ポート留置

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
IVR(件)	70	94	100

【医師紹介】



放射線科部長 中村 希代志(鳥取大学 平成3年卒)

外来診療／月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本医学放射線学会(放射線診断専門医)
- ◆日本インターベンショナルラジオロジー学会(IVR専門医)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医
- ◆日本消化器病学会

FIELD/専門分野

頭部・胸部・腹部を中心とした全身の画像診断をCTとMRIを用いて行っています。また、透析シャントトラブルに対するバルーンカテーテルを用いた経皮経管的治療や中心静脈ポート留置等の低侵襲的治療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

博愛病院ではAI(人工知能)を用いた画像診断補助システムを胸部X線検査と頭部・胸部・腹部CTに導入し、見落としがなく精度の高い画像診断報告書の作成を心がけています。

非常勤 外来担当 外来診療／月曜日・金曜日

鳥取大学放射線科 鎌田 裕司

鳥取大学放射線科 川口 萌

眼科

【概要】

人間の五感のうち、視覚から得られる情報量は80%以上と言われています。特にパソコンやスマートフォンが普及した現代においては、QOLを守るため、視機能を維持することは大変重要となります。高齢化社会に伴って、白内障・緑内障・糖尿病網膜症・加齢黄斑変性などの疾患が増加しています。眼科は視機能を守るお手伝いをさせていただいております。令和5年度より山崎医師が赴任し、当院で硝子体手術を開始いたしました。糖尿病網膜症、黄斑前膜、黄斑円孔、硝子体出血、網膜剥離などの症例に対応可能となりました。外来は平日の午前診療および月曜水曜の午後で眼科一般を診療しております。手術は火曜と木曜の午後、主に白内障手術と硝子体手術、硝子体注射（抗VEGF療法）を行っています。

対象疾患

◆ドライアイ ◆角膜炎 ◆ぶどう膜炎 ◆白内障 ◆緑内障 ◆糖尿病網膜症 ◆加齢黄斑変性症 ◆網膜静脈閉塞症等

【実績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者延数(人)	4,377	4,450	5,259
入院患者延数(人) ※退院含む	277	268	356
白内障手術(件)	124	133	171
硝子体手術(件) ※令和5年10月～	—	—	10

【医師紹介】



眼科主任部長 山崎 厚志(鳥取大学 昭和61年卒)

外来診療／月曜日(午後)・火曜日(午前)・水曜日(午後)・木曜日(午前)

所属学会・専門医情報

- ◆日本眼科学会(専門医)
- ◆日本眼科医会
- ◆日本眼科手術学会
- ◆日本網膜硝子体学会
- ◆埼玉医科大学総合医療センター眼科客員教授
- ◆難病指定医
- ◆小児慢性特定疾病指定医
- ◆PDT認定医

FIELD/専門分野

身近な眼の病気から難しい疾患まで幅広く診療しております。特に網膜の疾患(糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、黄斑疾患、視神経疾患)の診断・治療を専門にしております。最新の設備を導入し、更に研鑽を重ねることで、信頼され安心できる医療を目指しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

鳥取大学病院眼科で約20年勤務した後、関東の大学病院に勤務し、令和5年に米子に帰ってきました。患者さんの眼の専門医として、地域の皆様の眼の健康維持のお役に立てるように一層の努力をまいります。



眼科部長 小松 恵子(鳥取大学 平成13年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日(午前)・水曜日(午前)・金曜日(午前)

所属学会・専門医情報

- ◆日本眼科学会(専門医)
- ◆日本眼科医会

FIELD/専門分野

角結膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症等、眼科一般を診療しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

山崎医師を迎えて2人体制となり、網膜硝子体の疾患にも対応させていただいております。引き続き患者さんの視機能を守るため尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小児科

【概 要】

小児リハビリテーションで、発達障害などがある児に対し作業療法・言語聴覚療法を行います。

平成27年11月から発達障害児に対するリハビリテーションを行っています。運動面やコミュニケーションなどについて、それぞれの児の発達に応じて療法士が個別に対応しています。

まず、「博愛こども発達・在宅支援クリニック（以下クリニック）」を受診していただきます。クリニックからの紹介で、病院の小児リハビリテーション外来を受診していただき診察いたします。（クリニック・病院いずれも予約制です。）クリニックでは経過を診察し、病院ではリハビリテーションの実施計画を立て指示を出し、作業療法・言語聴覚療法を行います。

定期的にクリニック脳神経小児科医・病院小児リハビリテーション担当医・療法士でカンファレンスを行い、クリニックと病院とで発達支援の連携を図っています。

対象疾患

◆広汎性発達障害

◆自閉症スペクトラム障害

◆注意欠陥多動障害

◆言語発達遅滞

◆知的障害

◆ダウン症候群など

非常勤 外来担当 外来診療／月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

博愛こども発達・在宅支援クリニック小児科部長 福永 真紀

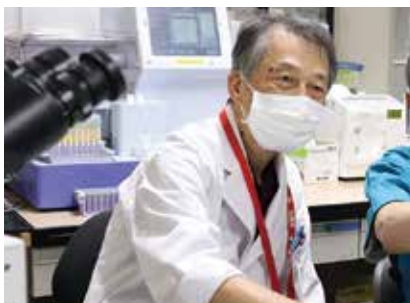
臨床検査科

【概 要】

臨床検査科は、各診療科と臨床検査部を繋ぐ橋渡しの役割を担い、診断・治療に貢献する診療科です。測定された検査データを解析し、臨床的に有用な付加価値を付けて臨床医に報告しています。また患者生命に関わる極めて異常な検査データの場合、そのデータが正しい値かどうかの判定を行った上で、速やかに各診療科に報告する体制で運用を行っています。

業務内容 1) 臨床検査の診断支援 2) 検体検査の品質管理 3) 院内検査に用いる機器及び試薬の管理
4) 臨床検査部の管理、運営 5) 臨床検査部部員の指導、教育、育成

【医師紹介】



臨床検査科部長 鶴原 一郎（鳥取大学 昭和45年卒）（嘱託）

臨床検査科業務／月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会（認定内科医）
- ◆日本消化器病学会（専門医）
- ◆日本消化器内視鏡学会（専門医）
- ◆日本消化器がん検診学会

FIELD/専門分野

定年までは消化器病の診療、検査等に従事していましたが、現在は臨床検査科の支援を中心に行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

検査結果の判断の補助を行うとともに、臨床検査全般の管理、運営並びに院内検査に用いる検査機器及び試薬の管理を担当しています。また検査部員の指導、教育、育成にも携わり臨床検査部全体の質の向上を目指しています。

非常勤医師による専門外来

診療日

診療科目		月	火	水	木	金
血液内科	午前診	—	—	—	鳥取大学医師 (第1,3,5)	—
皮膚科	午後診	—	—	—	鳥取大学医師 (診療:14時～)	—
泌尿器科	午前診 (受付:11時まで)	鳥取大学医師 (診療:9時30分～)	—	—	鳥取大学医師 (診療:9時30分～)	宮川 征男

血液内科

診察内容

血液疾患全般について外来診療を行っております。当院で検査後、必要に応じて鳥取大学医学部附属病院に紹介し、連携を図っています。

対象疾患

◆各種貧血 ◆骨髄増殖性腫瘍 ◆悪性リンパ腫 ◆慢性白血病 ◆急性白血病

医師紹介

鳥取大学血液内科教授 河村 浩二

皮膚科

診察内容

一般皮膚疾患について外来診療を行っております。
当院で精査および治療完遂が難しい場合は、鳥取大学医学部附属病院に紹介し、連携を図っています。

対象疾患

◆湿疹・皮膚炎(アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、かぶれ等)
◆皮膚感染症(水虫、とびひ、いぼ等) ◆じんま疹 ◆ざ瘡他

医師紹介

鳥取大学皮膚科 宮本 達志
鳥取大学皮膚科 國岡 順子

泌尿器科

診察内容

尿路性器腫瘍、排尿障害、尿路性器感染症を中心に泌尿器疾患全般について外来診療を行っております。腹部超音波検査、膀胱鏡検査、CT検査、MRI検査、尿路造影検査など、泌尿器科外来で行われる主要検査の全てが実施可能な体制を整えており、尿管ステント留置など緊急に必要な処置も行っております。また、鳥取大学医学部附属病院など、近隣の総合病院と緊密な連携をとっており、手術や検査などで入院治療が必要な場合には、適切な施設に紹介させていただいております。

対象疾患

◆尿路性器腫瘍(前立腺がん、膀胱がん、腎がんなど)
◆排尿障害(尿失禁、前立腺肥大症など)
◆尿路性器感染症(膀胱炎など) ◆尿路結石症 ◆副腎疾患 ◆後腹膜疾患 ◆男性不妊
◆男性性機能障害 ◆尿路性器先天性疾患

医師紹介

鳥取大学泌尿器科准教授 本田 正史
鳥取大学泌尿器科 前川 高熙
鳥取大学名誉教授 宮川 征男

救急診療体制

【概 要】

地域の期待と信頼に応えるため、職員一丸となって断らない救急医療を目指しております。日中の救急患者の対応は、地域連携室を窓口にして各診療科で行っています。夜間、休日は、医師1名、看護師1名で救急患者の対応を行っています。診療科ごとに待機医師を設け、必要時には連絡を取って専門的な救急診療が提供できるように努めています。薬剤師、放射線技師、検査技師についても待機体制を取っており、必要時には呼び出して諸検査等に対応することが可能です。

目標(BSC重点施策)

1. 救急患者トリアージマニュアルの適切な使用の推進と、必要があれば修正を行う
2. 必要に応じて、救急疾患対応ガイドラインの見直しや追加作成を行う
3. 救急疾患に対する勉強会の開催
4. 救急委員会で毎月の受け入れ率や受け入れ不可の理由等の検討を継続する

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
時間外・休日患者数	3,499	4,020	3,580
時間外・休日入院患者数	384	406	423
救急車受入数(終日)	1,444	1,538	1,679
時間外・休日救急車受入数	931	1,011	1,073

救急診療情報

鳥取医療情報ネット宿日直情報より
救急診療の情報が確認できます。



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

診療科は限られていますが、お困りの急患対応を出来るだけ行ってまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

看護部

【理念・基本方針】

看護部は「すべての人々の生命と人間としての尊厳を守り、地域に根ざした患者中心の看護を提供する」を理念として、患者の人格・権利を尊重した個性のある看護、科学的・倫理的判断による質の高い看護、予防・救急・在宅医療へと継続性ある看護を目指しています。

令和5年度は担当看護師が主体となり、多職種と連携した退院支援に全病棟が取り組み、患者・家族の望む退院に尽力しました。

目標(BSC重点施策)

令和5年度

「患者・チーム・看護職のもつ力を統合した看護の実践」

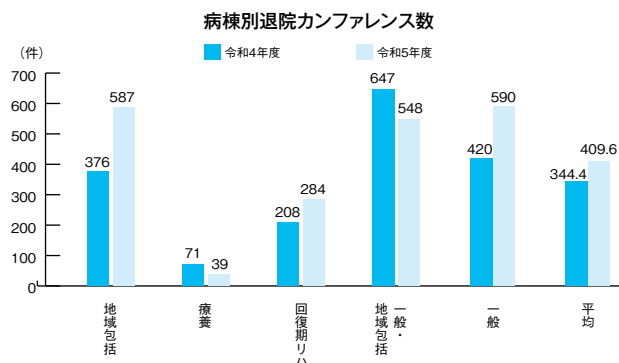
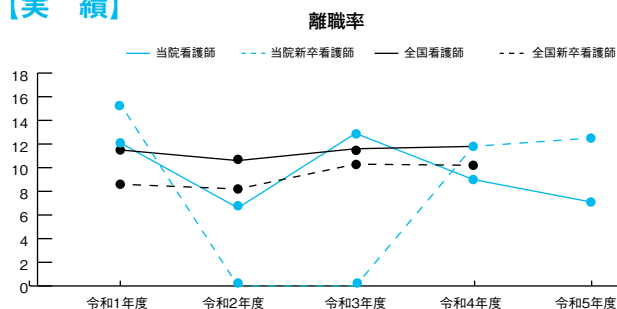
1. コミュニケーションスキルを活用した高齢患者の意思決定支援
2. 高齢患者のもつ力を支援するADLの維持・回復
3. 担当看護師による患者・家族の望む退院支援

令和6年度

「看護師の自信とやりがい感を高める看護の実践」

1. 指導者育成による看護実践能力の向上
2. 看護職のやりがい感を高める業務改善
3. 病院機能評価の更新

【実績】

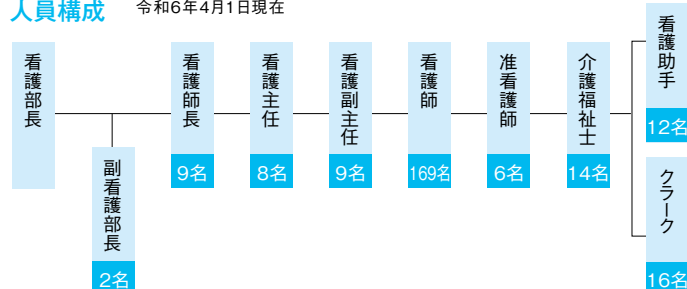


【組織・人員構成(看護体制)】

看護部管理室

看護部長／中村真由美
副看護部長／足塚則子
副看護部長／竹仲美奈子

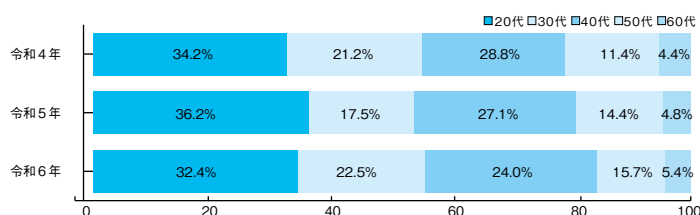
人員構成 令和6年4月1日現在



看護体制

- 2階病棟 51床 地域包括ケア病棟 (13:1)
- 3階A病棟 38床 療養病棟 (20:1)
- 3階B病棟 30床 回復期リハビリテーション病棟 (15:1)
- 4階A病棟 25床 一般病棟
- 4階B病棟 39床 一般病棟 (10:1)
- 外来
- 手術室・中央材料室
- 透析室
- 訪問看護ステーション博愛

年度別看護師年齢構成



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

多職種チームと連携して高齢患者さんのADLの維持・回復に努め、患者参画カンファレンスにより患者さんの意思決定を支援しています。

外来看護

【概 要】

当院外来は、幅広い診療科において看護を展開しています。内視鏡室、ドック健診センター、化学療法室、血管造影室、訪問診療など様々な分野で患者さんが安心して安全に検査・処置・治療を受けていただけるように努めています。さらに、乳がん看護認定看護師や糖尿病療養指導士、内視鏡技師を配置しておりそれぞれの分野の専門性を活かして看護を提供しています。特に昨年度からはACPへの取り組みに力を入れています。自分の人生を生ききるために、またもしもの時に望むケアが受けられるように元気なうちに前もって話し合ってもらうための「すまいるノート」を作成し活用しています。患者さんに寄り添った看護の提供を目指しスタッフ一丸となり取り組んでいます。

目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 患者・家族の心に届く看護の実践
ACPノート(博愛すまいるノート)を活用した継続看護
2. 救急看護に対応できるチーム医療の実践

令和6年度

1. 切れ目のない外来継続看護の実践
2. 業務改善による患者満足度の向上
(中央採血化、処置室の細分化による採血待ち時間短縮を目指す)

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
在宅療養指導数(件)	14	20	19

がん相談外来	令和3年度	令和4年度	令和5年度
看護介入数(件)	379	185	132
がん患者指導管理料(イ)	108	83	70
がん患者指導管理料(ハ)	53	—	—
がん患者指導管理料(ロ)	5	17	30
がん患者指導管理料(二)	—	2	5

【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／西川厚子

人員構成

看護師(育休3名含む)……………27名
准看護師……………1名
乳がん看護認定看護師……………1名
日本糖尿病療養指導士(看護師)……2名
消化器内視鏡技師(看護師)……5名
看護助手……………2名
クラーク(育休2名含む)……………11名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんが自分らしく住み慣れた場所で暮らせるように多職種で連携し必要な人に必要な在宅療養支援が提供できるよう努めてまいります。

2階病棟(地域包括ケア病床)

【概 要】

急性期治療を終えた患者さんの継続的治療やリハビリテーションを行い、在宅復帰の支援を行っています。また、在宅にて療養されている方の入院受け入れを行っています。治療後、引き続き在宅療養へ戻れるよう、退院後の生活のイメージを共有し方向性を患者さん・家族と検討し医療チームで情報共有しています。また、退院前は必要な社会資源を活用できるように、当院の医療スタッフや在宅支援スタッフと共に自宅退院に向けた支援を行っています。昨年度は、日常生活動作の維持向上を図るため、看護師が主体となり、病棟内で実施する「自立支援リハビリ」に取り組み、在宅復帰率の向上に努めました。

目標(BSC重点施策)

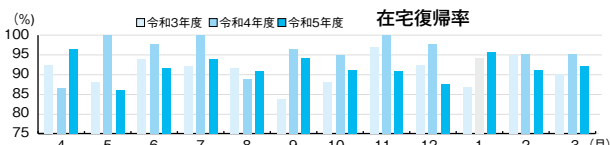
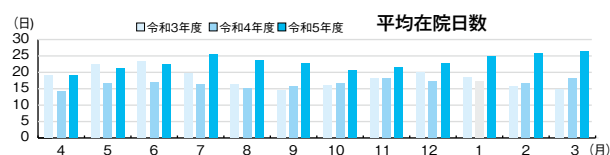
令和5年度

1. 看護師が患者・家族の望む退院に向け、いきいきと関わる退院支援
2. 患者・看護師がともにわくわく(work work)する業務改善
(患者にかかわる時間を増やし時間外を減らす)

令和6年度

1. 地域包括看護師の専門性を発揮し、生活に繋げる支援の実践
2. 前向きな心を育て、やりがい感につなげる看護の実践

【実 績】



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／藤居貴子

人員構成

看護師……………29名
(育休2名含む)
入退院支援看護師……………1名
介護福祉士……………2名
看護助手……………2名
クラーク……………1名
理学療法士……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域包括ケア病棟では患者さんが住み慣れた生活に安心して戻れるよう、患者さんと共に退院後の生活を意識した看護展開を行っています。

3階A病棟(療養病床)

【概要】

急性期の治療を終え、引き続き医療の必要性が高く病院での入院療養が継続的に必要な患者さんにご利用いただく病床です。令和5年度は多職種で協力し、長期療養中の医療度の高い患者さんに対し車椅子への離床やお散歩の実施等気分転換活動に取り組みました。今後も引き続き患者さん・ご家族の希望に沿った看護・介護を実践していきます。

【受け入れ可能な医療処置】人工呼吸器、気管カニューレ留置酸素療法、喀痰吸引、血液透析、中心静脈栄養、末期の悪性腫瘍、褥瘡、胃瘻などの経腸栄養など。※人工呼吸器は人数制限、条件あり

目標(BSC重点施策)

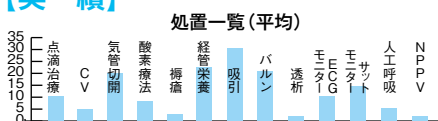
令和5年度

- 業務改善に取り組み、仕事への意欲を向上させる
- 担当看護師が中心となり患者・家族の望む退院支援を行い、在宅復帰を推進する

令和6年度

- 呼吸器関連の知識を高め、病棟全体の実践能力が向上し、スタッフの自己肯定感を高める
- その人らしさを共に考え、QOLを高める看護実践により患者・家族の満足度が向上し、スタッフのやりがい感につなげる

【実績】



退院内訳	令和3年度	令和4年度	令和5年度
自宅	30	29	13
死亡	60	21	39
病院	2	0	0
特養	0	0	1
老健	1	3	1
有料施設	3	3	1
介護医療院	1	1	1
合計	97	57	55

【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／池嶋美緒

人員構成

看護師……………19名
緩和ケア認定看護師……………1名
入退院支援看護師(兼務)……………1名
介護福祉士……………6名
看護助手……………1名
クラーク……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

3A病棟(療養病床)は『やさしく寄り添う看護と介護』を目標に多職種がチームを組み、専門知識を活かした医療・日常生活援助や、希望に沿った退院支援を目指す等様々な取り組みをしています。各職種の専門知識を活かし、医療度が高く引き続き入院が必要な患者さんに対し安心安全な療養生活を支援していきます。

3階B病棟(回復期リハビリテーション病床)

【概要】

脳血管疾患や大腿骨骨折などの発症から急性期治療を終えた患者さんを対象に、入院中から在宅復帰・社会生活復帰を目指して、専門職によるチームでリハビリテーションを実施しています。脳卒中再発予防指導や、ご自宅で介護をされるご家族を対象に介護指導教室を開催すると共に、定期的にカンファレンスを開催し、退院後の生活が維持できるよう支援も行っています。

目標(BSC重点施策)

令和5年度

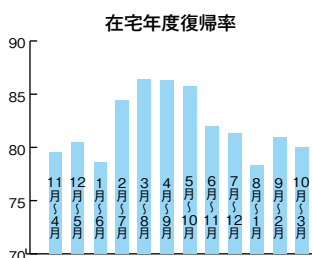
- 回復期リハビリテーション看護の知識を習得し、新たな看護実践によって患者の機能を回復させる
- 退院調整能力を磨き、患者、家族の望む退院後の生活を支援する

令和6年度

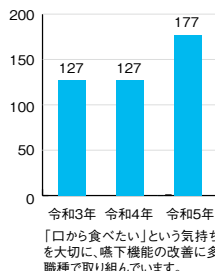
- 新たなリハビリ看護実践の習得と実践能力の向上により、患者の機能回復を目指す
- 働きやすい職場環境を整備し、スタッフの自己効力感を向上させる
- 病院機能評価に向け、個々の役割を認識し、協力し合って認定を取得する
- SDGsに取り組み、経費削減と再生可能な資源を有効に活用する

【実績】

令和5年 脳卒中地域連携バスの運用件数
鳥取大学15件、労災病院3件



摂食機能療法加算
(月平均件数)



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／細田友加

人員構成

看護師……………14名
入退院支援看護師(兼務)……………1名
准看護師……………2名
介護福祉士……………8名
クラーク……………1名
理学療法士……………6名
作業療法士……………6名
言語聴覚士……………3名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんと一緒に立てた目標に向かってカンファレンスを行い、再発予防やADLの改善に努めています。毎週日曜日には歌やゲーム等を取り入れ、楽しみながら病棟リハビリを行っています。

4階A病棟（一般病床、地域包括ケア病床）

【概要】

急性期一般病床の中で、令和5年10月より地域包括ケア病床を8床から16床へ増床しました。多職種との連携強化を図りながら安心して生活できるよう支援に力を入れています。急性期においては整形外科を中心とし、特に高齢者の骨折が多く入院後の慣れない環境において安全を考慮しながら身体拘束解除に向けて取り組んでいます。パート看護師・介護福祉士の採用もあり看護ケアの面でも充実してきました。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

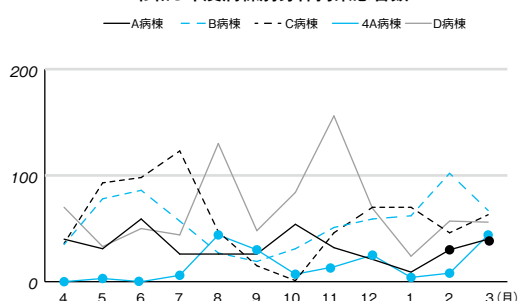
1. 地域包括ケアシステム（医療と介護の連携をはかるシステム）の中で、患者・家族とともに考え多職種と協働し受け持ち看護師が中心に退院支援することができる
2. メンバー全員が意見を言いやすい職場風土をつくり、風通しの良い職場を作る
3. リアリティ・オリエンテーションとタクティールケアの実践と身体抑制時間を減らしせん妄予防をすることができる

令和6年度

1. 患者家族と共に考え多職種と協働し受け持ち看護師が中心に退院支援することができる
2. 柔軟な業務体制を構築し労働環境を改善する
3. 病棟全体で学習することで知識の底上げと個々のスキル向上を目指す

【実績】

令和5年度病棟別身体拘束患者数



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／山崎博美

人員構成

看護師 32名
 （産休・育休4名含む）
 入退院支援看護師 1名
 介護福祉士 1名
 看護助手 3名
 クラーク 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

症状の改善はもとより、患者さんとの情報提供を密にし患者さん・ご家族の望む療養環境の調整と一緒に考えサポートしていきます。

4階B病棟（一般病床）

【概要】

外科・婦人科・内科を中心に、急性期病棟として周手術期や緊急入院の患者さんを受け入れています。また腎移植後の患者さんの受け入れも始まり、腎生検や血漿交換、透析管理といった対応をしています。多岐にわたる疾患・処置に対処しながら、高齢患者さんの入院に対しても、本人・家族の意向を確認しながら元の生活に戻るよう多職種で話し合い調整を行っています。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

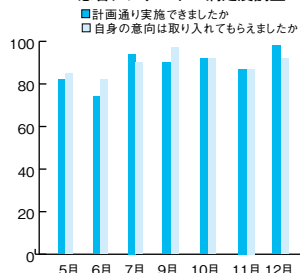
1. 患者の意向を汲み取り、患者・家族の思いを反映させた退院支援を行う
2. 急性期患者に対し、看護師一人ひとりのスキルを高める

令和6年度

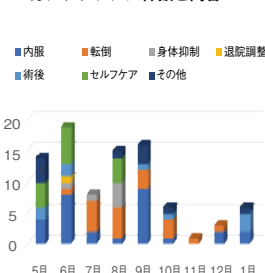
1. 患者の意向を汲み取り、患者・家族の思いを反映させた退院支援を行う
2. 急性期患者に対し、看護師一人ひとりのスキルを高める

【実績】

患者アンケート：満足度調査



カンファレンス件数と内容



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／加藤美樹

人員構成

看護師 28名
 （育休1名含む）
 入退院支援看護師 1名
 准看護師 1名
 看護助手 3名
 クラーク 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんの意向を聞きながら、元の生活に1日でも早く戻れるよう入院生活を支えていきます。退院後の生活について地域の皆様と協力していきたいと思ひます。

手術室

【概 要】

手術室部門は、外科系各科（消化器外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、腎臓外科、眼科）医師、内視鏡手術やペースメーカー植え込み術を行う内科医師、麻酔科専門医、看護チームで構成され、さらに臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師など、各部門が連携して手術業務を行っています。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

1. 看護師の安全意識を向上しアクシデントゼロを目指す
2. 部署内の教育体制を充実させることにより看護師の満足度が向上する

令和6年度

1. 部署内の看護の質を向上させる活動により看護師のやりがい感が向上する
2. 5S活動を行い業務改善をすることで看護師の満足度が向上する

【実 績】

各科手術件数

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外 科	291	248	196
整形外科	211	202	200
産婦人科	169	162	156
血管外科	0	0	—
眼 科	124	151	203
麻 酔 科	0	0	10
内 科	8	11	6
腎臓外科	—	8	21
総 数	803	782	792

【スタッフ紹介】

責任者

室長／多喜小夜
看護師長（透析室兼務）／渡邊卓

人員構成

医師 2名
（うち1名は非常勤）
看護師 7名

所属学会※医師以外

日本手術看護学会 3名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

手術が必要となった患者さんがスムーズに手術を受けられるよう、手術スケジュールを組んでいます。また、感染予防、事故防止など、スタッフ一丸となって取り組んでいます。

透析室

【概 要】

透析室は医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士など多職種がチームとなり、透析患者と家族が安心・安全な透析医療を受けていただけるような環境を目指しています。透析患者も高齢化がすすむ中、無料の送迎サービスだけでなく、必要時看護師の同乗や福祉タクシーとも連携し、外来通院のサポートも行っています。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

1. 透析看護の知識を向上させ、より個別性のある生活指導が実践できる
2. 透析室の心理的安全性を高め働きやすい職場環境を醸成する

令和6年度

1. 災害に対する安全意識の向上
2. 透析室看護師のやりがい感向上

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
透析数（回）	6,510	6,926	5,900

【スタッフ紹介】

責任者

室長／田中保則
看護師長（手術室兼務）／渡邊卓

人員構成

医師 2名
看護師 10名
臨床工学技士 5名
看護助手 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

透析医療が必要な様々な病期の患者さんに対応できる施設です。シャント造設から維持透析、退院後の外来通院のサポートも充実しています。地域に密着した透析室を目指しています。

内視鏡室

【概要】

当院は日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されており、指導医、専門医を中心に、消化器内視鏡検査と治療を行っています。内視鏡室には5名の看護師が配属されていますが、この度、学会の認定する消化器内視鏡技師の資格を全員が取得できました。呼吸器内科医師による気管支鏡検査や、嚥下機能評価研修を修了した脳神経内科医師による内視鏡を用いた嚥下機能評価も行っています。

目 標

1. 質が高く、苦痛の少ない、上部・下部消化管や胆膵領域の内視鏡検査と治療、気管支鏡検査、嚥下内視鏡検査を継続します。
2. 新型コロナウイルス感染症等の院内感染を起こさないよう、十分な感染対策を行ったうえで内視鏡検査を行います。

【実績】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
上部消化管内視鏡検査	4,699	4,511	4,770
下部消化管内視鏡検査	1,102	979	960
内視鏡的逆行性胆管造影	61	57	51
気管支鏡検査	20	5	10
嚥下内視鏡検査	37	22	15

【スタッフ紹介】

責任者

室長／濱本哲郎

人員構成

医師 …………… 11名
(消化器、呼吸器、脳神経内科を含む)
看護師 …………… 5名
看護助手 …………… 1名

認定資格※医師以外

消化器内視鏡技師…………… 5名

所属学会※医師以外

日本消化器内視鏡技師会 …… 5名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

上部・下部消化管、胆膵、呼吸器、嚥下機能評価など、幅広い領域の内視鏡検査と治療を行っていますので、お気軽にご相談下さい。

化学療法室

【概要】

化学療法室は、外来通院で抗がん剤や生物学的製剤の点滴治療を受ける患者さんを対象に活動しています。認定看護師を含む4名の看護師が交代で常駐し、副反応への対応などに配慮し、治療を安全かつ快適に受けていただけるよう心がけています。テレビの設置など快適に治療を受けていただけるようなアメニティーも充実させています。

目 標

1. ガイドラインや学会報告などを参考に、引き続き2カ月に1回、レジメン内容の見直しや不要なレジメンの削除を行っていく。
2. 副作用対策の強化内容を入れていく。
3. 免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象の早期発見と対策の整備を行う。

【実績】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
化学療法数(件)	521	549	423

【スタッフ紹介】

責任者

室長／近藤亮

人員構成

医師…………… 1名
看護師…………… 4名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

心理的なフォローも心がけ、傾聴し、心療内科紹介も行っています。日々新たな知識を獲得し、患者さんに安心かつ快適に治療を受けていただけるよう取り組んでいます。

ドック健診センター

【概 要】

人間ドックとは、船が定期的に修理ドックに入って点検、整備を受け安全な航行に備えるのに例えて付けられた名称と言われており、生活習慣病のわずかな兆候を見逃すまいと身体の隅々まで点検することを目的として日本では昭和29年に、当院では昭和54年に始まりました。現在、当院のドック健診センターでは人間ドック、各種健診、婦人科検診など年間1万人以上の方が受診され、画像診断のダブルチェック体制、疾患のフォローアップ体制を重視し、病気の予防と早期発見に努めています。特に、乳がん検診においてはマンモグラフィに加え、診断能の優れた最新機器である3D画像のマンモグラフィ(トモシンセシス)、超音波診断装置(ABUS)も使用可能です。また、当センターは令和5年8月に鳥取県で最初の日本人間ドック・予防医療学会の健診施設機能評価の認定を受けました。

健診種類

- ◆ 外来・入院ドック
- ◆ 全国健康保険協会生活習慣病予防健診
- ◆ 個人、企業の一般健診
- ◆ 特定健診、婦人科検診(子宮がん検診、乳がん検診)
- ◆ 労災二次健診
- ◆ 専門ドック(脳ドック、循環器・動脈硬化ドック)

目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 経営の改善
2. 職場環境の改善
3. 医療の質と安全の向上

令和6年度

1. 経営の改善
2. 職場環境の改善
3. 医療の質と安全の向上

【実 績】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人間ドック	4,055	3,992	4,275
協会けんぽ、健診	3,517	3,553	4,117
婦人科検診	3,077	2,792	2,751
計	10,649	10,337	11,143

令和5年度外来・入院ドック 精密検査指示率(要精検率)

	生活習慣病			生活習慣病関連			がん検診						
	血圧	血糖	脂質	心電図	眼底	腹部 超音波検査	胸部X線	胃部X線	胃カメラ (生検)	便潜血	子宮頸部 細胞診	乳房超音波 検査	マンモ グラフィ
検査実施数(人)	4,275	4,275	4,275	4,274	4,250	4,270	4,247	738	3,019	4,127	1,294	293	1,054
要治療	112	35	188	0	1	1	3	0	22	0	0	0	0
	2.6%	0.8%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
要精密検査	0	6	69	107	253	234	104	47	78	317	30	8	97
	0.0%	0.1%	1.6%	2.5%	6.0%	5.5%	2.4%	6.4%	2.6%	7.7%	2.3%	2.7%	9.2%
治療中	843	249	724	58	209	80	9	0	5	4	0	0	0
	19.7%	5.8%	16.9%	1.4%	4.9%	1.9%	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

【スタッフ紹介】

責任者

センター長／木村 修
副センター長／多城みゆき

人員構成

医師……………3名
看護師……………5名
保健師……………2名
事務……………8名
クラーク……………1名

認定資格

日本人間ドック・予防医療学会
認定医……………1名
暫定指導医……………1名
人間ドック健診情報管理指導士
(医師・看護師)……………2名

施設認定

日本人間ドック・予防医療学会
健康施設機能評価認定
優良健診施設認定
人間ドック健診専門医制度暫定研修施設

所属学会

日本人間ドック・予防医療学会

【担当医師】

木村 修
……………アミノインデックス外来(P25) 参照
工藤浩史……………乳腺外科(P24) 参照
鶴原一郎……………臨床検査科(P34) 参照



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

機能評価認定を受けたことにより、保健指導、要精検者へのフォローアップにも注力しています。かかりつけ医の先生方には紹介状を持って受診される場合があると思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

薬剤部

【概要】

薬剤部は、医薬品の安全管理、適正使用の役割を担い、安全で質の高い医療を提供出来るように業務に取り組んでいます。医薬品の適正使用の推進においては、他の医療スタッフとは異なる視点(薬学的視点)に立ち、薬の専門家として職能を発揮することが薬剤師としての責務と考えています。調剤業務、持参薬鑑別、医薬品管理、TDM、抗がん剤の無菌調製、外来患者・入院患者への服薬指導、各種チーム医療への参加とともに、医療スタッフへ医薬品安全使用にかかわる情報提供・共有を行っています。また、地域薬剤師や他職種とも連携を図り、入院から外来・在宅まで切れ目ない薬物治療の支援体制を整えています。現在、薬剤部ではLINEWORKSを近隣調剤薬局との情報連携ツールとして活用し、シームレスな情報共有に役立てています。また、院内外の薬剤師の連携推進と知識向上を目的に、令和5年度は近隣薬局とがん疼痛の薬物治療に関する合同研修を実施しました。引き続き、ICTを利用した情報連携や合同研修会等を通じて、連携の輪を広げ、地域住民に安心安全な薬物療法を提供出来るように努めてまいります。

目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 病棟薬剤業務の拡大と充実
2. 地域医療連携の推進
3. 働きやすく・働きがいのある職場づくり
4. SDGs活動の推進

令和6年度

1. 病棟薬剤業務の拡大と充実
2. 地域医療連携の推進
3. 働きやすく・働きがいのある職場づくり
4. SDGs活動の推進

【実績】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入院処方(枚数)	23,802	23,528	27,137
外来処方(枚数)	4,720	5,155	4,429
院外処方(枚数)	44,367	44,448	44,220
院外処方箋発行率	90.4%	89.6%	90.9%
入院注射処方(枚数)	22,433	20,451	21,833
外来注射処方(枚数)	13,250	13,205	11,608
薬剤管理指導件数	669	771	1,029
無菌調製件数(月平均)	39	74	100
持参薬鑑別件数(平成30年度より集計開始)	1,872	1,710	1,749

【スタッフ紹介】

責任者

部長／足立晶子 主任／中山卓

人員構成

医師……………1名
 薬剤師……………9名
 調剤助手……………1名
 SPD スタッフ……………4名

認定資格(研修修了含む)※医師以外

日本病院薬剤師会
 感染制御認定薬剤師……………1名
 日本緩和医療薬学会
 緩和薬物療法認定薬剤師……………1名
 日本臨床栄養代謝学会
 NST専門療法士……………1名
 日本糖尿病療養指導認定機構
 糖尿病療養指導士……………1名
 薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師……………2名
 日本病院薬剤師会
 病院薬学認定薬剤師……………3名
 日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師……………1名
 日本循環器学会 心不全療養指導士……………1名

所属学会

日本病院薬剤師会……………9名
 日本医療薬学会……………3名
 日本緩和医療薬学会……………2名
 日本緩和医療学会・日本環境感染学会・
 日本臨床栄養代謝学会・日本老年薬学会・
 日本循環器学会・日本薬剤師会……………各1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

近年、薬物療法は高度化・複雑化し、安全に配慮すべき薬が増え、ますますチーム医療の一員として薬剤師の役割が重要になってきています。薬剤部では、医療・介護スタッフと協働し、入院から在宅まで切れ目ない安全で質の高い薬物療法を提供できるように努めています。お薬のことは、我々薬剤師にお任せ下さい。

臨床検査部

【概要】

当院検査部は、地域医療に貢献すべく24時間体制で検査業務に励んでいます。最新型機器の導入や徹底した品質管理により、迅速で精度の高い検査値報告を目指しています。検査値の精度を高めるために、外部精度管理事業への参加、学会発表や資格取得など学術研鑽にも積極的に取り組んでおり、令和5年度の学術実績は、品質保証施設認証の再取得、心電図検定試験合格2名、乳腺超音波技能試験A評価1名、学会発表1名の成果を得ています。また栄養サポートチームや感染対策チームへの参画、糖尿病教室や自己血糖測定機指導も行っておりチーム医療の一員として活躍しています。さらに近隣住民の方々の健康意識向上、健康管理を目的とした「すまいるプチ検診」を検査部主導で運営しており、地域の方々の健康増進に貢献しています。

目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 検査部経営の改善
2. 業務連携の強化
3. 安全で質の高い医療の提供
4. 部員の能力向上

令和6年度

1. 検査部経営の改善
2. 業務連携の強化
3. 安全で質の高い医療の提供
4. 部員の能力向上

【実績】

検体検査部門(件数)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
生化学Ⅰ	483,054	530,739	555,193
生化学Ⅱ	35,766	36,245	37,477
免疫血清	54,135	59,646	57,782
血液	79,176	83,074	85,998
一般	38,350	41,105	42,935
輸血	188	182	185
外部委託	12,818	15,665	16,048

すまいるプチ検診	令和3年度	令和4年度	令和5年度
営業日数(日)	242	243	246
実人数(人)	113	98	107

微生物検査部門(件数)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般培養	3,559	3,138	3,352
感受性	461	367	447
その他	247	241	210

生理検査部門(件数)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
心電図	9,895	9,931	10,391
肺機能	418	383	414
超音波	10,405	10,257	10,708
動脈硬化	218	394	480
脳波	77	59	52
筋電図	44	50	66
睡眠検査	24	20	56
歩行試験	1	0	4

病理検査部門(件数)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
病理	1,850	1,587	1,593
細胞診	1,921	1,696	1,670
婦人科細胞診	2,159	2,219	2,311

外部精度管理主催団体(点数)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
日本医師会 臨床検査精度管理調査	98.0/100	97.5/100	98.4/100
日本臨床衛生検査技師会 精度管理調査	99.0/100	97.2/100	100/100
鳥取県臨床検査精度管理調査	参加	98.3/100	99.2/100

【スタッフ紹介】

責任者

部長／鶴原一郎 技師長／先瀬浩功

人員構成

医師……………1名
臨床検査技師……………13名

認定資格(研修修了含む)※医師以外

日本糖尿病療養指導士……………1名
鳥取県糖尿病療養指導士……………1名
認定輸血検査技師……………1名
認定超音波検査士(消化器領域)……………2名
認定超音波検査士(循環器領域)……………1名
認定超音波検査士(健診領域)……………1名
認定超音波検査士(体表臓器領域)……………1名
血管診療技師……………1名
臨床工学技士……………1名
健康食品管理士……………1名
二級臨床検査士(循環生理学)……………1名
認定認知症領域検査技師……………1名
認定心電図専門士……………1名
緊急臨床検査士……………1名
危険物取扱者乙4類……………1名
鳥取県肝炎医療コーディネーター……………3名
日本不整脈学会心電図検定1級……………1名
日本不整脈学会心電図検定2級……………2名
日本臨床衛生検査技師会精度管理責任者……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

迅速で精度の高い検査値報告、地域住民の健康増進を目的とした「すまいるプチ検診」そして血糖測定器の導入からアフターケアまで様々な分野で地域医療に貢献すべく取り組んでいます。

診療放射線部

【概 要】

診療放射線部では、地域の医療機関の皆さまとの緊密な連携体制の構築が重要と考えております。診断・治療・治療後管理とさまざまな場面において、当院の先進医療機器を皆さまにご利用いただく事で地域連携の一翼を担うことができると考えます。地域医療の密接な連携を目指し、患者さんと主治医の先生を、放射線科紹介と共同利用による画像診断でバックアップします。当院では64列MDCT、1.5TMRI、FPDマンモグラフィ装置、最新の被ばく低減機能搭載透視装置、アンギオ装置などが稼働しています。今年2月に医用画像管理システム(PACS)を更新しました。AIによる画像診断支援システムは最新機能が追加され、院内iPhoneで検査画像閲覧が可能となりました。

目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 検査件数の増加
2. 検査の Quality up
3. 働きやすい職場作り
4. PACS 導入に向けた取り組み

令和6年度

1. 検査件数の増加
2. 検査の Quality up
3. 働きやすい職場作り
4. SDGs活動の推進

【実 績】

検査項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般撮影(件)	23,759	23,228	24,065
マンモグラフィ(件)	5,659	5,124	5,217
透視(件)	3,456	3,320	3,186
CT(件)	6,328	6,054	6,175
MRI(件)	3,202	3,270	3,274
骨塩定量(件)	969	1,012	1,160

【スタッフ紹介】

責任者

部長／中村希代志 技師長／池嶋道夫

人員構成

放射線科医……………1名
 診療放射線技師……………10名
 看護師……………1名
 クラーク……………1名

認定資格(研修修了含む)

日本診療放射線技師会・技師格
 シニア……………4名
 アドバンス……………7名
 日本診療放射線技師会認定
 放射線管理士……………4名
 放射線機器管理士……………1名
 医療画像情報精度管理士……………6名
 マンモグラフィ認定技師……………5名
 磁気共鳴専門技術者……………1名
 X線CT認定技師……………2名
 胃がん検診専門技師……………4名
 医療画像情報専門技師……………1名
 医療情報専門技師……………2名
 画像等手術支援認定技師……………1名
 AI認定技師……………2名
 CTコノグラフィ認定技師……………1名
 大腸CT検査技師……………3名
 診療放射線技師会 業務拡大に伴う
 統一講習会修了……………10名
 診療放射線技師法改正に伴う
 告示研修(実技)修了……………4名

所属学会

日本診療放射線技師会……………10名
 日本放射線技術学会……………7名
 日本消化器がん検診学会……………5名
 日本医用画像管理学会……………2名
 日本医療情報学会……………1名
 日本CT技術学会……………1名
 日本磁気共鳴医学会……………1名
 鳥取県診療放射線技師会……………10名
 日本放射線技術学会中国・四国支部……………7名
 日本放射線技術学会 医療情報部会……………1名



MESSAGE/ 地域医療機関のみなさまへ

日頃より共同利用、放射線科紹介をご利用いただき誠にありがとうございます。専用ダイヤル、メールで予約受付ができますので今後ともよろしく願いいたします。詳細は当院HPでご確認下さい。
 専用ダイヤル 090-5051-8172
 E-mail:housya-yoyaku@doaikai.jp

リハビリテーション部

【概 要】

急性期、回復期（回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟）、維持期（療養型病棟）、生活期（訪問リハビリテーション）と全ての時期にリハビリテーションを提供できる体制をとり、外来リハビリテーションにも力を入れております。令和5年度は、日本スポーツ協会ジュニアスポーツ指導員を理学療法士2名が取得し、スポーツで負傷された方々への復帰に向けたサポートが出来るよう体制を整備しております。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

1. 自部門収益の増加
2. 職場環境の改善
3. 医療の質と安全の向上
4. SDGs活動の推進
(スタッフの平等性と働きがい、ペーパーレスの推進)

令和6年度

1. 自部門収益の増加
2. 診療の質向上
3. 職員満足度の向上（スタッフの精神的フォロー）

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
リハビリテーション平均単位数/日 (1人の患者が行う訓練時間) *1単位=20分の訓練			
一般病棟（急性期リハビリテーション）	2.4単位	2.4単位	2.1単位
回復期リハビリテーション病棟	5.9単位	5.8単位	5.6単位
地域包括ケア病棟	2.4単位	2.4単位	2.3単位
回復期リハビリテーション病棟 実績指数 (より早く、より回復して退院できたかを示した点数：基準35以上)	48.8	47.23	45.81
嚥下造影検査	35件	31件	36件
嚥下内視鏡検査	37件	32件	15件
外来小児リハ 通院者数 主な疾患：発達性協調運動障害、学習障害、機能性構音障害、 知的障害、言語発達遅滞、注意欠陥多動障害、自閉スペクトラム症、 ダウン症、超低出生体重児、経口摂取困難など	124名	169名	125名

【スタッフ紹介】

責任者

部長／中村達彦 技師長／吾郷秀吉

人員構成

医師……………1名
理学療法士……………25名
作業療法士……………20名
言語聴覚士……………8名

認定資格（研修修了含む）

日本理学療法士協会 認定理学療法士（運動器）……………1名
3学会合同 呼吸療法認定士……………4名
心臓リハビリテーション指導士……………2名
がんのリハビリテーション研修会修了……………11名
骨粗鬆症マネージャー……………1名
フットケアトレーナー……………1名
ケアマネージャー資格取得者……………1名
福祉住環境コーディネーター2級……………10名
日本ボバース研究会 成人片麻痺認定基礎講習会修了……………3名
日本ボバース研究会 成人片麻痺認定上級講習会修了……………1名
日本理学療法士協会 指定管理者（初級）……………3名
日本理学療法士協会 指定管理者（上級）……………2名
日本理学療法士協会 地域包括ケア推進リーダー……………4名
日本理学療法士協会 介護予防推進リーダー……………5名
日本理学療法士協会指定 職業性腰痛予防講師……………1名
鳥取県糖尿病療養指導士……………2名
島根県糖尿病療養指導士……………1名
重症児の在宅支援を担う医師等養成インテンシブコース修了……………2名
転倒予防指導士……………1名
リンパ浮腫療法士……………1名
認知症ケア専門士……………1名

LSVT LOUD 認定講習会修了……………2名
認定訪問療法士……………1名
発達コミュニケーション中級指導者……………3名
日本理学療法士協会フレイル対策推進マネージャー……………1名
呼吸ケア指導士（初級）……………1名
日本シーティング・コンサルタント協会
シーティング・コンサルタント……………1名
日本スポーツ協会 ジュニアスポーツ指導員……………2名

所属学会

日本理学療法士協会……………25名
日本作業療法士協会……………20名
日本言語聴覚士協会……………4名
山陰言語聴覚士協会……………1名
日本徒手理学療法学会……………2名
日本運動器徒手理学療法学会……………1名
日本心臓リハビリテーション学会……………4名
日本循環器学会……………1名
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会……………1名
日本リンパ浮腫治療学会……………1名
日本骨粗鬆症学会……………1名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会……………4名
日本口腔ケア学会……………1名
日本認知症予防学会……………1名
日本離床学会……………1名
日本転倒予防学会……………1名
認知症ケア学会……………1名
日本DCD学会……………1名
日本訪問リハビリテーション協会……………7名
一般社団法人 日本ボバース研究会……………3名

日本シーティングコンサルタント協会……………2名
NPO オートティックスソサエティー……………1名
鳥取県アスレティックトレーナー協議会……………2名
鳥取県糖尿病療養指導士会……………2名
島根県糖尿病療養指導士会……………1名
日本糖尿病協会……………2名



MESSAGE/地域医療機関のみならずへ

脳血管・整形・呼吸器・循環器疾患、乳がん術後、スポーツ、小児など幅広く外来でのリハビリテーションを対応しています。リハビリテーションが必要な方がおられましたら、ご紹介をお願いいたします。

臨床工学室

【概 要】

臨床工学室は、臨床工学技士法に基づく国家資格を持つ5名の医療技術者で構成されており、生命維持監視装置の操作、院内にある医療機器の保守管理を行っております。博愛病院の理念のもと、博愛の心で医療を行い地域に貢献できるよう日々の業務に臨んでいます。臨床工学技士の業務として、透析業務、呼吸管理業務、医療機器の保守点検、医療機器安全使用に関する研修活動、医療ガス配管設備点検などがあります。令和5年度は、病棟で使用する生体情報用モニタの不必要なアラームを減らし、アラームへの信頼性を高める活動を開始しました。私たちは、患者さんが安全に治療を受けることができるよう、医師、看護師をはじめ、その他医療スタッフと共に活動しています。

目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 適切な機器管理
2. シャントカルテの作成
3. モニタのアラーム対応時間の短縮
4. システム障害対策

令和6年度

1. 透析業務の拡大・コスト削減
2. 気管吸引業務開始による看護業務の負担軽減
3. MACT 活動の開始
4. BLS 研修環境の改善

【実 績】

項 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
血液浄化	CHDF	0	12	2
	CHD	0	0	0
	ET吸着	0	0	0
	血漿交換	0	3	24
	CART	0	2	2
呼吸管理	IPPV	22	17	23
	NPPV	46	33	31
機器管理	ME機器返却時点検	1,727	1,495	1,695
	定期点検	2,151	2,011	2,738
	修理業務(有償修理のみ)	130	129	122
内視鏡室	立ち合い業務	2	4	2
その他	下肢血流検査	0	73	55
医療ガス	医療ガス配管設備点検	2,036	1,976	1,976
教育	教育	12	12	8

【スタッフ紹介】

責任者

室長／田中保則 主任／田儀匡史

人員構成

医師……………1名
臨床工学技士……………5名

認定資格(研修修了含む)

透析技術認定士……………1名
3学会合同呼吸療法認定士……………2名
MDIC(医療機器情報コミュニケーター)……………1名
第2種ME技術者……………5名
医療ガス保安管理技術者講習会
(3日コース)修了……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域の医療機関や患者さんに安心して博愛病院を選んでいただけるよう、技術の向上と知識の習得に努め、地域医療の発展に貢献してまいります。

栄養管理室

【概 要】

栄養管理室は、患者さんと向き合った臨床栄養管理の実践と、診療を支援することを目指しています。「安全でおいしく、治療効果を高める食事」を提供できるように努めています。当院では継続的な栄養管理を実施しています。また、医師の指示に基づき、病態に応じた栄養指導を行っています。チーム医療に参加し、管理栄養士の立場から患者さんの個々の栄養状態に応じた提案を行っています。

目標(BSC重点施策)

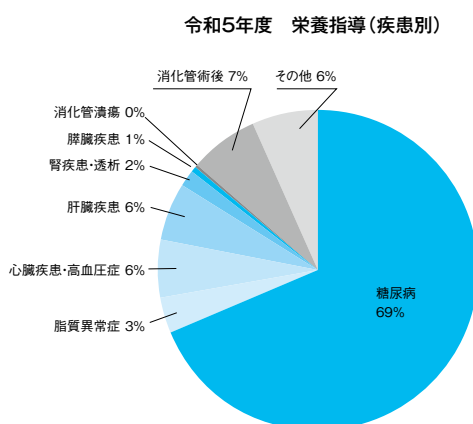
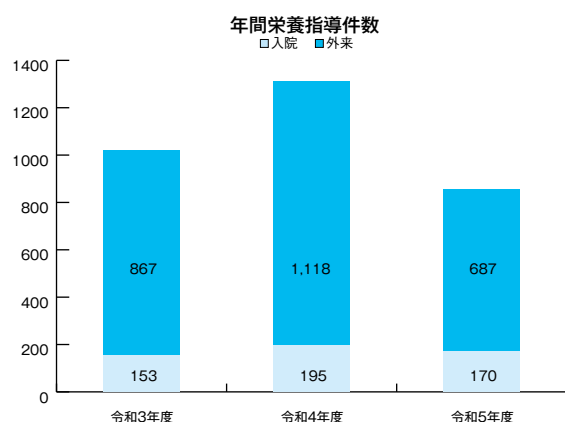
令和5年度

1. 栄養指導件数の維持・増加
2. 職場環境の改善
3. 安全で満足度の高い食事の提供

令和6年度

1. 栄養指導件数の維持・増加
2. 職場環境の改善
3. 安全で満足度の高い適切な食事の提供

【実 績】



【スタッフ紹介】

責任者

室長／藤岡洋平 副主任／山下綾沙

人員構成

糖尿病・内分泌内科主任部長…………… 1名
管理栄養士…………… 3名

認定資格

日本糖尿病療養指導士…………… 2名
NST専門療法士実地修練研修修了…………… 3名

所属学会

日本栄養士会…………… 3名
日本病態栄養学会…………… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院では、管理栄養士が在籍していない医療機関からの紹介患者さんの栄養指導も行っております。食生活に関する相談について継続したサポートができるよう努めます。

在宅医療センター

当センターは、1997年の訪問看護室立ち上げに始まり、2017年在宅医療センター竣工を経て、現在、訪問診療部、訪問看護ステーション博愛、訪問リハビリテーション博愛、サービスプラン博愛、ヘルパーステーション博愛の5部門を擁す県内有数の在宅診療部へと成長してきました。

住み慣れた自宅で、出来るだけ自分らしく療養生活を送れるようサポートすることが我々の使命と役割です。

博愛病院はもとより、在宅医療に関わる当地域のクリニック、事業所の皆さんと協力し、住みやすい、療養しやすい地域を作っていきたいと考えています。



訪問診療部

【概要】

自宅から出かけることが難しくなった患者さんに対し、博愛病院の医師が訪問診療を行います。①もともと通院していた担当医師が訪問する、②その方が持つ疾患の専門医師が訪問する、③当院の訪問看護と密な連携が取れる、④緊急時には博愛病院と連携して診療に当たる、などが、当院の訪問診療部の強みになると考えています。博愛病院は2018年1月より機能強化型在宅療養支援病院となっております。

対応疾患

- ◆慢性呼吸器疾患 ◆脳血管疾患後遺症 ◆進行期悪性疾患
- ◆慢性心疾患 ◆神経難病 ◆その他各種疾患による廃用症候群など

【実績】

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
訪問診療延回数(件)	471	329	260
往診延回数(件)	65	43	28
合計(件)	536	372	288
在宅死(人)	23	19	15
病院死(人)	8	6	2

【スタッフ紹介】

責任者

センター長／安井建一……………脳神経内科(P20)参照
 呼吸器内科部長／西井静香……………呼吸器内科(P17)参照
 呼吸器内科部長／重白啓司……………呼吸器内科(P17)参照
 外科部長／角賢一……………外科(消化器外科)(P24)参照



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域包括診療、在宅診療の重要性が増す中、ケアミックス型である当院の役割、活躍の場も増えつつあると感じております。在宅医療センター全体で協力し、より良い在宅医療が出来るよう、地域の皆さんと協力していきたいと考えております。

訪問看護ステーション博愛

【概要】

24時間、365日いつでもご自宅に伺い、適切な判断に基づいたケアとアドバイスを行い療養生活が送れるよう支援しています。病状の観察・ケアだけでなくターミナルケア、在宅での看取りにも力を入れて支援しています。令和5年度は褥瘡対策にも力を入れ、終末期の褥瘡発生はわずか1件のみでした。また看護学生の訪問実習も多く受け入れております。新卒看護師の受け入れや訪問看護師ラダーを取り入れ人材育成にも取り組んでいます。

目標(BSC重点施策)

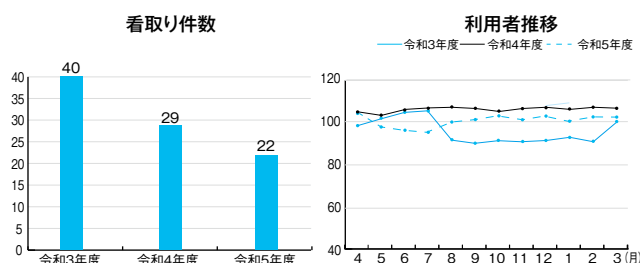
令和5年度

- 1.「褥瘡予防」「悪化させない」為の褥瘡ケアを実施し、療養者や家族が安心して療養生活を送れるよう支援する。
- 2.病院の方針を理解し、訪問看護の現場に則した実効性のあるBCPを作成する。
- 3.在宅医療センター全員で取り組む電気使用量の削減。

令和6年度

- 1.本人・家族の意思に基づいた支援を行い満足できる看取りを実践する。
- 2.共に学び励まし合いながら成長しステーション全体のスキルアップを目指す。

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／渡部明代

人員構成

看護師 …………… 11名
 クラーク …………… 1名

認定資格

認定看護管理者教育課程
 (ファーストレベル) 修了 …… 4名
 呼吸療法認定士 …………… 1名
 介護支援専門員 …………… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

小児から高齢者まで対応できるステーションです。地域に信頼され選ばれるステーションを目指しています。機能強化型1を算定しています。

訪問リハビリテーション博愛

【概要】

在宅で療養されている方に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が訪問してリハビリを行います。主治医から指示を受け、ケアマネージャー等と連携を取り、ご家庭で安心して生活できるように支援します。当院では呼吸療法認定士の資格を持ったスタッフが専門的な呼吸リハビリも行っています。そのほかにも内科疾患、整形外科疾患等、様々な疾患の方の在宅生活に必要なリハビリを行います。

目標(BSC重点施策)

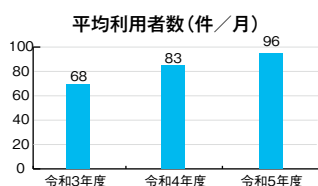
令和5年度

1. 収益の向上
2. 働きやすい事業所運営の見直し
3. 訪問時のリスク管理能力の向上
4. 訪問リハにできる SDGsの取り組みを推進

令和6年度

1. 収益の向上
2. 働きやすい訪問リハ事業所の運営
3. 訪問リハ博愛の質の向上
4. 訪問リハにできる SDGsの取り組みの推進

【実績】



連携病院 診療情報提供書を頂いている
 病院、医院 35箇所
 連携事業所 居宅支援事業所 24箇所
 地域包括支援センター 5箇所

【スタッフ紹介】

責任者

主任／増原世子

人員構成

理学療法士 …………… 4名
 作業療法士 …………… 3名
 言語聴覚士 …………… 1名
 事務 …………… 1名

認定資格

3学会合同 呼吸療法認定士 …… 2名
 日本理学療法士協会
 運動器認定療法士 …………… 1名

日本理学療法士協会
 地域ケア会議推進リーダー …… 1名
 日本理学療法士協会
 介護予防推進リーダー …………… 2名
 福祉住環境コーディネーター2級
 …………… 1名
 重症児の在宅支援を担う医師等
 養成インテンシブコース修了 …… 1名

所属学会

日本訪問リハビリテーション協会
 …………… 7名
 日本理学療法士協会 …………… 4名
 日本作業療法士協会 …………… 3名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

訪問リハビリテーション博愛では、一人一人の状態に合わせた在宅でのリハビリを提供し、自分らしい生活ができるよう、地域の皆様と連携を取りながら、支援していきます。

サービスプラン博愛

【概要】

24時間いつでも相談をお受けする体制を整えています。5名の介護支援専門員が、医療機関や介護・福祉サービス事業所との連携を図り、在宅生活を安心して送ることができるように支援します。令和5年度は「博愛かるがもカフェ」を開催し、地域の皆様にお越しいただき情報発信と相談の場としました。

目標(BSC重点施策)

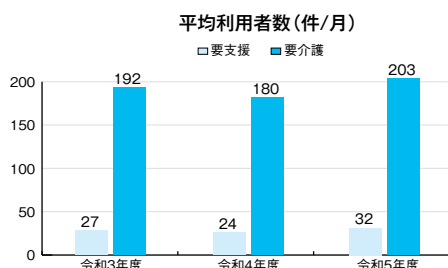
令和5年度

1. 安定した事業所運営
2. ケアマネジメントの質の向上
3. SDGs活動推進による地域への情報発信

令和6年度

1. 安定した事業所運営
2. ICT活用による業務改善
3. SDGs活動を通じた地域との連携

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者

係長／伊澤妙子

人員構成

主任介護支援専門員…………… 3名
介護支援専門員…………… 2名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

医療機関や介護サービス事業所と連携し、利用者やご家族の思いに寄り添いながら在宅生活を安心して笑顔で送れるように支援させていただきます。
お気軽にご依頼・ご相談下さい。

ヘルパーステーション博愛

【概要】

介護保険の居宅サービスである訪問介護サービスを提供しております。ご自宅で生活しておられる介護が必要な方がより快適に生活が送れるよう身体的な支援や自立支援に向けた関わりをさせていただきます。

目標(BSC重点施策)

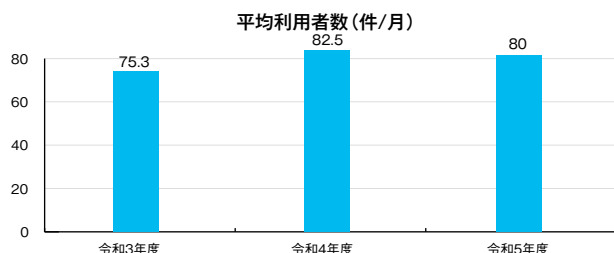
令和5年度

1. 介護報酬の増加
2. 職場環境の改善
3. SDGs活動の推進

令和6年度

1. 介護報酬の増加
2. 職場環境の改善
3. SDGs活動の推進

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者

主任／老松良美

人員構成

介護福祉士…………… 5名
(内サービス提供責任者3名)
介護員…………… 2名
(介護職員初任者研修修了)



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

住み慣れたご自宅で安心して笑顔で過ごしていただけるようご本人やご家族のサポートを多職種と連携しながらさせていただきます。

医療安全管理部

医療安全対策室

【概 要】

平成23年に医療安全の推進を目的に医療安全対策室が設置されました。医療安全対策室は、医療安全管理委員会のもと、医療安全に関する知識・認識を高め、院内における医療の安全性の向上を図り、患者さん及び職員の安全を確保することを目的に職員から報告されるインシデントレポートの分析・改善策に向けたカンファレンスや院内ラウンドなどを週1回行っています。令和5年度は、患者誤認ゼロを目指し、医療安全対策委員会を中心に活動を行いました。

目標（BSC重点施策）

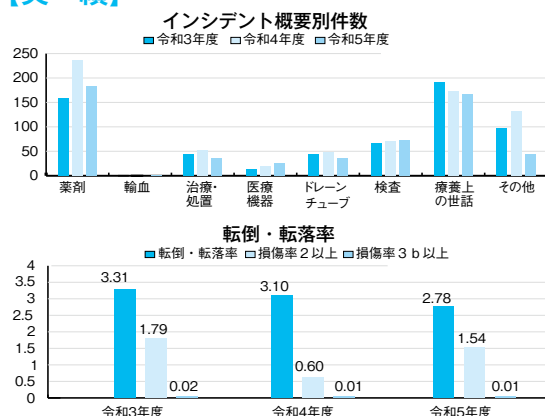
令和5年度

1. 医療の質を確保し患者・家族へ安全安心な医療を提供する
2. 事例報告を情報共有し改善策を周知し再発防止へ繋げる
3. 確認行動の改善を図り誤認事例をなくす

令和6年度

1. 医療の質を確保し患者・家族へ安心安全な医療を提供する
2. 病院機能評価更新に向けて医療安全関連のマニュアルの見直し改定と周知を行いA評価を取得する

【実 績】



【スタッフ紹介】

責任者

室長／近藤亮
看護師長（GRM）／松岡洋子

人員構成

医療安全管理室長（医師）……………1名
医療安全管理者（専従）（看護師）……………1名
診療用放射線安全管理責任者……………1名
医薬品安全管理責任者……………1名
医療機器安全管理責任者……………1名
医事課長……………1名
感染管理認定看護師……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

今年度も医療の質を確保し患者・家族へ安心安全な医療を提供するため安全管理の徹底に努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

感染対策室

【概 要】

感染対策室は院長直轄の組織として設置し、ICT（感染制御チーム）とAST（抗菌薬適正使用支援チーム）を構成し、病院に関わる全ての人々の感染対策を担っています。また、院内のみならず、地域の医療機関等と合同カンファレンスや相互ラウンドなどを実施し、地域全体の感染対策を推進します。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症患者の外来および入院対応、介護施設等の現地指導、新型コロナワクチン接種への協力等活動しました。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

1. COVID-19 に備えたアウトブレイク制御
2. 抗菌薬適正使用
3. 医療関連感染制御
4. 外部評価への準備

令和6年度

1. 薬剤耐性菌対策
2. 医療関連感染制御
3. 病院機能評価更新への活動
4. 地域連携の推進

【スタッフ紹介】

責任者

室長（院内感染管理者）／西井静香
感染管理認定看護師（CNIC）／田原由紀子

人員構成

インфекションコントロールドクター（ICD）……………1名
感染管理認定看護師……………1名

所属学会

日本環境感染学会……………1名
日本感染管理ネットワーク学会……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院は、感染対策向上加算1を算定しております。地域医療機関や保健所と定期的にカンファレンスを開催し、感染制御に取り組んでいます。お気軽にご相談下さい。

患者支援部

【概 要】

当院では地域の医療機関・他施設・各サービス事業所等と連携を円滑にすることで、患者さんがより良い医療を受けていただき、安心した生活が送れるように患者支援部を設置し、連携機関の窓口として対応しています。

令和5年度より「デジタル田園都市国家構想」の一環として、転院調整システム（通称トリラポ）が運用開始となりました。これまでは電話、FAX等が中心で担当者につながるまで時間を有していましたが、トリラポではWEB上で患者情報の共有含めて転院打診を行い、受け入れ期間の短縮につながっています。

入退院支援室

急性期病床、地域包括ケア病床、療養病床、回復期リハビリテーション病床と多機能な病床を有するケアミックス病院です。病床の一元管理を行い、適正な病床管理及び院内外のパイプ役として入退院調整に取り組んでいます。また近隣病院との連携を行い、ケアミックスを発揮して地域の方々が住み慣れた場所で療養できるよう、各病棟に配置した入退院支援看護師とともに退院調整が円滑にいくよう支援しています。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

1. 効率的効果的病床運用の実践
2. 心理的安全性の構築による働きやすい環境調整
3. 地域医療機関との連携強化

令和6年度

1. 効率的効果的病床運用を実践し病院計画に参画する
2. 地域連携機関との連携強化

医療相談室

医療ソーシャルワーカー（MSW）が患者さんの療養・生活環境を整えていくことで住み慣れた地域（自宅）で安心して生活できるように各医療機関・地域の関連機関・行政・ケアマネジャー等と連携し調整（退院等）に努めています。また様々な社会福祉制度についてのご相談に応じており、医療・福祉・介護のコーディネイトを行っています。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

1. 収益の増加
2. 医療の質と安全の向上
3. 職場環境の改善

令和6年度

1. 経営の改善
2. 働き方改革の推進

地域連携室

医療機関からの紹介患者さんの診療や検査等の予約の調整、当院からかかりつけ医療機関等への逆紹介など、紹介元及び紹介先の医療機関との連携の窓口として、患者さんが円滑に診療をお受けいただけるように取り組んでいます。また医療機関からの様々なお問い合わせにも対応しています。

目標（BSC重点施策）

令和5年度

1. 地域の医療機関等との連携強化
2. 紹介予約の充実
3. 職場環境の改善

令和6年度

1. 地域の医療機関等との連携強化
2. 紹介予約の充実
3. 働き方改革の推進

患者相談室

患者さん・ご家族等からのご心配やお困り事等の相談窓口となっています。相談内容に応じて、各専門職員への橋渡しを行っています。

【実 績】

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
紹介患者数(件)	4,051	3,804	4,090
(内、予約数)	1,714	1,608	1,780
患者相談窓口対応数(件)	132	103	65
転院受入 状況(件)	回復期病棟	32	32
	療養病床	11	10
	地域包括ケア病棟	4	10
一般病棟	21	30	60

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
対応患者数(MSW)	984 (院内・多職種カンファ件数)	1,025 (院内・多職種カンファ件数含む)	1,085 (院内・多職種カンファ件数含む)
合同カンファレンス数(件)	667	559	561
家屋訪問数(件)	234	144	180

【スタッフ紹介】

責任者

部長／松本栄二

入退院支援室室長／竹仲美奈子

人員構成

医師……………1名
看護師……………2名
医療ソーシャルワーカー……………2名
事務員……………2名
監理監……………1名

認定資格(研修修了含む)

医療対話推進者認定……………3名
社会福祉士……………2名
医療安全管理者養成研修修了……………2名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院の地域連携に関するアンケートにご協力いただき感謝しております。皆様からのご意見をもとに一層連携体制の構築、切れ目ない医療・介護・福祉サービス支援に取り組みます。

事務部

【概要】

私たち事務部は、総務課、用度施設管理課、経理調達課、医事課の4課で構成された組織です。少人数ではありますが、各構成員は院内で働く多種多様な職員が業務に専念できるように、各々の専門性を発揮し日々業務に邁進しています。

頼られる組織、相談しやすい職員であることを心掛け、働きやすい職場環境作りを目指すことで病院に貢献できると考えています。

【スタッフ紹介】

責任者

事務部長(代行)／浅中雅彦

人員構成

総務課……………6名
用度施設管理課……………5名
経理調達課……………2名
医事課……………18名
(兼務、パート職員含む)



医師支援室

【概要】

医師支援室は医師の業務負担軽減を目的に設置されました。医師が行う業務のうち事務的な業務(書類作成補助、外来診療支援、データ入力など)を主に行っています。医師の業務負担を軽減することにより、医師が患者さんと向き合う時間が増え、「患者満足度の向上」や「医療の質の向上」に貢献できることを目指しています。

【スタッフ紹介】

責任者

室長／足立晶子

人員構成

室長 医師(兼務)……………1名
室長補佐(兼務)……………1名
医師事務作業補助者……………3名

認定資格

医師事務作業補助技能認定者……………2名



情報システム管理室

【概要】

電子カルテをはじめ、イントラネット、院内ネットワーク、各種システムやIT機器の導入、管理(メンテナンス・故障時対応・操作説明など)を行っています。

現在はセキュリティ対策の強化や各サーバーデータのオフラインバックアップ、システムや機器に対する監査を実施しています。全員が本業との兼務の中、毎週1回ミーティングを行い、院内の問題点などについて情報共有、解決策の検討を行い、病院全体の業務改善に励んでいます。

【スタッフ紹介】

責任者

室長／中村希代志

人員構成

医師……………1名
診療放射線技師……………1名
臨床検査技師……………1名
薬剤師……………1名
理学療法士……………1名
臨床工学技士……………1名

看護師……………1名
医事課職員……………1名
用度施設管理課職員……………1名

認定資格

医療情報技師……………2名
医用画像情報専門技師……………1名



チーム医療

感染対策チーム (ICT)

【概要】

ICD (感染制御医師)を中心に、感染管理認定看護師、感染制御認定薬剤師、臨床検査技師の多職種により構成されており、組織横断的に活動し、病院内の感染対策に取り組んでいます。

役割

1. 感染症発生時の対応
2. 感染対策の知識と技術向上のための教育
3. 各部署の感染対策の改善、定着
4. 抗菌薬使用状況の把握
5. 抗 MRSA 薬の治療薬物モニタリングの実施
6. 感染症患者情報の把握と管理
7. カンファレンスの開催

【活動内容】

1. 院内ラウンドによる感染対策遵守状況の確認
2. 手指衛生遵守率向上への活動
3. 耐性菌サーベイランス、デバイスサーベイランス、SSIサーベイランス
4. 抗菌薬の適正使用に関する介入と治療薬物モニタリング
5. 医療関連感染発生状況の把握とアウトブレイクへの緊急対応
6. 院内感染対策に関する啓蒙及び教育
7. 職業感染防止対策の実施
8. 院内感染対策マニュアルの作成と改訂
9. 地域医療機関や行政との連携
10. 新興感染症発生時の準備と対応

【スタッフ紹介】

人員構成

ICD (感染制御医師)	1名
医師	3名
感染管理認定看護師	1名
看護師	2名
感染制御認定薬剤師	1名
臨床検査技師	1名

褥瘡対策チーム (スキンケアチーム)

【概要】

医師を始め多職種のメンバーで月に1回スキンケア委員会を開催し、新規褥瘡発生の低減、褥瘡改善に向けた検討を行っています。また、週1回褥瘡診療計画書をもとに褥瘡保有患者を抽出し、スキンケア委員が中心となり褥瘡回診を行っています。褥瘡発生リスクの高い患者さんは、各病棟のリンクナースを中心に、使用マットの選択やポジショニング、栄養改善などの予防対策を実施しています。

役割

1. 全ての入院患者に対する褥瘡対策評価
2. 褥瘡発症リスクのある患者の治療計画
3. 褥瘡の治療やケア、ポジショニングへの助言
4. 褥瘡発生状況の把握・分析
5. 褥瘡予防対策用具の検討
6. ケアに関する知識・技術の習得と啓蒙

【活動内容】

褥瘡回診：週1回 (水曜日)
会議：月1回 (第2月曜日)

【スタッフ紹介】

人員構成

整形外科医師	1名
薬剤師	1名
理学療法士	2名
看護師	10名
管理栄養士	1名

抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

【概要】

抗菌薬の不適切な使用や長期間の投与が、薬剤耐性菌を発生あるいは蔓延させる原因となります。抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team: AST) は、医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師で構成され、抗菌薬の使用を適切に管理・支援するためのチームです。ASTでは、日常的に主治医から抗菌薬選択や投与量設計などの相談を応需し、週1回チームミーティングで症例検討を行い、継続的な介入支援を行っています。個々の患者に対して主治医が抗菌薬を使用する際、最大限の治療効果を導くことと同時に、副作用や耐性菌の出現などの有害事象を出来るだけ最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了出来るように、診療科の枠を超えた支援を行っています。

役割

1. 特定抗菌薬使用症例や血液培養陽性症例などに対して感染早期からモニタリングを実施する。
2. 感染早期モニタリングで対象患者を把握後、ASTミーティングを実施し、以下の項目について治療方針への活用状況を継続的に評価し、診療録に記載するなど、必要に応じて主治医にフィードバックする。
 - ① 抗菌薬の選択、PK・PDに基づいた用法・用量の適切性
 - ② 適切な微生物検査・血液検査・画像検査の実施状況
 - ③ 治療薬物モニタリングの実施
3. 適切な検体採取と培養検査の提出やアンチバイオグラムの作成など、微生物検査・臨床検査が適正に利用可能な体制を整備する。
4. 抗菌薬使用状況や血液培養複数セット提出率などのプロセス指標及び耐性菌発生率や抗菌薬使用量などのアウトカム指標を定期的に評価する。
5. 定期的にAST活動状況とプロセス指標およびアウトカム指標について感染対策委員会に報告する。
6. 抗菌薬適正使用を推進するための研修会を開催し、抗菌薬マニュアルの作成や改訂を行う。
7. 採用されている抗菌薬の種類、用量などについて定期的に見直しを行う。
8. 他施設から抗菌薬適正使用の推進に関する相談対応を行う。

【活動内容】

ミーティング (症例検討)：週1回 (水曜日)
AST 研修：年2回
AST 活動報告：月1回
感染症診療相談業務：随時

【スタッフ紹介】

人員構成

ICD (感染制御医師)	1名
感染制御認定薬剤師	1名
薬剤師	1名
感染管理認定看護師	1名
臨床検査技師	1名

整形外科チーム

【概要】

整形外科疾患を有する患者さんに対して、医師、看護師、リハビリテーションスタッフが専門知識を生かし、様々な治療・退院支援を検討し提案を行っています。令和5年度は、日本スポーツ協会認定のジュニアスポーツ指導員を2名取得し、スポーツ復帰に向けたリハビリテーションやサポートが行えるよう体制を整えております。

役割

1. 術後管理の確認と指導・提言
2. リハビリテーションと病棟ADLの進行状況を医師と共有し、治療方針の立案
3. 退院に向けた方針の確認と検討
4. 早期退院や社会復帰を助ける

【活動内容】

回診：週2回 (火曜日、金曜日)
整形外科ラウンド：術後管理の抜き打ちチェック (月1回)

【スタッフ紹介】

人員構成

医師	2名
看護師	2名
理学療法士	6名

緩和ケアチーム

【概要】

当チームは、認定看護師、薬剤師を中心にがん患者だけでなく非がん患者も含めた終末期の疼痛、呼吸苦、消化器症状などの臨床症状や精神症状の苦痛緩和への助言や提案を行っています。その他、患者さんご家族が自分らしい生活を送れるように自宅などへの退院サポートを支援しています。また、がんリハビリテーションにも力を入れ、患者さんのADLの維持や向上を目指しています。つねに、多職種で関与することを意識して様々な視点から患者さんをサポートするように努めています。さらに、チームでは、緩和ケアに関する知識向上やより薬物療法を理解してもらえようというアプリを構築し、病棟スタッフなどに利用してもらうことで「誰でも緩和ケア」に触れる機会を作れるようにしています。

役割

1. 身体的苦痛の緩和
2. 精神的苦痛の緩和
3. 社会的苦痛の緩和

【活動内容】

チームカンファレンス：緊急時適宜
定期カンファレンス：月1回
がんリハビリテーションとの連携

【スタッフ紹介】

人員構成

外科医師 …………… 1名
薬剤師 …………… 2名
緩和ケア認定看護師 …………… 1名
看護師 …………… 6名
理学療法士 …………… 1名
作業療法士 …………… 1名
公認心理師 …………… 1名

心不全チーム

【概要】

心不全チームでは、心大血管疾患の患者さんにおいて、多職種による総合的なチームケアを行います。入院時から回復の支援を図るとともに、退院後の在宅生活における再入院予防の指導まで行います。週1回の回診やカンファレンスを行い、よりよいケアが提供できるように活動しています。令和5年度は、心不全診療ファイルの作成に取り組みました。

役割

1. 安全で有効な運動の設定を検討していきます
2. 再発予防に向けて、生活習慣の指導、栄養指導、服薬指導を検討していきます
3. 院内研修を行い、知識の習得を図ります

【活動内容】

回診：週1回（水曜日）
カンファレンス：月1回
院内研修会：年1～2回

【スタッフ紹介】

人員構成

循環器内科医師 …………… 2名
薬剤師 …………… 2名
看護師 …………… 7名
管理栄養士 …………… 1名
理学療法士 …………… 4名
作業療法士 …………… 2名

がんのリハビリテーションチーム

【概要】

がん治療の早期から患者さんの身体的、精神的な症状に対して積極的に介入し、早期退院やより質の高い生活が送れるように関わっています。カンファレンスや病棟にて、情報共有を多職種間で行い、患者さんや家族の苦痛・不安に対して、連携を取りながら迅速に対応しております。がん患者さんやその家族を支え、よりよい生活が送れるようチーム医療を実施しています。

役割

1. 苦痛、不安の早期発見
2. 苦痛、不安に対する改善策の提案
3. 早期退院や社会復帰を促す（患者さんに適したリハビリテーションの介入）
4. 新しい知識の取得（研修会参加、専門資格取得）
5. 多職種による患者さんの状態把握、情報共有

【活動内容】

カンファレンス：月1回（第3火曜日）

【スタッフ紹介】

人員構成

外科医師 …………… 3名
薬剤師 …………… 3名
看護師 …………… 7名
医療ソーシャルワーカー …………… 1名
理学療法士 …………… 5名
作業療法士 …………… 2名
言語聴覚士 …………… 3名
公認心理師 …………… 1名

呼吸ケアサポートチーム（RST）

【概要】

呼吸器疾患が原因で入院された患者さんに対し、呼吸ケア・機材管理・ポジショニング・日常生活動作等について多職種で情報交換しより良いケアが提供できるように活動しています。令和4年に日本呼吸ケア・リハビリテーション学会および日本呼吸療法医学会の呼吸ケアサポートチーム（RST）施設に認定されました。令和5年度はNPPVの離脱の際にも、より安全に離脱ができるよう人工呼吸器の離脱と同様に多職種での介入を始めました。

役割

1. 人工呼吸器装着患者様の人工呼吸器離脱の促進、人工呼吸器装着期間の短縮を図る
2. 呼吸ケアを必要とする患者さんの医療事故の予防を図る
3. 院内外での呼吸ケアの普及や啓蒙を図る
4. 呼吸ケアに必要な器材の導入・管理の標準化を図る
5. 医療の経済的な改善（コストの軽減）を図る
6. 在宅復帰にむけた動作指導・機材選定の提案

【活動内容】

回診：週1回（火曜日）

【スタッフ紹介】

人員構成

呼吸器内科医師 …………… 1名
看護師 …………… 6名
臨床検査技師 …………… 1名
理学療法士 …………… 4名

糖尿病チーム

【概要】

糖尿病は自覚症状が乏しく、自分では身体の中でどのような変化が起きているのか自覚することができません。しかし、気がつかないまま長年放置してしまうことで、生活に支障を来すような合併症が起きることがあります。糖尿病に関する正しい知識の普及と啓発、糖尿病治療中の方の療養のサポートなどに関して、多職種のスタッフがそれぞれの専門知識を活かし協力しながら活動しています。専門医、糖尿病療養指導士（看護師、臨床検査技師、薬剤師）、管理栄養士、鳥取県糖尿病療養指導士（理学療法士）が専門的知識を活かして連携し、糖尿病患者の日常的な療養生活のサポートを行っています。また、月に1回糖尿病教室を開催し、糖尿病教育入院及び外来患者へのケア向上に努めています。

役割

年2回患者さんとスタッフのふれあいの場である博愛ウオーキングを開催しています。
また、患者さん向けの情報発信として「かえて通信」を発行しています。
〈専門医〉治療方針を計画し、治療を遂行する為の援助とともに、日常生活の習慣を変えるための動機付けなどを行います。
〈看護師〉入院・外来患者に対し、インスリン注射指導、生活全般に関する療養指導などを行います。
〈管理栄養士〉個々の患者に合わせた栄養指導を行います。
〈理学療法士〉耐糖能向上のための運動療法を指導し、身体状況に合わせた生活指導を行います。
〈薬剤師〉薬学的観点から患者を援助するだけでなく、生活全般について適切な情報を提供します。
〈臨床検査技師〉糖尿病教室では検査値の見方を説明し、血糖測定器の使用方を解説し、トラブルにも対応しています。

【活動内容】

糖尿病教室：1回／月（7日間）
かえて通信発行：年6回
博愛ウオーキング：年2回
院内研修会：年1回

【スタッフ紹介】

人員構成

医師 …………… 2名
看護師 …………… 2名
薬剤師 …………… 1名
臨床検査技師 …………… 3名
管理栄養士 …………… 1名
理学療法士 …………… 2名
作業療法士 …………… 1名

認定資格

日本糖尿病療養指導士 …… 4名
鳥取県糖尿病療養指導士 …… 4名
鳥根県糖尿病療養指導士 …… 1名

栄養サポートチーム(NST)

【概要】

入院当初から、個々の患者さんの体格や病態に合わせた栄養療法を実施することで、栄養状態を改善し、疾患の治療効果を上げ、合併症の予防やQOL（生活の質）を向上させるのが目的です。これにより在院日数を短縮し、医療費を削減することも期待されます。専門知識や技術を持った多職種（医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、検査技師）が、各々の専門性を活かしながら、職種間の垣根を越えたチームで入院患者の栄養管理にあたります。

当院のNSTは、一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会 NST稼働認定施設として承認されています。

役割

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 栄養不良患者の早期発見 | 4. 栄養状態の改善による治療促進 |
| 2. 個々の患者の適切な栄養管理状況の確認 | 5. 栄養管理上の相談応需 |
| 3. 最もふさわしい栄養管理法を指導・提言 | 6. 合併症の予防や、医療費の削減 |
| | 7. 早期退院や社会復帰を助ける |

【活動内容】

回診：週1回（火曜日）
会議：月1回（第4火曜日）
院内研修会：年1～2回

【スタッフ紹介】

人員構成

医師 …………… 4名
薬剤師 …………… 2名
臨床検査技師 …………… 1名
看護師 …………… 7名
管理栄養士 …………… 3名
言語聴覚士 …………… 2名
理学療法士 …………… 1名

認定資格

TNT研修会受講修了（内科医師）…2名
NST専門療法士…3名
NST専門療法士実地修練研修修了…5名

ふくよね博愛クリニック

【概 要】

名 称	ふくよね博愛クリニック 院長 櫃田豊
所在地	〒683-0802 鳥取県米子市東福原7丁目10-3 TEL(0859)21-0171 FAX(0859)34-5676
創 立	令和4年4月1日
診療科	内科、総合診療内科、呼吸器内科、糖尿病内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科
専門外来	糖尿病外来、消化器・肝臓外来、循環器外来
職員数	7名



【令和5年度の主な出来事】

年 月 日	事 項
令和5年 4月 1日	クリニック開設1周年
4月 5日	循環器外来新設(毎週水曜日9:00～12:00)
7月 3日	糖尿病外来増設(毎週金曜日14:00～17:00)
10月 12日	第1回健康教室開催「自宅でもできる腰痛対策」
12月 14日	中国四国厚生局および鳥取県による社会保険医療担当者の個別指導
12月 14日	第2回健康教室開催「認知症予防」
令和6年 1月 23日	「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく第二種協定指定医療機関に指定

目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 一般診療の充実
2. 在宅医療への貢献
3. 予防医療の推進

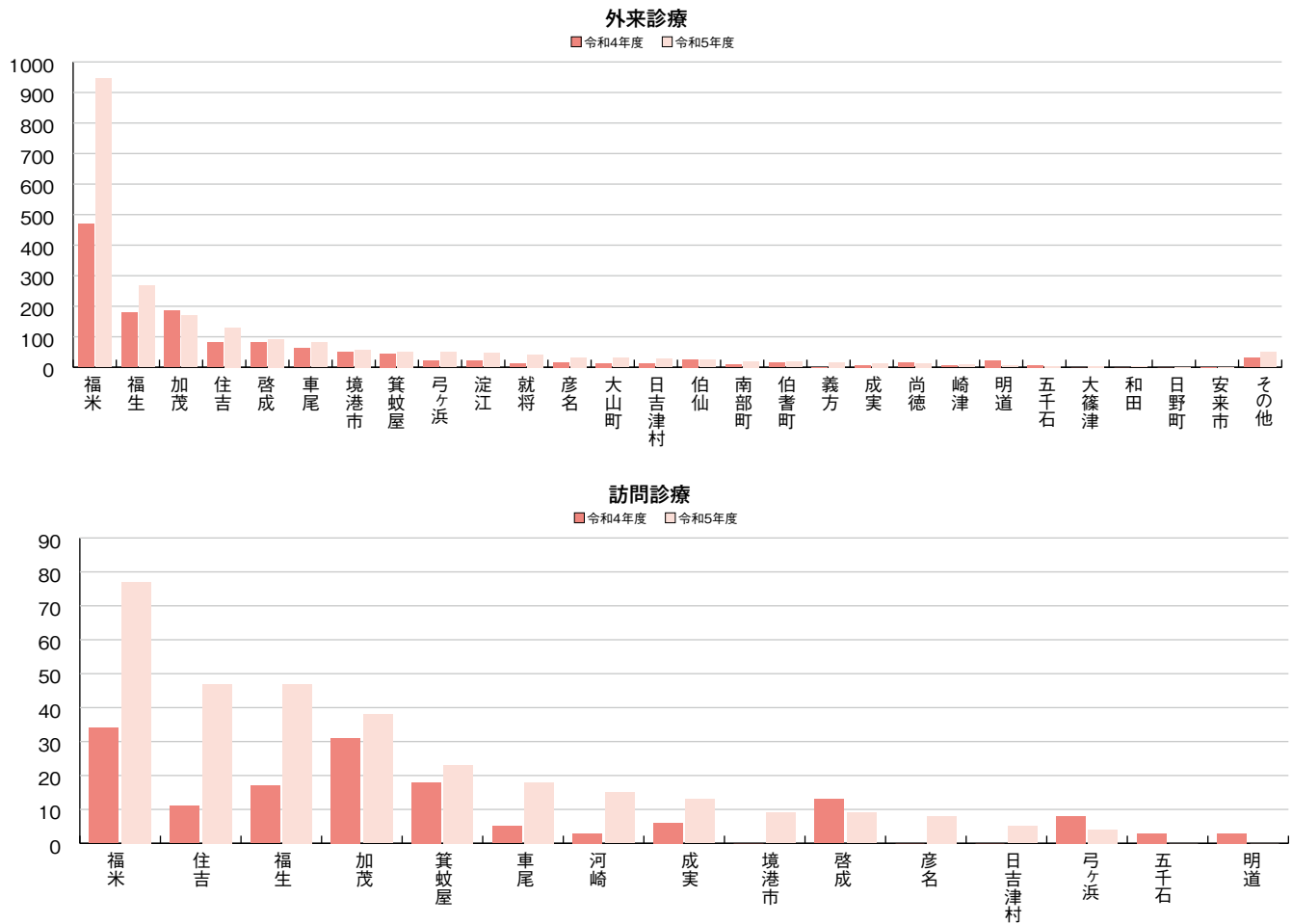
令和6年度

1. 一般診療の充実
2. 在宅医療への貢献
3. 予防医療の推進

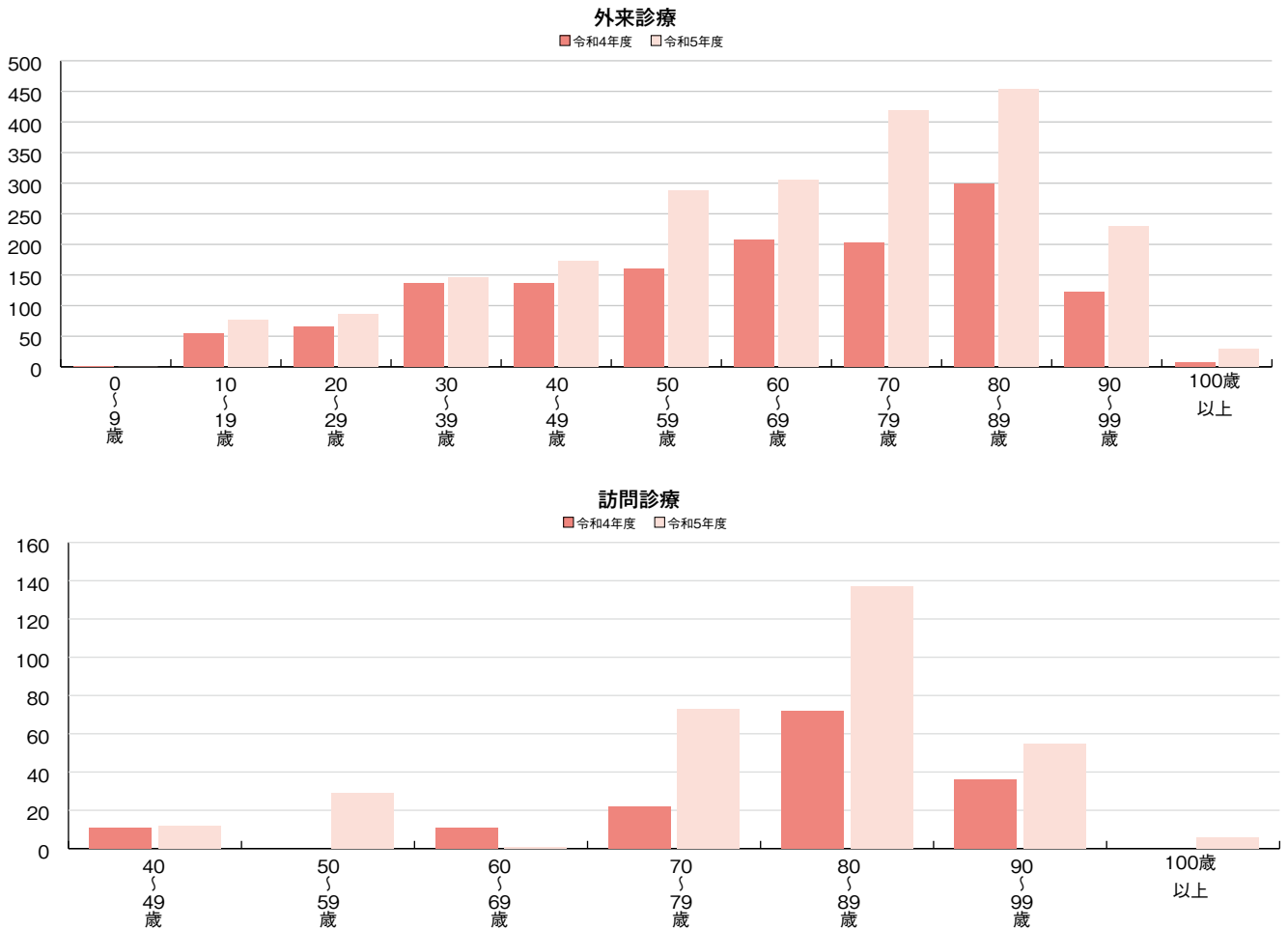
【実 績】

		令和4年度	令和5年度
外来患者数	総合診療	1,236	1,628
	糖尿病	71	224
	消化器	37	55
	循環器	—	89
	合計	1,344	1,996
訪問診療・往診件数	訪問診療	157	363
	往診	57	95
	合計	214	458
予防接種・健診件数	予防接種	279	821
	健診	77	175
	合計	356	996
合計		1,914	3,450

(1) 地域別延べ患者数



(2) 年代別延べ患者数



【スタッフ紹介】

責任者

院長／榎田 豊

人員構成

医師…………… 4名

(うち非常勤3名)

看護師…………… 2名

事務員…………… 1名

認定資格

日本内科学会認定内科医…………… 3名

日本呼吸器学会専門医・指導医…………… 1名

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医…………… 1名

日本感染症学会ICD制度協議会認定医…………… 1名

日本糖尿病学会専門医・指導医…………… 1名

日本消化器病学会専門医…………… 1名

日本消化器内視鏡学会専門医…………… 1名

日本肝臓学会専門医…………… 1名

【医師紹介】



院長 榎田 豊(鳥取大学 昭和55年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
(認定内科医・内科指導医・中国地方会評議員)
- ◆日本呼吸器学会
(専門医・指導医・中国四国地方会評議員)
- ◆日本プライマリ・ケア連合学会(認定医・指導医)
- ◆日本感染症学会(ICD制度協議会認定医)
- ◆山陰救急医学会(評議員)
- ◆日本癌学会
- ◆日本糖尿病学会
- ◆日本禁煙学会
- ◆日本医療マネジメント学会

循環器内科外来担当医

博愛病院

循環器内科主任部長

田中 保則……………循環器内科(P15) 参照

糖尿病内科外来担当医

博愛病院

糖尿病・内分泌内科部長

竹内 龍男……………糖尿病・内分泌内科(P18) 参照

消化器・肝臓内科外来担当医

博愛病院

消化器内科主任部長

松本 栄二……………消化器内科(P13) 参照

【診療担当表】 令和5年7月1日～

診療内科	受付時間	月	火	水	木	金	土
一般診療 (午前)	9:00～12:00	榎田	榎田	田中	榎田	榎田	榎田
一般診療 (午後)	15:00～19:00	榎田 17:00まで 訪問診療	榎田	榎田 17:00まで 訪問診療	—	榎田 17:00まで 訪問診療	—
専門診療 (午前)	9:00～12:00	—	—	田中 (循環器)	—	—	—
専門診療 (午後)	14:00～17:00	竹内 (糖尿病)	—	松本 (消化器) (肝臓)	—	竹内 (糖尿病)	—

休診日／日曜日・祝日・年末年始(12/29～1/3) ※木・土曜日の午後は休診となります

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当クリニックは博愛病院の外来機能を気軽に利用していただけるクリニックとして令和4年4月に開設しました。2年目には専門性をさらに充実させるため、糖尿病外来を増設し、循環器外来を新設しました。従来からの総合診療外来(呼吸器外来)、消化器外来とともに、ご利用下さいませようお願いいたします。また、同じく2年目から高齢者の健康づくりや介護予防に少しでもお役に立てるように、健康教室を定期的に開催するようにしました。ご出席の方には血管年齢の測定やハンドマッサージを行っています。ホームページ等に開催予定を掲載いたしますので、対象の方があれば、出席を勧めていただければ幸いです。訪問診療につきましては、2年目は1年目に比較して2倍以上の件数となりました。24時間対応であり、看取りも行っていますので、ご希望の患者さんがいれば、お気軽にご相談下さい。当クリニックは今後も、「博愛の心で、すべての患者さんの健康増進と健康管理に寄与し、地域住民が安心して暮らせる社会づくりに貢献する」との理念に従い、努力を重ねていきます。どうぞ、よろしくお願いします。

博愛こども発達・在宅支援クリニック

【概 要】

名 称	博愛こども発達・在宅支援クリニック 院長 玉崎章子
所在地	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880 TEL(0859)29-8010 FAX(0859)29-8020
創 立	平成31年4月
病床数	5床
診療科	脳神経小児科、小児科
事業内容	障害福祉サービス事業: 多機能型事業所(児童発達支援・放課後等デイサービス) 定員10名 医療型短期入所 空床利用 委託事業: 鳥取県医療的ケア児等支援センター 小児慢性特定疾病療養生活支援事業 地域子ども・子育て支援事業 病児保育かるがも 定員9名
職員数	17名



【令和5年度の主な出来事】

年	月	日	事 項
令和5年	4月	3日	淀江小学校医療的ケア研修会
	4月	4日	車尾小学校医療的ケア研修会
	9月	17日	鳥取県医療的ケア児等支援センター共催オーケストラ演奏会
	10月	1日	脳神経小児科初診受付フォーム運用開始
	10月	10日	
	～10月13日		多機能型事業所 保護者参観週間
	10月	13日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修①
	10月	14日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修②
	10月	19日	JR米子駅様との交流会(瑞風横断幕作成)
	10月	25日	救急救命士を対象とした小児在宅医療研修会開催
	11月	3日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修③
	11月	4日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修④
	11月	9日	NK札幌ミュージック「おとのおともだち」
	11月	25日	ICT支援機器スタッフ育成コース研修会①
	12月	6日	多機能型事業所 保護者交流会
	12月	17日	ICT支援機器スタッフ育成コース研修会②
	12月	20日	JR米子駅様との交流会(クリスマスプレゼント贈呈)
	12月	22日	maru+様との交流会(クリスマスプレゼント贈呈)
令和6年	2月	17日	ICT支援機器スタッフ育成コース研修会③
	2月	18日	ICT支援機器スタッフ育成コース研修会④
	2月	28日	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修



目標(BSC重点施策)

令和5年度

1. 医療的、社会的にハイニードな子どもと家族の支援
2. 自ら学ぶことのできる人材の育成
3. 患者（利用者）から信頼される医療と福祉の提供
4. 重度障がい者グループホーム体制整備支援

令和6年度

1. 医療的、社会的にハイニードな子どもと家族の支援
2. 多職種連携実践ができるチームの形成
3. 患者（利用者）から信頼される医療と福祉の提供
4. 医療的ケア児等支援センター機能の充実

【実績】

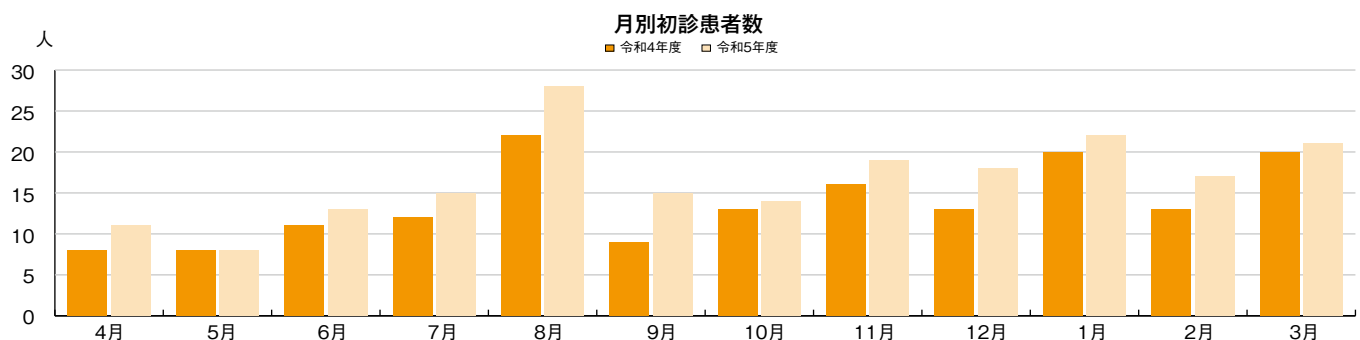
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
脳神経小児科外来受診者数	1,839	1,802	1,960
小児科外来受診者数	3,071	3,027	4,075
訪問診療・リハビリ実績	699	937	1,005
予防接種・乳幼児健診受診者数	1,054	1,318	942
児童発達支援事業利用者数	449	392	336
放課後等デイサービス事業利用者数	67	31	50
医療型短期入所利用者数	745	726	859
病児保育利用者数	697	373	801

医療サービス

(1) 脳神経小児科

発達の遅れ、子育てのしにくさ、就園や就学、不登校に関する相談が多い。

初診患者数 令和4年度 165人 令和5年度 201人 新規患者数は、1年間を通してひと月あたり平均15件前後となった。

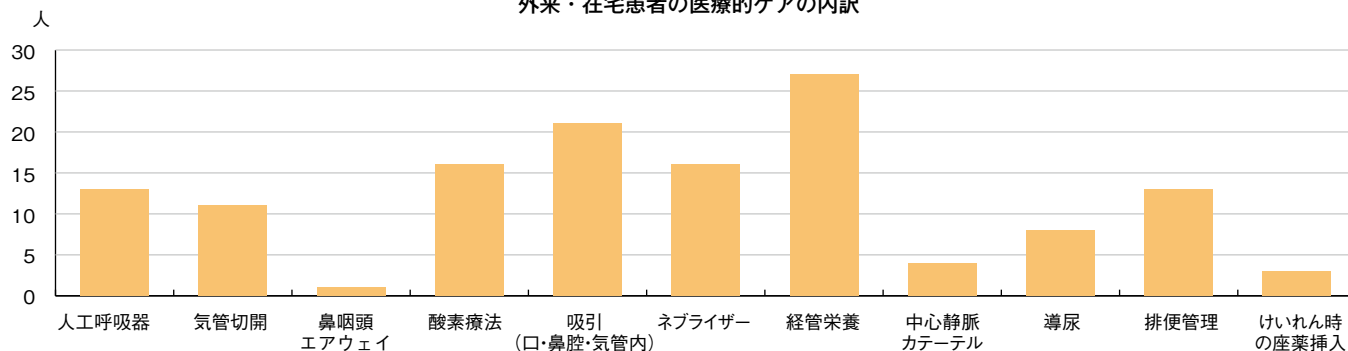


令和5年度は、学校、医療機関からの紹介が28%、続いて保育園からの紹介が17%、保護者からの問い合わせが15%だった。初診患者のほとんどが、リハビリ、発達検査の実施、カウンセリングにつながっている。外来リハビリテーションでは、発達促進・呼吸管理・機能訓練などを中心に理学療法や作業療法を実施、また家族等への指導も行っている。不登校が増加したことにより、カウンセリング実施件数も徐々に増加している。

発達障害、不登校の診療の他に、重症心身障がい児・者、医療的ケア児の外来・在宅診療を行っている。(外来診療13人、訪問診療33人) 訪問診療では、在宅生活を送る障がい児・者、重症心不全、小児がんの体調管理を行っている。法人内に重度障がい者のグループホームが開設したことにより、施設への訪問診療も開始した。訪問リハビリテーションは、医療的ケア児・者の呼吸管理や発達支援等を目的に、在宅や施設へ伺い、理学療法・作業療法・言語療法を行い、さらに視線入力やスイッチ等のICT機器を用いたリハビリテーションを導入した。

重症心身障がい児・者、医療的ケア児の年齢別内訳	
0～6歳	11人
7歳～18歳	12人
19歳以上	23人

外来・在宅患者の医療的ケアの内訳

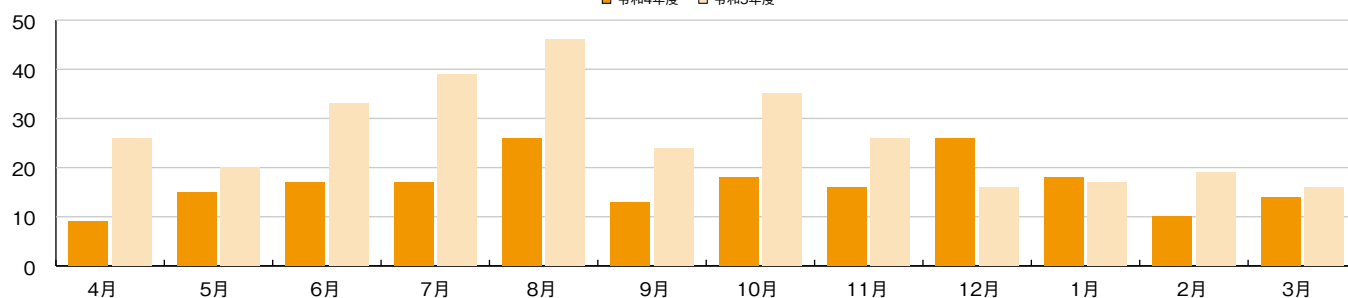


(2) 小児科

令和5年度は令和4年度とは異なり、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な感染症が本来発生する季節とは異なる季節で発生した。季節性インフルエンザに関しては、1年を通して感染者が発生。患者数は、例年より増加傾向となった。

月別初診患者数

■ 令和4年度 □ 令和5年度



障害福祉サービス

(1) 児童発達支援

未就学の重症心身障がい児、医療的ケア児を日中お預かりし、成長発達を促すための生活訓練等を行っている。児童発達支援管理者をはじめ、看護師、保育士、理学療法士を配置し、ひとりひとりの成長に合わせ集団療育や遊びを行い、家族支援も行っている。

(2) 放課後デイサービス事業

就学中(小学校～高校)の重症心身障がい児、医療的ケア児を学校終了後および長期休暇中にお預かりし、療育的な関わり方や生活訓練等を行う。

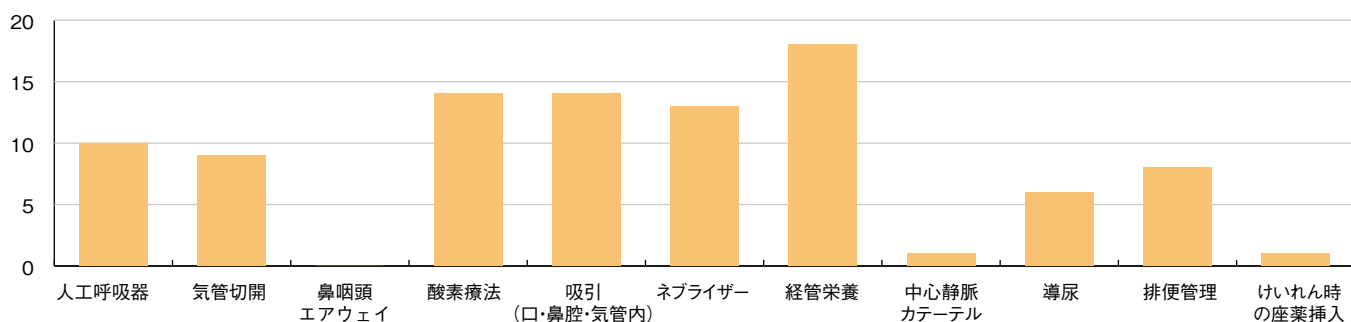
(3) 医療型短期入所

医療機関を併設した、重症心身障がい児、医療的ケア児を一時的にお預かりする事業。充実した在宅生活を送れるよう、家族や関係機関等と協働し、健康管理や入浴、食事、交流活動等のサービス提供を行っている。

登録者数31人

障害福祉サービス利用者の年齢別内訳	
0～6歳	12人
7歳～18歳	8人
19歳以上	11人

障害福祉サービス利用者の医療的ケアの内訳



地域子ども・子育て支援事業

病児保育かるがも

お子さまが病氣中、または病氣回復中に仕事の都合などで家庭での保育が難しいときに利用する。米子市からの委託を受けて運用、当院は医師・看護師を配置し隣接している院内保育園かるがもから保育士を派遣している。令和5年度は、連日予約を再開した。

医療的ケア児及びその家族に対する支援事業

鳥取県医療的ケア児等支援センター総合相談窓口

令和4年6月より、鳥取県の委託を受けて当院が総合窓口としてスタート。相談や育成、様々な研修等を行っている。

令和5年度 医療的ケア児等コーディネーター養成研修

令和元年に医療的ケア児等総合支援事業（地域生活支援促進事業）が全国で開始され、都道府県に医療的ケア児等の支援を総合調整する者として、医療的ケア児等コーディネーターを養成する研修会の開催が位置づけられました。鳥取県でも、地域において医療的ケア児等への支援を総合調整するコーディネーターを養成するための研修を実施しています。当クリニックは総合相談窓口として研修の統括をしています。

スケジュール	科目	項目
事前学習 (配信視聴)	医療	障害のある子どもの成長と発達の特徴
		疾患の特徴・生理
		日常生活における支援
		緊急時の対応
		訪問看護の仕組み
		訪問診療の仕組み
		虐待が疑われたときの対応、地域の仕組み
1日目 令和5年 10月13日(金)	総論	医療的ケア児等の地域生活を支えるために
		医療的ケア児等コーディネーターに求められる資質と役割
	福祉Ⅱ	支援の基本的な枠組み
		福祉の制度
		事例提示:医療・福祉制度の活用について考えよう!
	本人・家族の思いの理解Ⅰ 福祉Ⅲ ライフステージにおける支援Ⅰ 支援体制整備	本人・家族の思い
		病院からの在宅移行支援
		療育機関での遊び・活動参加
		地域の保育園への就園と遊び・保育
		医療的ケア児の就学支援と学校での学び
		成人期(就労に向けて)
		各ライフステージにおける相談支援に必要な視点、医療的ケアの必要性が高い子どもへの支援、支援チーム作りと支援体制整備、支援チームを育てる、事例、医療・福祉・教育の連携、地域資源開拓、資源の創出方法
2日目 令和5年 10月14日(土)	本人・家族の思いの理解Ⅱ 福祉Ⅳ	ニーズアセスメント
		ニーズの把握事例、家族支援
	意思決定支援 計画作成のポイント 演習	意思決定支援
		演習に向けた計画作成のポイント
3日目 令和5年 11月3日(金・祝日)	演習 計画作成	計画作成の練習ワーク
		サービスや制度の導入だけでない子どもと家族の支援の仕方を考えよう!
		・演習Ⅰ:事例の掘下げ
		・演習Ⅱ:計画作成
		・演習Ⅲ:計画の発表
		・演習Ⅳ:模擬担当者会議のポイント
4日目 令和5年 11月4日(土)	演習 事例検討	・演習Ⅴ:ライフステージの変化に伴う計画の再検討
		・演習Ⅵ:計画作成
		・演習Ⅶ:発表
		・演習Ⅷ:模擬担当者会議
		・演習Ⅸ:意見交換、研修振り返り、医療的ケア児等支援センターとの連携について

【スタッフ紹介】

責任者

院長／玉崎章子
小児科部長／福永真紀

人員構成

医師……………2名
看護師……………6名
理学療法士……………2名
作業療法士……………1名
公認心理師……………1名
保育士……………3名
事務員……………2名
(非常勤)
管理栄養士
言語聴覚士
公認心理師
夜間看護師

所属学会

日本小児科学会……………1名
日本小児アレルギー学会……………1名
日本小児神経学会……………1名
日本重症心身障害学会……………2名
日本医療教授システム学会……………1名
日本作業療法士協会……………1名
日本ボース研究会……………1名
日本小児看護学会……………1名
日本小児救急医学会……………1名
日本在宅医療連合学会……………1名

認定資格(研修修了含む)※医師以外

小児救急看護認定看護師……………1名
三学会合同呼吸療法認定士……………1名
児童発達支援管理責任者……………2名
医療的ケア児等コーディネーター研修修了……………4名
発達障害コミュニケーション初級指導者……………1名
発達障害コミュニケーション中級指導者……………1名
ミュージックケア初級研修修了……………1名
日本ボース研究会成人片麻痺認定基礎講習会修了……………1名
重症児の在宅支援を担う医師等養成研修修了……………1名

【医師紹介】



院長 玉崎 章子(鳥取大学 平成14年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本小児科学会認定 小児科専門医
- ◆日本小児神経学会認定 小児神経専門医
- ◆小児慢性特定疾病指定医
- ◆難病の患者に対する医療等に関する法律に基づく難病指定医



小児科部長 福永 真紀(川崎医科大学 平成2年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本小児科学会認定 小児科専門医
- ◆小児慢性特定疾病指定医
- ◆難病の患者に対する医療等に関する法律に基づく難病指定医

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

博愛こども発達・在宅支援クリニックは開院から6年目を迎えました。医療的ケア児や重症心身障がい児、難病児の医療、発達支援、在宅支援のニーズだけでなく、コロナ禍から、発達障がいや不登校のお子さんと、その家族の心の支援のニーズが増加しています。地域の学校、保育園・幼稚園、行政、障害福祉サービス事業所と連携を取りながら、子どもたちが安心して楽しく過ごせる、保護者さんたちが育児を楽しめるよう、クリニックとしての役割を果たしていきたいと考えています。

こどもたちの作品



介護老人保健施設やわらぎ



【概 要】

名 称	介護老人保健施設やわらぎ 施設長 大村宏(内科医)
所在地	〒683-0801 鳥取県米子市新開4丁目11-13 TEL(0859)31-1000(代) FAX(0859)31-1003
創 立	平成6年5月30日
定 員	入所(ショートステイ含む)77名・デイケア40名
居 室	個室5室・2人部屋5室・4人部屋13室・ユニット型個室10室
事業内容	介護保険サービス事業(介護老人保健施設:やわらぎ、通所リハビリテーション事業:デイケアやわらぎ、短期入所療養介護事業:ショートステイやわらぎ)
職員数	72人

【令和5年度の主な出来事】

年 月	事 項
令和5年 4月	花見
5月	こいのぼり運動会・塗り絵コンテスト、身体拘束廃止研修会
6月	魚釣り、インシデント・アクシデント再発防止研修会、KYT研修 食中毒防止についての研修会
7月	七夕レクリエーション
8月	納涼祭、施設改修、感染症の予防に関する研修会
9月	花火大会、あじさいの会、敬老会、認知症研修会 倫理および法令順守に関する研修会
10月	運動会
11月	作品展、プライバシー保護(個人情報)に関する研修会
12月	クリスマス会、あじさいの会、接遇研修会
令和6年 1月	新年会、ST研修会、防災訓練
2月	節分・豆まき、虐待防止研修会
3月	ひな祭りパレード、救急時の対応に関する研修会、腰痛予防研修会 虐待防止に関する研修会、活動報告会



目標(BSC重点施策)

令和5年度

- 1. 経営の安定化を図る
- 2. 安全で質の高いサービスの提供
- 3. 組織形成・職場環境の見直し
- 4. 地域住民や関連施設との連携強化

令和6年度

- 1. 2024年度介護報酬改定に伴う経営戦略の立案と実践
- 2. 利用者1人1人の個性に対応し、安全性の高い援助の提供
- 3. 「働き方改革」を見据えた職場環境の整備
- 4. 地域社会及び関連施設との連携を強める

【実績】

介護老人保健施設やわらぎ

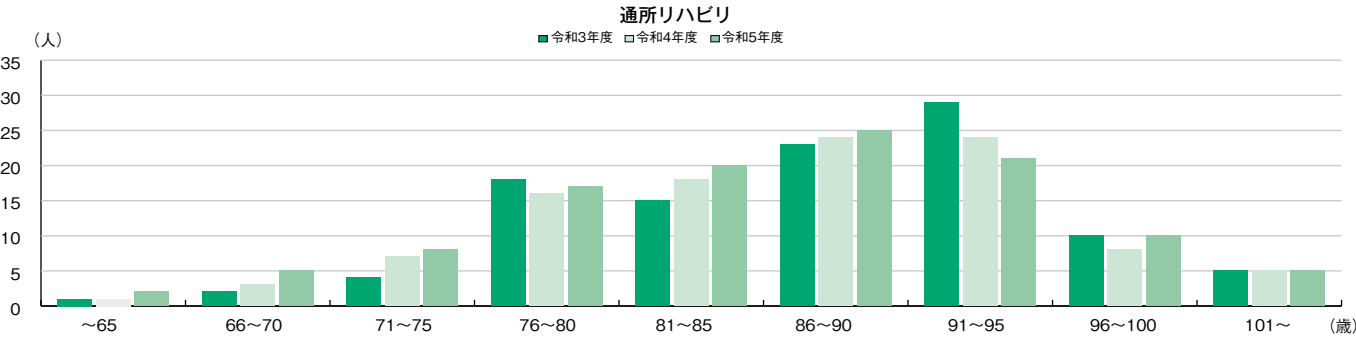
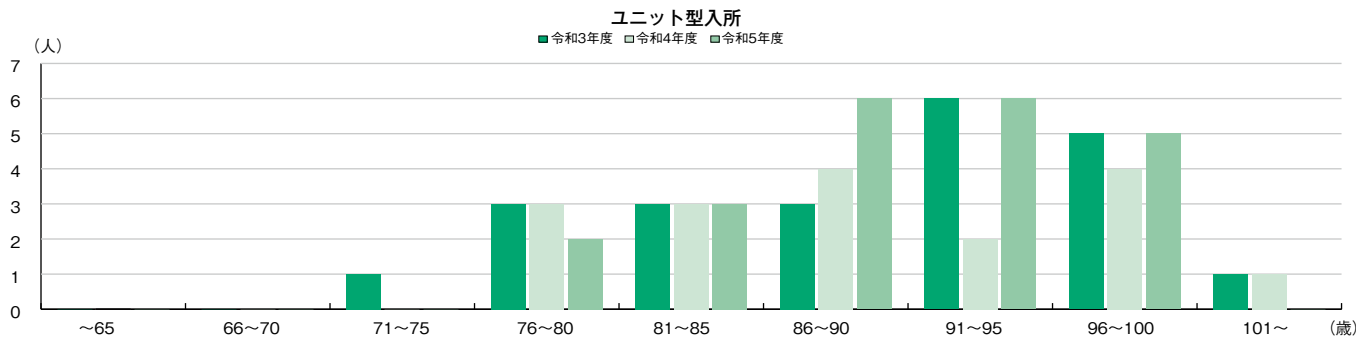
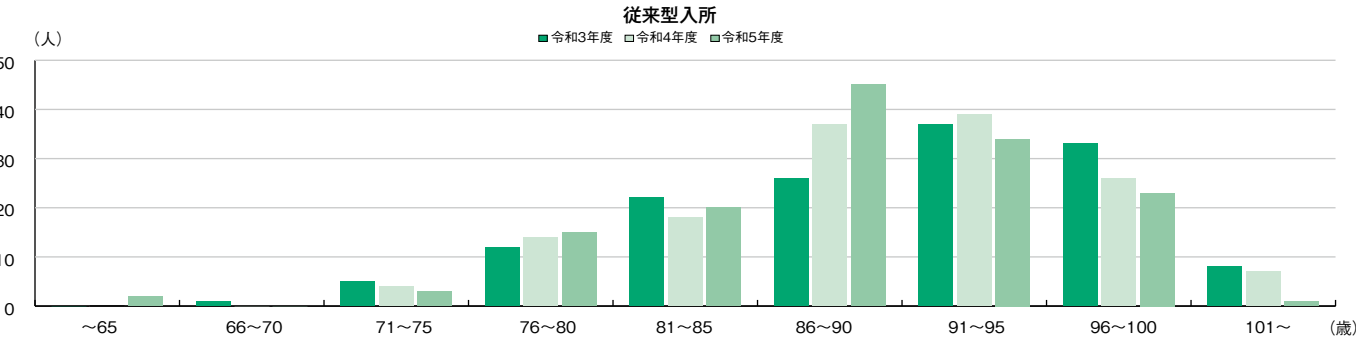
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用延べ人数	25,681	26,050	25,032
平均利用者数(人/月)	70.4	71.4	68.4
平均要介護度	3.2	3.3	3.3
新規入所者数	81	81	87
再入所者数	57	57	49
退所者数	134	121	140

デイケアやわらぎ

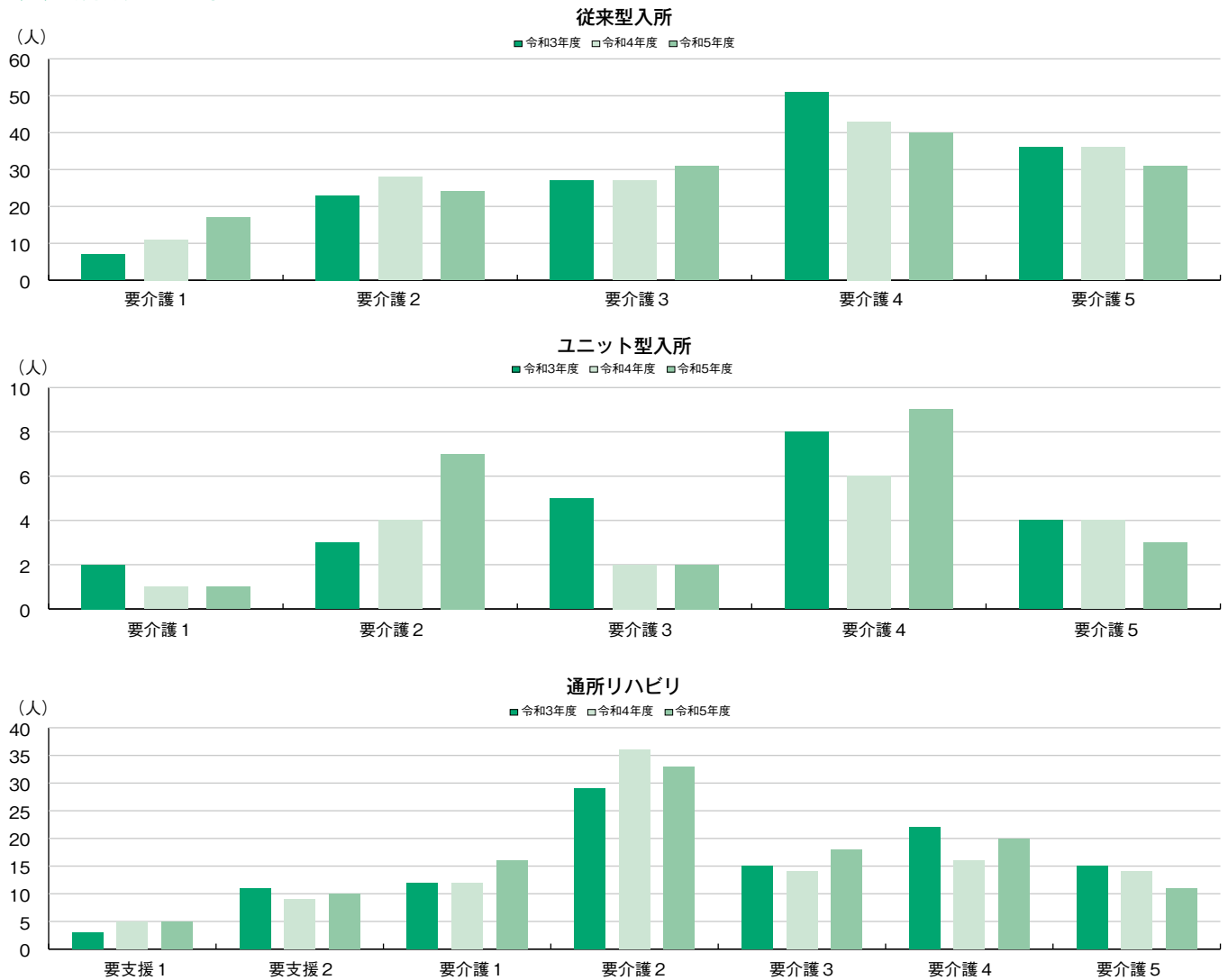
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用延べ人数	8,010	6,197	7,431
稼働日数	296	282	267
平均利用者数(人/日)	27.1	22.0	27.8
平均要介護度	2.4	2.5	2.4
開始利用者数	35	36	54

入所および通所リハビリ利用者状況

(1) 年齢の分布

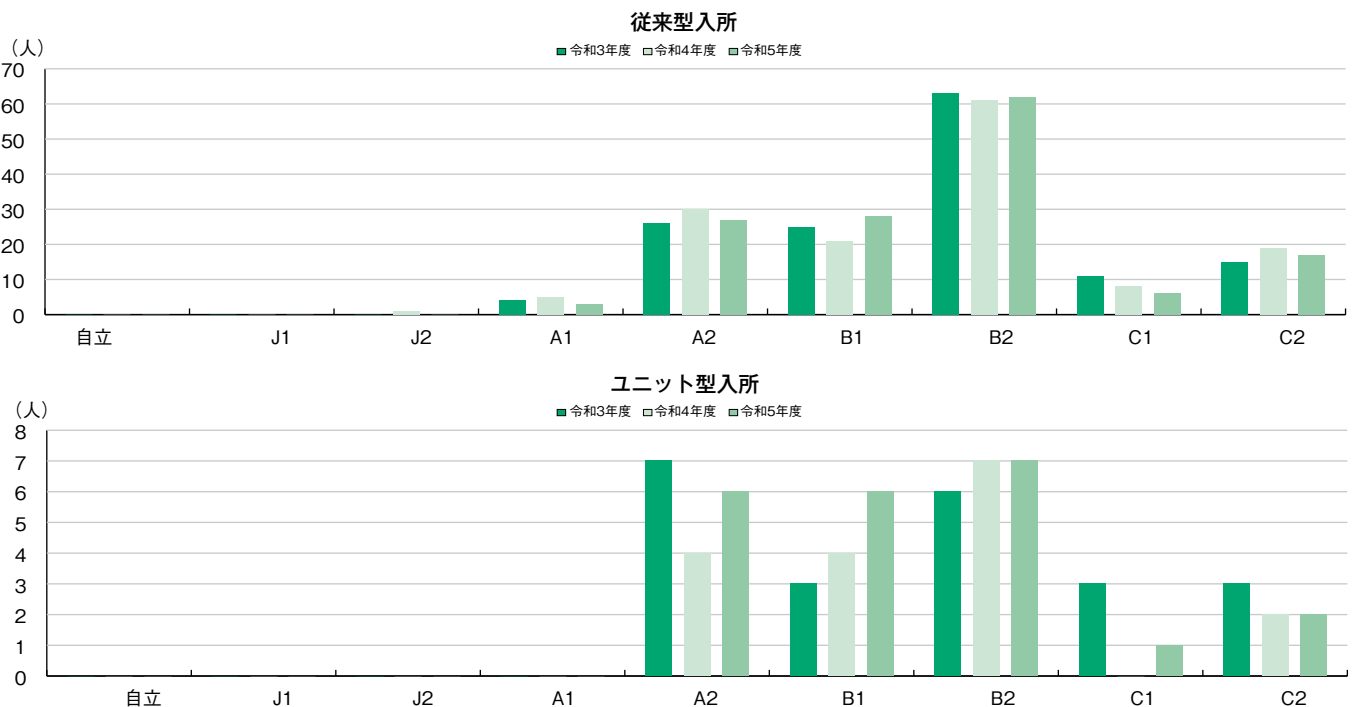


(2) 要介護度の分布

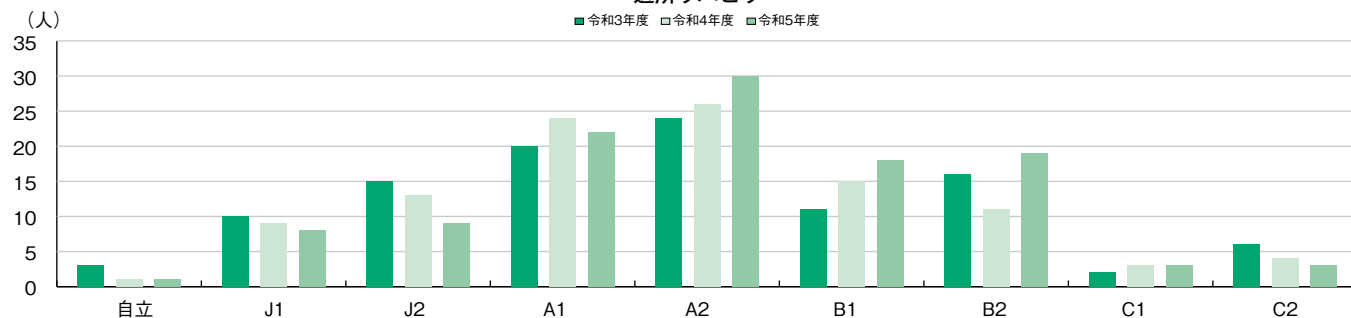


(3) 寝たきり度の分布

- | | |
|------------------|------------------|
| J1 1人で交通手段利用して外出 | B1 自力で車椅子に移乗 |
| J2 1人で隣近所への外出 | B2 移乗に介助が必要 |
| A1 比較的多く外出(介助要) | C1 寝たきり(寝返りできる) |
| A2 外出はまれ(介助あり) | C2 寝たきり(寝返りできない) |



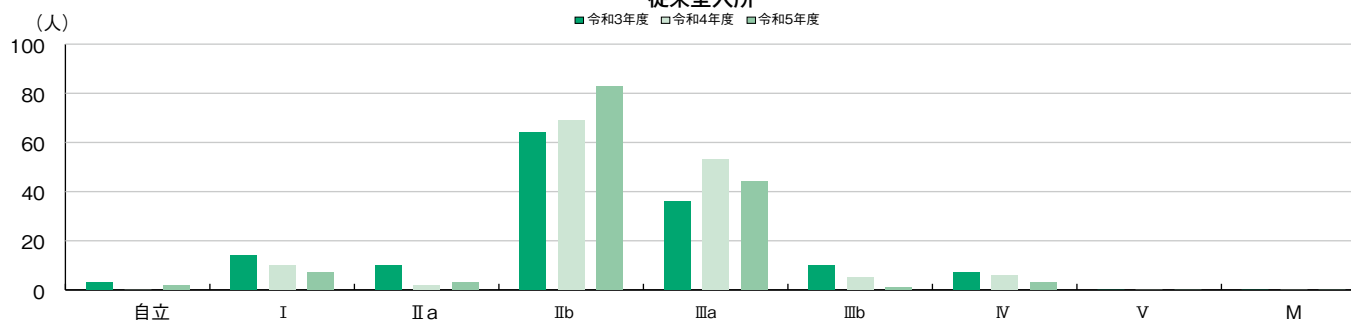
通所リハビリ



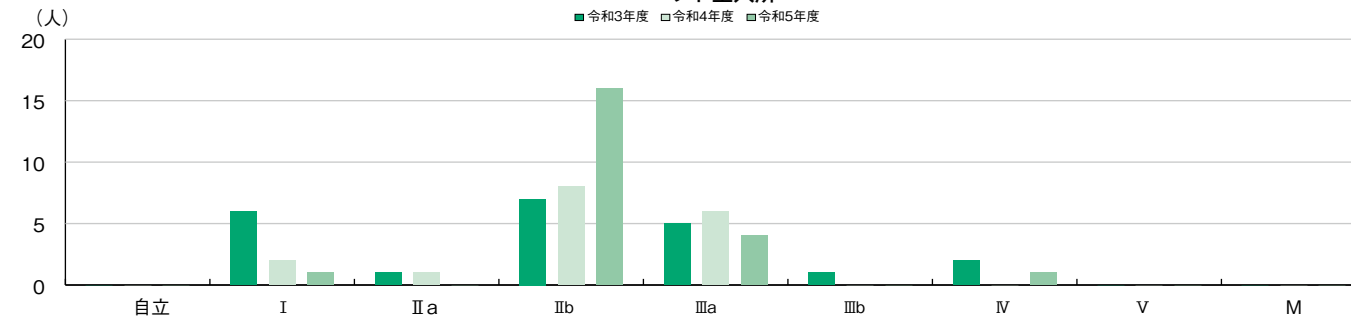
(4) 認知症高齢者の日常生活自立度

- I はば自立で一人暮らし可能
IIa 家庭外のみ誰かの注意が必要
IIb 家庭内でも誰かの注意が必要
IIIa 日常生活に支障あり、日中中心に介護が必要
IIIb 日常生活に支障あり、夜間も介護が必要
IV 日常生活に支障ある困難さが頻繁にあり、常に介護が必要
V 周辺症状や身体状態が重篤で専門医療を必要とする

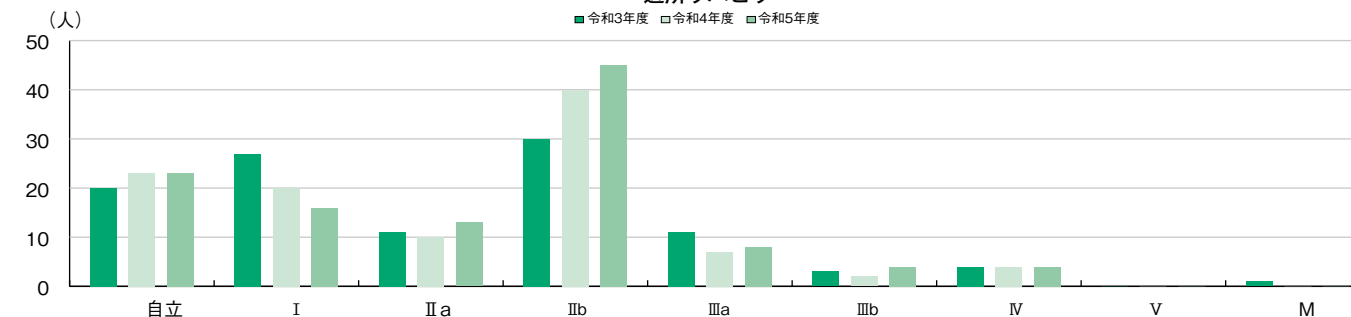
従来型入所



ユニット型入所



通所リハビリ



【スタッフ紹介】

責任者

施設長・老人保健施設管理認定医／大村宏

人員構成

医師	1名
看護師	9名
准看護師	4名
理学療法士	3名
作業療法士	5名
管理栄養士	1名
介護福祉士	36名
介護員	12名
支援相談員	2名
事務員	5名

認定資格

介護支援専門員(ケアマネジャー)	9名
社会福祉士	2名
精神保健福祉士	1名
介護福祉士実習指導者	5名
認知症介護実践者研修修了	9名
認知症介護実践リーダー研修修了	4名
認知症ケア専門士	2名
認知症チームケア推進研修修了者	3名
喀痰吸引等研修指導看護師	3名
認定特定行為業務(喀痰吸引・経管栄養)従事者認定	14名
介護プロフェッショナルキャリア段位評価者(アセッサー)	4名
ユニットリーダー研修修了	5名
介護老人保健施設リスクマネジャー	2名
臨床実習指導者	1名
生活行為向上マネジメント研修修了	4名
福祉住環境コーディネーター	2名
第一種衛生管理者	1名

【医師紹介】



施設長 大村 宏(長崎大学 平成2年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本血液学会
- ◆日本癌学会
- ◆日本緩和医療学会
- ◆日本老年医学会(老人保健施設管理認定医)
- ◆老人保健施設管理医師総合診療研修修了
- ◆全国老人保健施設協会認知症短期集中リハビリテーション研修修了
- ◆日本医師会認定産業医

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

介護老人保健施設やわらぎは、「社会医療法人同愛会はあとふる・ねっとわーく」の一員として、博愛病院と連携し、入所者さんの日々の健康管理を行うと共に、入院の必要がある場合は、適切な医療機関への紹介を行います。また、医療機関で状態が落ち着いた患者さんに、在宅復帰に向けたリハビリと生活の場を提供する為の、速やかな入所にも心掛けています。

また、近年重視される様になった、施設での看取りについても、ご本人さんに取っても、ご家族に取っても、穏やかで安らかな看取りが出来る様に取り組んでいます。

今後も「老健やわらぎ」をどうかよろしくお願いいたします。

利用者さんの作品



医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

【概 要】

名 称	医療支援型グループホーム博愛
所在地	〒683-0801 鳥取県米子市新開4丁目11-13 TEL (0859) 30-3318 FAX (0859) 30-3319
創 立	令和5年10月1日
居 室	2棟併設(大山棟10室・弓浜棟10室)
定 員	20人(弓浜棟にはショートステイ用の居室1室を整備)
事業内容	障害福祉サービス事業 (日中サービス支援型共同生活援助事業:グループホーム博愛、福祉型強化短期入所事業:ショートステイ博愛)
職員数	18人



サービス内容

主に医療的ケアが必要な方や重症心身障がい者の方を対象としたグループホームです。グループホームでは、日常生活上の介護(入浴、排せつ及び食事の介助等)に加え、日中・夜間を問わず、24時間、看護師による健康観察、疾病予防、健康管理や医療的ケア及び相談その他日常生活上の支援を実施しています。
また、併設型として短期入所(定員1人)も実施しています。

【令和5年度の主な出来事】

年 月	事 項
令和5年 9月	開所式
10月	内覧会、グループホーム博愛開設、鳥取県知事視察
11月	マスコミ取材
12月	特別支援学校職員研修
令和6年 3月	防火訓練、虐待防止研修会、日中一時支援事業所登録(米子市・境港市)

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 経営の改善
2. 安全で質の高いサービスの提供
3. 職場環境の向上
4. 他機関との連携強化

【実 績】

		令和5年度
グループホーム博愛	入居者数	6
ショートステイ博愛	延利用者数	32

【スタッフ紹介】

責任者

管理者／高田治美

人員構成

管理者(事務) 1名
サービス管理責任者(看護師) 1名
看護師 8名
介護福祉士 7名
介護員 1名

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当事業所は、主に重度の障がいのある方を対象としたグループホームとして、令和5年10月1日に開所しました。全国的に、重症心身障がい者または医療的ケアが必要な障がい者等の受入可能なグループホームが不足している中、当事業所では、24時間の看護・介護体制により、重度の障がいのある方でも安心・安全にご利用いただける「住環境」を提供できるよう取り組んでいます。

当事業所の理念でもあります「障がいの有無に関わらず誰もが安心安全に暮らせる共生社会の実現」に向けて、地域の皆様を始め医療機関、福祉サービス事業所等との連携を密にして、障害福祉サービスの質の向上に努めてまいりますので、引き続き、よろしくお願いします。

令和6年度 部署別活動目標シート

令和6年度 部署別活動目標シート (法人本部)

理念(ビジョン) こどもから高齢者までみんなが健康で住みやすい地域社会の実現に貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	① 収 益 の 増 強	重点① 経営の改善	収益の増強
	② 在宅医療と福祉の充実	重点② 地域貢献	医療支援型グループホームの効率的運営 在宅医療の充実・強化
	③ 水道光熱費の削減	重点③ SDGs活動の推進	水道光熱費の削減
	④ 人 材 の 確 保	重点④ 人材育成	人材の確保
顧客の視点	① 情 報 発 信 ・ 連 携 強 化	重点① 経営の改善	情報発信・地域連携の強化
	② ニーズに合ったサービスの提供	重点② 地域貢献	医療支援型グループホームの運営 在宅医療利用者満足度向上
	③ SDGs 活動の 情報発信	重点③ SDGs活動の推進	目標と実績の見える化
	④ 働きがいのある職場づくり	重点④ 人材育成	働きがいのある職場づくり
業務プロセスの視点	① 中 期 経 営 計 画 の 実 行	重点① 経営の改善	中期経営計画の実行
	② 在宅医療と福祉の強化	重点② 地域貢献	医療支援型グループホーム体制強化 在宅医療スタッフの確保
	③ 省エネ・分別廃棄の徹底	重点③ SDGs活動の推進	省エネの徹底
	④ DX化推進による業務の効率化	重点④ 人材育成	DX化推進による業務の効率化 業務の効率化
学習と成長の視点	① 社 会 情 勢 の 把 握	重点① 経営の改善	社会情勢の把握
	② 地域ニーズ・将来動向の把握	重点② 地域貢献	医療支援型グループホーム運営の充実 在宅医療の充実
	③ 省エネ勉強会の開催	重点③ SDGs活動の推進	省エネ勉強会の開催
	④ 人事考課制度の検証	重点④ 人材育成	人事考課制度の検証

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

1. 博愛精神:博愛の心で顧客のニーズに寄り添います。
2. 地域貢献:医療・介護・福祉・保健の連携で地域の発展に貢献します。
3. 患者第一:顧客の求めに気持ちよく応え患者第一の医療を実践します。
4. 価値共創:地域と共に SDGs に取り組み新たな価値を創造します。
5. 人材育成:誇り高さ人材を育成し自己実現ができる組織を目指します。

重点施策

- ①経営の改善
- ②地域貢献
- ③SDGs活動の推進
- ④人材育成

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
法人の医業収入額 医業収支比率	5,353百万円 100.%以上	各事業所の計画による目標収入額と利益率を確保できる様支援する。
医療支援型グループホーム入居者数 新規利用者数	年度内20人 各部署にて設定	対象障がい者のニーズ把握と入所者選定を確実に行うとともに、効率的な運用に努める。 在宅医療を充実させ新規利用者獲得につなげる。
水道・電気・ガス使用量の 削減率	前年比95%	省エネ・分別廃棄の徹底を行う事により水光熱費・廃棄物処理費の削減を目指す。
離職率	5%以下	働きやすい職場作りで職員満足度を向上させ離職率の低下を目指す。
ホームページの見直し・ SNS情報発信	2回/年	患者・利用者および地域の医療機関等が必要とする情報を分かりやすく発信する。
利用者と家族の満足度調査 利用者家族満足度調査	1回/年 1回/年	医療支援型グループホーム博愛の運営を軌道に乗せる。 満足度調査に基づき改善策を立てることにより、質の高い在宅医療につなげる。
実績値の公表回数	1回/月	事務部から水道・電気・ガス・用紙の使用量の実績値を毎月公表する。
超過勤務削減率 職員満足度	前年比90% 評価4以上	業務の効率化や働き方改革により超過勤務の削減を目指す。 職場環境の改善等、働きやすい職場作りを目指し職員満足度の向上を目指す。
中期経営計画の実行・見直し	通期	中期経営計画に基づき戦略プランを実行し、社会情勢の変更等により計画を見直す必要がある場合は速やかに計画を見直す。
医療支援型グループホーム人材確保 スタッフ増員	適宜 適宜	利用者増加に向けて必要な職員を確保する。 在宅医療スタッフを増員し、在宅療養支援体制を強化する。
省エネ活動の推進	2回/年	省エネについて具体的な推進活動を実施する。
勤怠管理システムの適正な運用 業務の効率化検討	通期 各部署にて設定	DX化を推進し職員の負担軽減を図る。 業務の効率化につながる施策を各部署で検討・実行させる。
セミナー・研修会参加	2回/年	法人経営、医療・介護・福祉に関するセミナーを受講する。
グループホームニーズの把握 潜在的な訪問看護ニーズの把握	通期 6月まで	医療支援型グループホームに関する情報を収集し、運用に有効に利用する。 地域の訪問看護ニーズを把握し、在宅医療拡大に向けた準備を行う。
省エネ勉強会開催回数	1回/年	法人内で省エネ・分別廃棄について研修会を全職員対象に実施する。
人事考課アンケートの実施	1回/年	適正な人事考課制度を構築するためアンケートを実施し、人事考課制度の見直しにつなげる。

令和6年度 部署別活動目標シート
(博愛病院)

理念(ビジョン) 私たちは博愛の心で医療を提供し地域へ貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	① 救急患者の増加	重点① 経営の改善	救急患者の増加 外来・入院患者数の増加 収益の増加
	① 外来・入院患者数の増加		
	② 優秀な人材の確保	重点② 働き方改革の推進	優秀な人材の確保 離職率の低下
	② 離職率の低下		
顧客の視点	③ 機能評価更新予算の策定	重点③ 病院機能評価の更新	機能評価更新予算の策定
	④ 水光熱費・廃棄物の削減		
	④ ペーパーレス化の推進	重点④ SDGs活動の推進	水光熱費の削減 ペーパーレス化の推進
業務プロセスの視点	① 開業医満足度の向上	重点① 経営の改善	開業医満足度の向上 患者満足度の向上 かかりつけ医機能についての広報
	① 患者満足度の向上		
	① かかりつけ医機能についての広報	重点② 働き方改革の推進	職員満足度の向上 労働環境の改善
	② 職員満足度の向上		
学習と成長の視点	② 労働環境の改善	重点③ 病院機能評価の更新	質の高い医療の提供
	③ 質の高い医療の提供		
	④ 目標と実績の見える化	重点④ SDGs活動の推進	目標と実績の見える化
業務プロセスの視点	① 断らない救急医療の実践	重点① 経営の改善	断らない救急医療の実践 在院日数の短縮 かかりつけ医機能の制度化に向けた勉強会
	① 在院日数の短縮		
	① かかりつけ医機能の制度化勉強会	重点② 働き方改革の推進	チーム医療の推進(タスクシェア・シフト) 会議・委員会の時間内開催 出退勤システムの運用
	② チーム医療の推進		
学習と成長の視点	② 会議・委員会の時間内開催	重点③ 病院機能評価の更新	機能評価更新準備
	② 出退勤システムの運用		
	③ 機能評価更新準備	重点④ SDGs活動の推進	省エネ活動の推進 紙資料の見直し
	④ 省エネ活動の推進		
学習と成長の視点	④ 紙資料の見直し		
学習と成長の視点	① 救急対応勉強会の開催	重点① 経営の改善	救急疾患勉強会の開催 地域との情報共有 かかりつけ医機能の情報収集
	① 地域との情報共有		
	① かかりつけ医機能の情報収集	重点② 働き方改革の推進	チーム医療勉強会の開催 働き方改革研修会の開催
	② チーム医療勉強会の開催		
学習と成長の視点	② 働き方改革研修会の開催	重点③ 病院機能評価の更新	機能評価研修会へ参加
	③ 機能評価研修会への参加		
	④ 省エネ勉強会の開催	重点④ SDGs活動の推進	省エネ勉強会の開催 省エネ目標値の設定
	④ 省エネ目標値の設定		

使命・任務・役割
(ミッション)
→ 重点施策

重点施策

- ① 経営の改善
- ② 働き方改革の推進
- ③ 病院機能評価の更新
- ④ SDGs活動の推進

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
救急患者受入人数 外来患者数・診療単価 入院患者数・診療単価	300人/月 350人/日 14,400円/人 186人/日 39,500円/人	断らない救急医療の実践により救急患者数の増加を目指す。 患者数および診療単価を各科で目標設定し、各部署が協力して適切な診療報酬の算定、適切なDPCコーディング、請求漏れの防止、適切なベッドコントロールを行い収益の増加を目指す。
離職率	5%以下	働きやすい職場作りで職員満足度を向上させ離職率の低下を目指す。
評価料 改善対策費用	2,090,000円 (内申込金460,000円済) 5,500,000円	病院機能評価更新受審に必要な評価料、設備更新・改善等の予算を確保する。
水道・電気・ガス使用量の削減率 用紙購入費	前年比95% 前年比70%	省エネ活動を行う事により水光熱費、廃棄物処理費の削減を目指す。 会議・委員会資料および日常業務に使用する紙資料を見直しペーパーレス化を推進する。
開業医満足度 患者満足度 広報誌への掲載	評価4以上 評価4以上 4回/年以上	地域に根差したかかりつけ病院として、開業医等からの紹介患者の受け入れを行い満足度の向上を目指す。 救急・紹介患者の受け入れを行う事により患者満足度の向上を目指す。 広報誌などを利用して、かかりつけ医制度について院内で情報共有する。
職員満足度 職員満足度調査結果の活用 時間外勤務削減率	評価4以上 適宜 部門別設定※【必須】	働き方改革を推進する事により、働きやすい職場を作り職員満足度の向上を目指す。 職員満足度調査の結果を検討し労働環境の改善を目指す。 各部署にて年間時間外勤務の削減率を設定(必須)し実行する。時間外勤務の多い職員が在籍する部署は部署内で改善策を検討し実行する。
機能評価更新	10月	病院機能評価を更新受審する事により各種マニュアルの見直し、ガイドラインに準拠した診療等を行い質の高い医療を提供する。
実績値の公表回数	1回/月	事務部から水道・電気・ガス・廃棄物処理・用紙の使用量の実績値を毎月公表する。
時間外患者応需率 平均在院日数 対応チームの編成と活動開始	90%以上 12日以内 1回/月(下期から)	「断らない救急」を実践し、依頼のあった救急患者の受け入れを可能な限り行う。 入院初期から介入し、適切なベッドコントロールを行う事により在院日数の短縮を目指す。 かかりつけ医機能及びかかりつけ医機能支援病院としての2面機能を想定して「かかりつけ患者登録制度」について検討する。
タスクシェア・シフト件数 時間内開始への移行件数 運用定着時期	3件 5件 7月	チーム医療を推進するためタスクシェア・シフトを検討し実行する。 各会議・委員会で時間内開催に向けた検討を行い実施する。 4月から運用開始する出退勤システムを全職員に定着させる。
受審準備WG会の開催回数	1回/月以上	病院機能評価更新受審に向けてWGメンバー会で問題点を把握し各部署にて改善活動を行う。
水道・電気・ガス使用量、廃棄物処理量 削減のための活動方針の検討 紙資料の見直し	各部署設定 各部署設定	病院目標値達成に向けた省エネ活動(水道・電気・ガス使用量、廃棄物処理量削減)について各部署で活動を行う。 会議・委員会および通常業務で使用する用紙を削減出来るよう見直しを行い実行する。
救急医療勉強会の開催回数 BLS勉強会開催回数 地域との連絡会等への参加回数 厚労省の動向の把握	6回/年 1回/年 2回/年 4回/年	救急患者へのファーストタッチが行えるよう救急委員会、医局会を中心に救急医療についての勉強会を開催する。全職員に向けてBLS勉強会を開催する。(2年に1回全職員必須) 医療連携実務者会、急性期4病院の話し合い等に参加し地域との情報共有を行う。 厚労省が進めるかかりつけ医機能制度について情報収集を行う。
チーム医療勉強会の開催回数 働き方改革研修会の開催回数	3回以上/年 1回/年	教育委員会を主体として各医療チームの勉強会を開催する。 教育委員会で働き方改革の研修会を開催する。(eラーニング含む)
研修会参加回数	1回/受審日までに	研修会等に参加し受審病院からのアドバイスや最新情報を収集する。
勉強会開催回数 目標値設定 (電気・水道使用量、廃棄物量等)	1回/年 各部署設定	用度施設管理課にて省エネ・分別廃棄について研修会を全職員対象に実施する。 所属長は病院目標値達成に向けて各部署にて省エネ活動の啓蒙を行う。

令和6年度 部署別活動目標シート (ふくよね博愛クリニック)

理念(ビジョン) 私たちは博愛の心で医療を行い、地域住民の健康管理に貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	外来患者数の増加	重点① 一般診療の充実	外来患者数の増加 外来診療単価の増加
	外来診療単価の増加	重点② 在宅医療への貢献	訪問診療件数の増加 訪問診療単価の維持
	訪問診療件数の増加	重点③ 予防医療の推進	健診件数の増加 予防接種件数の増加
	訪問診療単価の維持		
	健診件数の増加		
顧客の視点	予防接種件数の増加		
	患者満足度の向上	重点① 一般診療の充実	外来患者満足度の向上
	在宅患者満足度の向上	重点② 在宅医療への貢献	在宅患者満足度の向上 他職種の満足度向上
	他職種の満足度向上	重点③ 予防医療の推進	健診受診者の満足度の向上 健康教室の開催
	健診受診者の満足度の向上		
業務プロセスの視点	健康教室の開催		
	診療時間の見直し	重点① 一般診療の充実	診療時間の見直し 博愛病院外来との連携
	他職種との協働	重点② 在宅医療への貢献	博愛病院在宅診療部との連携 他職種との協働
	博愛病院外来との連携	重点③ 予防医療の推進	博愛病院ドック・検診センターとの連携
	博愛病院在宅診療部との連携		
学習と成長の視点	博愛病院ドック・検診センターとの連携		
	医療安全管理研修への参加	重点① 一般診療の充実	医療安全管理研修への参加 院内感染対策研修への参加 Common Diseaseに関する研修への参加
	院内感染対策研修への参加	重点② 在宅医療への貢献	在宅医療に関する研修への参加
	Common Diseaseに関する研修への参加	重点③ 予防医療の推進	予防医療に関する研修への参加
	在宅医療に関する研修への参加		
	予防医療に関する研修への参加		

令和6年度 部署別活動目標シート (博愛こども発達・在宅支援クリニック)

理念(ビジョン) 私たちは、全ての子どもの健康増進と健康管理に寄与し、子どもと家族が安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	報酬の高い加算の算定	重点① 要支援家庭の医療・福祉サービスの提供	報酬の高い加算の算定件数の増加
	新規患者・利用者の安定的な獲得	重点② 多職種連携実践ができるチームの形成	職員のモチベーション向上
	支援センター業務の遂行	重点③ 患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供	新規受診者・利用者の増加
		重点④ 地域からの相談対応と人材育成協力	医療的ケア児等支援センター業務実績
顧客の視点		重点① 要支援家庭の医療・福祉サービスの提供	患者・利用者満足度の向上
	職員の組織への貢献感	重点② 職員の能動的学習の支援	職員の満足度評価を行う
	職員の満足度向上	重点③ 患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供	患者・利用者満足度の向上
	患者(利用者)の満足度向上	重点④ 地域からの相談対応と人材育成協力	研修受講者満足度評価を行う
業務プロセスの視点		重点① 要支援家庭の医療・福祉サービスの提供	脳神経小児科初診問診票の運用と見直し ホームページの充実
	業務の効率化	重点② 職員の能動的学習の支援	個人の目標設定 職員の相談の実施 障害福祉サービス請求システムの実践
	業務内容の共有	重点③ 患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供	チーム会の開催 家族会の開催 参観通園の実施 利用者の情報収集
	チームワーキングの実践	重点④ 地域からの相談対応と人材育成協力	支援センター主催の研修会運営
学習と成長の視点	地域連携機能の充実		
	能動的学習	重点① 要支援家庭の医療・福祉サービスの提供	医療福祉サービス制度の理解 脳神経小児科初診問診票の作成
	業務内容の視覚化	重点② 職員の能動的学習の支援	専門的知識の習得 職種内の連携強化 チームワーキングに関する勉強会
	チームワーキングの理解	重点③ 患者(利用者)のニーズに合った医療と福祉の提供	療育活動の振り返り 療育とリハビリの合同カンファレンス
学習と成長の視点	人材育成	重点④ 地域からの相談対応と人材育成協力	県内外の研修会・学会へ参加 研修会、講演会、学生講義へ講師としての参加

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

重点施策

- ①一般診療の充実
- ②在宅医療への貢献
- ③予防医療の推進

重要業績評価指標 (KPI)

目標値 (KGI)

目標値を達成するための具体的行動計画

外来患者数 外来診療単価	354人/月 6,368円/人	発熱患者や専門外の患者を積極的に受け入れる。 検体検査の3ヵ月毎程度の定期化を図る。エコー検査（頸動脈エコー、心エコーなど）を積極的に行う。
訪問診療件数 訪問診療単価	36件/月 31,000円/人	引き続き、在宅での「人生の最終段階における医療」に取り組む。 24時間対応を維持する。
健診件数 予防接種件数の増加	18件/月 64件/月	引き続き、特定健診、雇い入れ時健診、事業所健診、各種がん検診の受信者を積極的に受け入れる。 コロナワクチン接種を継続する。

外来患者満足度	評価4以上	接遇の改善、待ち時間の短縮などに取り組む ホームページの充実を図り、受診を誘導する
在宅患者満足度 他職種の満足度	評価4以上 評価4以上	接遇の改善に取り組む 意見交換や情報共有でチームとしての一体感を高める
健診受診者満足度 開催回数	評価4以上 4回/年	問診から検査までをスムーズに行う 3週間以内の結果報告を目指す ポスター、チラシ、ホームページなどによる告知

集患に効果的な診療時間の設定 博愛病院外来からの受入人数	達成 5人/日	引き続き、土曜日休診（木曜日午後診療）について検討 博愛病院外来繁忙時の患者受入を継続する
訪問看護ステーション博愛との協働件数 担当者会議への出席回数	10件/月 5件/月	在宅療養支援診療所(3)を維持する
博愛病院ドック健診センターからの受入人数	5人/月	博愛病院ドック健診センターから雇い入れ時健診受診者の受け入れを継続する

医療安全管理研修会 院内感染対策研修 Common Diseaseに関する研修会	2回/年 2回/年 2回/年	医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を学ぶ 院内感染対策の更なる徹底を図る Common Diseaseにおける診療・看護の質向上を図る
在宅医療に関する研修会	1回/年	在宅医療における診療・看護の質向上を図る
予防医療に関する研修会	1回/年	予防医療における診療・看護の質向上を図る

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

1. 医療的、社会的にハイニードな子どもと家族の支援
2. 多職種連携実践ができるチームの形成
3. 患者（利用者）から信頼される医療と福祉の提供
4. 医療的ケア児等支援センター機能の充実

重点施策

- ①要支援家庭への医療・福祉サービスの提供
- ②他職種への理解、チームワーク能力向上の推進
- ③患者（利用者）のニーズに合った医療と福祉の提供
- ④地域からの相対対応と人材育成協力

重要業績評価指標 (KPI)

目標値 (KGI)

目標値を達成するための具体的行動計画

小児特定疾患カウンセリング料算定数 医療的ケアスコア区分2以上の利用者のべ数 特別重度支援加算(I)と(II)の算定数	55件以上/月 15件以上/月 60件以上/月	社会的支援が必要な家庭の診療 18歳以上の福祉サービス利用者に対して、グループホーム入居またはショートステイ利用を勧め、新規の医療的ケア児を受け入れる。
離職率 人件費率（人件費/収入）	0% 55%以下	個人のメンタルフォロー チーム力の向上による業務の効率化。 勤務時間の調整（早出、遅出の徹底）
脳神経小児科紹介患者数 小児科新規患者数 訪問診療初診患者数 福祉サービス新規利用者数 病児保育新規登録者数	10人以上/月 18人以上/月 3人以上/年 3人以上/年 6人以上/年	患者（利用者）への適切な保育、療育の提供 患者（利用者）、保護者への丁寧な説明、接遇
支援センター業務時間	医師 200時間以上/年 看護マージナー 400時間以上/年 事務 100日以上/年	スタッフ間での業務内容の調整と共有を行う。

満足度調査の実施 満足度	1回/6か月 4/5以上が80%以上	Webで質問を作成し満足度調査を実施し、結果は担当者が報告する。 上期に実施し、改善点を検討し、下期に再度調査を行う。
職員満足度調査参加率 調査結果	100% 全国平均以上	結果を全員で共有し、緊急重点項目について話し合う。
満足度調査の実施 満足度	1回/6か月 4/5以上	Webで質問を作成し満足度調査を実施し、結果は担当者がクリニック内で報告する。 上期に実施し、改善点を検討し、下期に再度調査を行う。
受講者満足度	1回/6か月 4/5以上が80%以上	満足度調査を行い、研修内容について振り返りを行う。

初診問診票の見直し 初診問診票の実践 ホームページの見直しと変更	1回/年 毎日 年1回	初診問診票の実践、見直しを行う。（心の診療拠点病院推進室の支援ツール活用） 要支援家庭の発掘	クリニックの情報発信 スムーズな受診につながるよう工夫を行う。
設定と見直し 上級研修回数 勉強会	年2回 2回 1回	職員個人の目標設定 上長による面談 システム更新に伴い、多職種で請求業務の効率化を行う。	
開催回数 開催回数 実施回数 実施回数	1回/月 1回/年以上 2回/年以上 2回以上/年/人	業務内容や研修会の共有を行う。 福祉サービス利用者家族会やチャイルドサービス参観週間を開催する。 福祉サービス利用者の発達支援に関する他機関の情報収集を行う。	
運営回数	4回/年	医療的ケア児等コーディネーター養成研修運営 コーディネーターフォローアップ研修運営	デジタルリハビリテーション研修会運営 ピアカウンセリング人材育成研修会運営

勉強会（オンライン含む） 作成ミーティングの開催	1回以上/年 1回以上/年	医療福祉サービス制度、2024年度報酬改定への理解を深める。（動画撮影と共有） リハビリやカウンセリング、発達検査のアセスメントにつながるよう、初診問診票の作成を行う。	
専門資格の取得 職域ごとの勉強会 クリニック全体会の開催	2人以上/年 10回以上/年 2回/年	業務に関連した資格取得を促す。（例）児童発達支援管理責任者 職種ごとに業務に関連した内容の勉強会を開催する。（動画撮影と共有）	全体会開催のための業務調整（動画撮影と共有） 年間スケジュールを立てて、職員で共有しながら実践する。
実施回数 開催回数	毎日 2回/年	毎日10～15分で、療育活動の振り返りを多職種で行い、記録に残す。 福祉サービス利用者に関して、保育、リハビリチームで合同カンファレンスを行う。	
のべ参加人数 のべ参加人数	7人以上/年 15人以上/年	業務に関連する県内外の研修会、学会の情報共有 職員の積極的な参加	外部からの講師依頼を断らない。 勤務調整を行う。

令和6年度 部署別活動目標シート (介護老人保健施設やわらぎ)

理念(ビジョン) 地域生活を支える拠点施設として高齢者が尊重され、健やかで意味ある日々を過ごせるよう支援します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	超強化型施設の維持	重点① 2024年度介護報酬改定に伴う経営戦略の立案と実践	介護報酬の増収 超強化型施設の維持 経費管理精度の向上
	安定した収益構造の継続	重点② 利用者1人1人の個性に対応し、安全性の高い援助の提供	加算報酬算定
	経費管理精度の向上	重点③ 「働き方改革」を見据えた職場環境の整備	職員の安定雇用
	加算報酬算定	重点④ 地域社会及び関連施設との連携を強める	地域活動を行うことによる紹介者数の増加
顧客の視点	職員の安定雇用	重点① 2024年度介護報酬改定に伴う経営戦略の立案と実践	利用者サポート強化 新規利用者数の増加 利用者の積極的な確保
	地域活動を行うことによる紹介者数の増加	重点② 利用者1人1人の個性に対応し、安全性の高い援助の提供	利用者満足の上 待遇向上
		重点③ 「働き方改革」を見据えた職場環境の整備	職員満足の上
		重点④ 地域社会及び関連施設との連携を強める	地域活動の満足度の上
業務プロセスの視点	利用者サポート強化	重点① 2024年度介護報酬改定に伴う経営戦略の立案と実践	取りこぼしのない加算算定 ICTの積極活用
	新規利用者数の増加	重点② 利用者1人1人の個性に対応し、安全性の高い援助の提供	車両事故防止強化 リスク意識の上 質の高い安全な看護と介護の実践 質の高い接遇の実践
	利用者の積極的な確保	重点③ 「働き方改革」を見据えた職場環境の整備	職員の腰痛対策 ICTの積極活用 職員学習支援 業務改善
	利用者満足の上	重点④ 地域社会及び関連施設との連携を強める	地域住民、関連施設との連携、推進
学習と成長の視点	待遇向上	重点① 2024年度介護報酬改定に伴う経営戦略の立案と実践	介護報酬内容の理解
	職員満足の上	重点② 利用者1人1人の個性に対応し、安全性の高い援助の提供	質の高い看護介護知識の上 災害等含む安全マニュアル作成・見直し 接遇及び倫理感の上 中堅職員の育成
	地域活動の推進	重点③ 「働き方改革」を見据えた職場環境の整備	働き方改革の知識の上 メンタルヘルス対策
		重点④ 地域社会及び関連施設との連携を強める	地域や関連施設との連携活動の体制整備

使命・任務・役割
(ミッション)
→ 重点施策

重点施策

- ① 2024年度介護報酬改定に伴う経営戦略の立案と実践
- ② 利用者1人1人の個性に対応し、安全性の高い援助の提供
- ③ 「働き方改革」を見据えた職場環境の整備
- ④ 地域社会及び関連施設との連携を強める

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
介護報酬算定要件の見直し・改善 在宅復帰・在宅療養支援機能指標 入退所訪問指導割合 経費削減 新規利用者・リピーターの確保	1回/月 70ポイント以上 30%以上 収入比率26%以下 入所7人/月・デイケア3人/月	算定要件を頻繁に見直すことによりケアの向上ならびに算定できる報酬増を目指す。 各在宅復帰・在宅療養支援機能指標を目標設定し、各部署が連携して在宅復帰に向けたプランの策定や請求漏れの防止、適切なベッドコントロールを行い収益の増加を目指す。 安全で質の高いケアの提供を入所通所利用者を行うことによって新規利用者・リピーター増加を目指す。
ターミナル加算他加算算定率 アクシデントインシデント件数	100% アクシデント0件 インシデント120件	安全な看護介護を行うと共に安定した加算算定につなげる。 看取りの充実を図り、ターミナル加算の算定につなげ収益の増加を目指す。 アクシデントインシデント報告の内容を精査し、安全な介護につなげる改善策を講じ入院を減らす事によって在宅復帰率を安定させるよう努める。
離職率の削減 時間外勤務の削減	離職率7%以下 前年比3%減	離職率を抑えることにより職員不足による業務負担を軽減する。 各フロアの業務を見直しコストの削減を目指す。 ICT機器等を活用し、業務の効率化を行って時間外勤務の削減を目指す。
紹介者数	入所8人/月 デイケア4人/月	地域活動を行うことによって他施設との差別化を図り紹介者数増加を目指す。
家屋訪問 定期カンファレンスの充実 デイケアへの誘導	60回以上/年 100%開催 6件/年	入退所時に家屋訪問を行い、利用者の在宅生活向上を促す。 家族参加カンファレンスを100%開催し、在宅復帰向上に努める。 退所後にデイケアへの受入誘導を積極的に行う。 利用者を十分確保して経営の安定化を図る。
利用者満足度 給食嗜好満足度 接遇評価	満足度90%以上(入所・デイ) 満足度90%以上(年2回) 評価前年比10%アップ	利用者満足度調査(入所・デイケアそれぞれ年一回・本人家族対象)や給食嗜好調査に基づき、5段階中上位2段階を評価する。迅速かつ的確な改善策を実施することによりさらに利用者満足度の向上を目指す。 他者評価をして接遇研修・各事業所会議を実践する。
職員満足度	緊急改善分野の減少 (前年比)	職員満足度調査に基づき、迅速かつ的確な改善策を実施し職員満足の向上を目指すことでその先の利用者満足アップにつなげる。
地域活動満足度	12件/年	介護教室・あじさいの会・施設行事等を積極的に行うことや、地域関連施設への訪問など実践することにより施設への紹介件数、施設への満足度の向上を目指す。
加算算定要件の確認と それに伴う業務改善	取得可能加算100%取得	介護報酬改定に伴った加算算定要件の変化等の確認を行い、取得に向けて業務の見直しを行う。 積極的にICTを活用し加算取得に伴う業務負担を軽減する。
アルコールチェッカー検査の徹底 栄養委員会研修会・感染対策研修 インシデント0レベル件数 定期的な接遇自己評価 認知症、看取りケアの取り組み	100% 2回/年 0レベル報告 2回/年以上 取り組み1個以上/各部署	アルコールチェッカーにて確認し、飲酒運転防止に努める。 対策・感染症対策研修会を通して対策を周知し、予防に努める。 状況に応じて臨時開催し、今後の方向性についての提案を行う。 インシデント0レベル報告を事故防止対策のひとつとしてとらえ取り組む。 リスクマニュアルに沿った実践 定期的な自己評価を行い、質の高い接遇を意識して行動する(接遇委員会) 認知症、看取りケアが向上できるよう取り組む(各部署取り組み内容の共有)
腰痛状況アンケート実施 ICT機器導入検討回数 資格取得支援 業務見直しによる効率的な職員配置	1回/年 2回/年(前期・後期) 福祉関連資格3件以上	職員腰痛アンケートを実施して現状を把握した上で業務改善を行い、電動ベッドの計画的導入や腰痛軽減のための介護機器数の計画的導入を行う。 ICT導入に向け積極的に検討し導入をしていく。 資格取得に対し支援を行い、職員育成に努める。 定期的に職員アンケートや意見箱を用いて職員の意見を集約し改善点を洗い出したり、ICT機器(タブレット等)を導入してより効率的な業務改善を目指す。
地域活動の実践 地域関連施設への訪問活動の実践	5回/年 5回以上/年	地域活動(地区防災避難計画研修会、福祉避難所としての活動、一斉清掃、新開西三区防災会、敬老会行事、介護教室、サロン)への参加。福祉避難所として普段から事業継続に向けた計画等の策定、研修・訓練の実施できるように努める。 地域関連施設への訪問活動を行うことで施設のPR活動を行い、利用者増に貢献していく。
介護報酬や加算の勉強会の開催 Q&A内容の検討	参加率100% Q&Aの改定時	介護報酬について理解を深め、加算要件等細かい部分で職員個人が理解するために勉強会を行い、経営戦略の立案につなげる。 Q&Aを各部署で検討し基準等を再確認して介護保険の理解を深める
認知症ケア研修会、看取りケア研修会、 接遇・倫理研修会の開催 マニュアル作成・見直し率 外部研修会への参加・伝達等	参加率100% 100% 1回以上/年	教育委員による研修スケジュールに沿って尊厳・安全に関する研修会を実施すると共に認知症や看取りの理解を深め、安全な生活援助の実現を目指す。 倫理研修会を実施し、職員の倫理に対する意識を高める。 安全に関するマニュアルの作成・見直しを行う。 中堅職員が外部研修会参加・伝達することで施設全体の職員レベルアップ向上に努める。
働き方改革についての学習 有休取得 メンタルヘルス個人面談実施 メンタルヘルス研修会参加	1回以上/年 5日以上/年 年2回のうち希望時 年1回	施設内の管理者教育として、勉強会を実施し、まずは管理者から働き方改革に対する意識の向上を目指す。法令で定められた有休日数全職員取得に努める。 メンタルヘルス面談を活用し、専門家のアドバイスを受けストレス緩和の参考にするメンタルヘルスへの理解を深める
体制整備の完了	1回/年	地域住民に関しては、介護部会が中心となって地域のニーズを把握(アンケート等)し、活動の体制整備を行う。 関連施設との連携に関しては、各部署が関連施設との連携活動の体制を整備する。

令和6年度 部署別活動目標シート (医療支援型グループホーム博愛)

理念(ビジョン) 私たちは博愛の心で、障がいの有無に関わらず誰もが地域で安心安全に暮らせる共生社会の実現に貢献します。

戦略マップ		戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	① 利用者の増加	重点① 経営の改善	利用者の増加 経費の削減
	② 職員の安定雇用	重点② 安全で質の高いサービスの提供	利用者数の増加
	③ 効率的な経費の執行	重点③ 職場環境の向上	働きやすい職場環境の整備
		重点④ 他機関との連携強化	相談支援事業者等への情報提供と情報収集
顧客の視点	① 利用者満足度の向上	重点① 経営の改善	利用者満足度の向上 ご家族満足度の向上
	② ご家族満足度の向上	重点② 安全で質の高いサービスの提供	利用者満足度の向上 ご家族満足度の向上 接遇マナーの向上 人権意識の向上
	③ 職員満足度の向上	重点③ 職場環境の向上	職員満足度の向上
	④ 他施設との連携の強化	重点④ 他機関との連携強化	相談支援事業所との連携強化
業務プロセスの視点	① 業務の改善・効率化	重点① 経営の改善	報酬算定の見直し 関係機関との情報交換
	② リスクマネジメントの実施	重点② 安全で質の高いサービスの提供	リスク意識の向上
	③ 安全なサービスの提供	重点③ 職場環境の向上	業務改善の推進
		重点④ 他機関との連携強化	関係機関との連携強化
学習と成長の視点	① 障害福祉制度の熟知	重点① 経営の改善	障害福祉サービスの制度と報酬内容の熟知
	② 専門スキルの向上	重点② 安全で質の高いサービスの提供	看護及び介護スキルの向上
	③ 研修環境の整備	重点③ 職場環境の向上	研修環境の整備
		重点④ 他機関との連携強化	関係機関と連携

使命・任務・役割
(ミッション)
→ 重点施策

重点施策

- ① 経営の改善
- ② 安全で質の高いサービスの提供
- ③ 職場環境の向上
- ④ 他機関との連携強化

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
入居者数・定員数 稼働率 支出額 (人件費を除く)	定員・入居者数 15人 ショートステイ 24人/月 前年度比95%以下	定員を10人から15人に増加する。 地域生活支援事業 (日中一時支援事業) の登録を行い、障がい児を含め、幅広く、利用ニーズに対応できる体制を整備する。 節電、節約に努める。 効率的な人員配置、採用基準を検討する。
利用者数 定員数	定員・入居者数 15人 ショートステイ 24人/月	研修スケジュールを作成し、看護技術や介護技術の向上のほか、重症心身障がい者のケア、虐待防止に関する理解を深めるための研修に参加し、質の高い、利用者ニーズに沿ったサービスの提供をすることにより、入居者や可住率の増加を目指す。
離職率 時間外勤務時間数	離職率5%以下 対前年比 95%以下	働きやすい環境を整備し、職員満足度を向上させ離職率の低下を図ることにより、職員の安定雇用を図り、もって経営の安定につなげる。 職場内ミーティングの開催や個別面談を通して職員の意見を聞き、働きやすい職場を整備する。
情報提供回数	四半期ごとに情報提供	定期的に相談支援事業所及び医療機関等に入居情報を提供し利用者の増加を図る。 随時、相談員とのコンタクトを取り、入居希望等に関する情報を入手する。
利用者満足度 ご家族満足度	満足度90%以上 満足度90%以上	利用者及びご家族の満足度を向上させることにより、利用者の増加を図る。 地域生活支援事業 (日中一時支援事業) の登録を行い、障がい児を含め、幅広く、利用ニーズに対応できる体制を整備する。
利用者満足度 ご家族満足度	満足度90%以上 満足度90%以上 年1回以上研修会に参加	満足度調査やアンケート結果に基づき、迅速かつ的確な改善策を実施し、利用者満足度及びご家族満足度の向上を図る。 職員への接遇研修や人権研修を実施し、より良いサービスの提供に努める。
職員満足度	満足度90%以上	満足度調査やアンケート結果に基づき、迅速かつ的確な改善策を実施し職員満足度の向上を図る。
支援会議の開催・参加	入居者1人当たり 年2回以上	入居者別に個熱支援会議 (ケア会議) を定期的に開催または参加し、関係機関との情報共有を行うことにより、事業所間の連携強化を図る。 困難事例が発生した場合は、所在の市町村に相談する。
報酬本体と加算の算定要件の確認 相談支援事業所への情報提供	算定可能な加算100%算定 年3回以上の情報提供	報酬改定を踏まえ、適宜、報酬本体と加算内容の精査 (見直し) を行い、適切に報酬算定を行い収益増を目指す。 定期的に相談支援事業所や関係団体に情報 (利用状況等) を提供するなどして、利用希望者の存在、把握に努める。
インシデント0レベルの件数 研修会の開催 各種マニュアルの作成・見直し	0レベル報告 年20件以上 1回/年以上参加 年1回以上	インシデント0レベル報告を事故防止対策の1つとして捉え取り組んでいく。 事業所内において定期的に医療安全に係る事例検討会を行う。 リスクマネジメントや医療安全に関する研修会に参加し、リスクマネジメントや医療安全に関する意識を深める。 定期的に各種マニュアルの点検を行い、必要に応じて改正を行うとともに、不足するものについては早急に作成する。
資格取得の支援 業務見直しによる業務効率化の推進 業務の見える化・仕組化	年間2人程度 年間2件程度	サービス管理責任者または喀痰吸引にかかる資格等の取得にかかる支援を行い、職員の資質向上を目指す。 定期的に職員から意見を聞き取り、改善策を検討したり、効率化のためのIoT機器の導入について検討する。
定期的な情報交換の実施	利用者1人につき 年2回以上	利用者別に個熱支援会議 (ケア会議) を定期的に開催し、関係機関との情報共有や連携を図ることにより、業務プロセスの見直しを図り、業務内容を改善する。
障害福祉サービス及び報酬制度に関する勉強会の開催	参加率100%	障害福祉サービスにかかる制度や報酬に等に係る理解を深めるための勉強会を開催することにより、が経営改善に関する共通認識を図る。
研修会の開催・参加	年1回以上開催 年1回以上参加	研修スケジュールを作成し、看護技術や介護技術の向上のほか、重症心身障がい者のケア、虐待防止に関する理解を深めるための研修に参加することにより、質の高い、利用者ニーズに沿ったサービスの提供を目指す。
研修会の開催・参加	年1回以上開催 年1回以上参加	職員の企画運営による研修会 (人権やハラスメント、メンタルヘルス等) を開催し、よりよい職場環境の整備に努める。 職員が積極的に研修に参加できるまたしやすき雰囲気づくりを醸成する。 職員全員が共通認識、意識の共有化ができる環境整備のための研修等を実施する。
研修会への参加	年1回以上参加	関係機関等 (総合療育センター等) が主催する研修会や講習会に積極的に参加することにより、自己研鑽を図るとともに、専門職同士の横のつながりを構築する。

1. 主な診療実績指標

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1日平均外来患者数	333名	337名	340名
1日平均入院患者数	159名	155名	172名
救急車受入件数	1444件	1538件	1,679件
1日平均救急車搬入件数	4.0件	4.2件	4.6件
平均在院日数			
一般病棟	13.2日	15.0日	14.1日
地域包括ケア病棟	18.2日	16.6日	23.0日
回復期リハビリテーション病棟	86.7日	87.0日	96.9日
療養病棟	127.4日	212.3日	230.4日
平均病床稼働率	82.8%	80.7%	89.7%
手術件数	803件	782件	790件
紹介率	54.6%	48.1%	51.5%
逆紹介率	35.2%	28.7%	29.6%
院内がん登録件数(年単位)	340件	307件	—
外来化学療法件数	521件	549件	423件
がん相談件数(がん患者指導管理料イ)	108件	83件	70件

2. 病院全体に関するプロセス指標

(1)肺血栓塞栓症の予防策実施率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
肺血栓塞栓症の予防策実施率	100%	100%	100%

(2)手術開始1時間以内の予防的抗菌薬投与率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予防的抗菌薬投与率	95.10%	96.9%	98.2%

分子:手術開始1時間以内に予防的抗菌薬が投与開始された手術件数

分母:特定術式の手術件数

3. 病院全体に関するアウトカム指標

(1)感染症発生率

SSIデータ

手術手技	令和3年			令和4年			令和5年		
	SSI数(件)	手術数(件)	発生率	SSI数(件)	手術数(件)	発生率	SSI数(件)	手術数(件)	発生率
虫垂の手術	0	33	0.0%	0	18	0.0%	0	15	0.0%
肝切除	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
脾臓十二指腸切除	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
その他の肝胆脾手術	1	2	50.0%	0	2	0.0%	0	1	0.0%
胆嚢手術	0	35	0.0%	0	36	0.0%	1	32	3.1%
大腸手術	2	35	5.7%	0	22	0.0%	2	20	10.0%
幽門側胃切除	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	3	0.0%
胃全摘	0	0	0.0%	0	4	0.0%	0	0	0.0%
胃手術	0	11	0.0%	0	7	0.0%	0	0	0.0%
直腸手術	0	2	0.0%	0	6	0.0%	0	3	0.0%
小腸手術	3	12	25.0%	0	9	0.0%	0	3	0.0%
腹部手術	2	4	50.0%	0	2	0.0%	1	1	100.0%

SSI発生率=感染件数/手術件数×100

MRSA新規検出率(入院患者)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
MRSA検出率	0.38	0.20	0.29

MRSA検出率=MRSA新規検出患者数/延べ入院患者日数×1000(件/1000患者日)

(2)在宅復帰率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般病棟	97.2%	96.6%	95.9%
地域包括ケア病棟①(2階病棟)	91.1%	95.6%	91.2%
地域包括ケア病棟①(4階A病棟)	89.6%	91.6%	83.3%
療養病棟①	73.0%	75.0%	81.3%
回復期リハビリ病棟②	78.0%	85.6%	83.3%

一般病棟は平成30年度診療報酬改定時に見直しされた内容に準じて算出

分子 家庭への退院(転院除く全て)

分母 一般病棟退院患者(死亡退院は除く)

※再入院患者も含む

(3)クリニカルパス使用患者率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
パス使用率	31.8%	33.2%	32.3%

(4)脳卒中地域連携パスの運用件数

連携パス運用件数

病院名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
鳥取大学医学部附属病院	15	18	15
山陰労災病院	2	2	3

(5)がん地域連携パス実績

地域がん診療連携クリニカルパス実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
胃がん	3	1	0
大腸がん	2	2	2
肝臓がん	0	0	0
肺がん	0	0	0
乳がん	3	0	0
合計	8	3	2

※鳥取県がん地域連携パスの調査件数に基づく

(6)地域医療機関サポート率

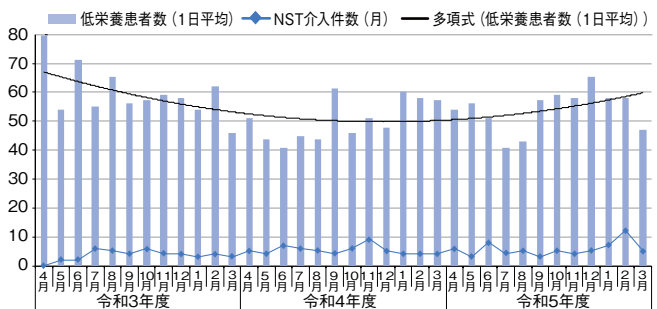
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
地域医療機関サポート率	80.9%	81.8%	78.1%

西部地区の医療機関からの紹介件数(合計)/医療機関件数(二次圏域施設数)

(3)NST活動実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
活動回数	39	52	51
介入患者数	15	15	18
介入件数	44	54	67

低栄養患者数とNST介入件数

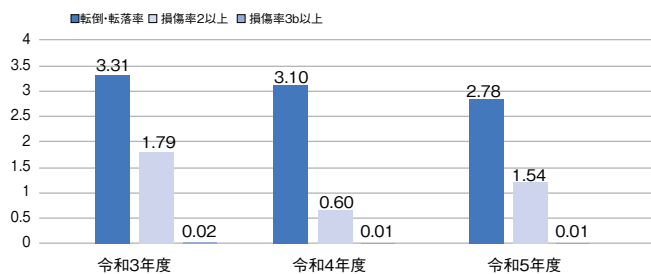


(4) 緩和ケアチーム

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
介入患者数	51	29	31

(5) 転倒・転落レベル2以上

年度別 レベル別 入院患者の転倒・転落発生率



(6) 褥瘡推定発生率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
褥瘡推定発生率	0.90%	1.42%	0.78%

(7) 職員インフルエンザワクチン接種率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
接種率	95.9%	97.8%	86.8%

(8) 脳梗塞入院1週間以内のリハビリテーション強度

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
脳梗塞入院1週間以内のリハビリテーション強度	2.6単位	3.3単位	2.8単位

(9) 退院後14日以内のサマリー作成率

令和3年度	総数	退院後14日以内 作成数	作成率	令和4年度	総数	退院後14日以内 作成数	作成率	令和5年度	総数	退院後14日以内 作成数	作成率
4月	204	203	99.5%	4月	162	158	97.5%	4月	184	183	99.5%
5月	171	171	100.0%	5月	175	174	99.4%	5月	181	177	97.8%
6月	169	167	98.8%	6月	192	189	98.4%	6月	172	167	97.1%
7月	194	188	96.9%	7月	188	187	99.5%	7月	198	189	95.5%
8月	231	222	96.1%	8月	185	178	96.2%	8月	189	186	98.4%
9月	216	214	99.1%	9月	196	191	97.4%	9月	186	181	97.3%
10月	177	172	97.2%	10月	180	165	91.7%	10月	186	176	94.6%
11月	168	166	98.8%	11月	156	153	98.1%	11月	185	182	98.4%
12月	194	183	94.3%	12月	170	168	98.8%	12月	199	193	97.0%
1月	177	173	97.7%	1月	160	156	97.5%	1月	172	171	99.4%
2月	195	191	97.9%	2月	178	166	93.3%	2月	163	160	98.2%
3月	213	212	99.5%	3月	175	171	97.7%	3月	198	196	99.0%
年間	2,309	2,262	98.0%	年間	2,117	2,056	97.1%	年間	2,213	2,161	97.7%

(10) インシデント・アクシデントレポート集計結果

リスクレベル別・月別アクシデントレポート件数 (令和5年度)

	分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが患者さんには実施されなかった	4	3	9	5	2	4	5	2	2	2	5	5	48
1	患者さんへは実害ではなかった (何らかの影響を与えた可能性は否定できない)	26	28	24	18	19	20	8	19	28	23	20	33	266
2	処置や治療は行わなかった (患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全管理の為に検査などの必要性は生じた)	13	26	21	21	20	22	25	27	26	22	41	22	286
3a	簡単な処置や治療を要した (消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)	6	7	12	10	11	5	6	6	10	8	2	5	88
3b	濃厚な処置や治療を要した (バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院に日数の延長、外来患者さんの入院、骨折など)	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2	0	5
4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4b	永続的な障害や後遺症が残る、有意な機能障害や美容上の問題は伴う	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	麻薬の管理・紛失等	0	0	0	0	4	0	1	0	1	2	1	0	9
	総合計	49	64	67	54	56	53	45	54	67	57	71	65	702

(1)項目別・リスクレベル別レポート件数(令和5年度)

項目・リスクレベル	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4a	レベル4b	レベル5	合計
指示だし・情報伝達過程	12	39	82	2	0	0	0	0	135
与薬	9	66	44	0	0	0	0	0	119
注射・点滴	14	25	23	6	0	0	0	0	68
輸血	2	0	0	0	0	0	0	0	2
転倒・転落	0	55	65	30	3	0	0	0	153
医療器具使用・管理	1	15	8	1	0	0	0	0	25
チューブ類使用・管理	0	8	6	26	0	0	0	0	40
治療	2	8	14	9	2	0	0	0	35
検査	5	31	25	12	0	0	0	0	73
療養	0	6	5	3	0	0	0	0	14
給食	3	4	8	0	0	0	0	0	15
その他	1	9	10	3	0	0	0	0	23
合計	49	266	290	92	5	0	0	0	702

4. 疾病・手術に関する指標

(1)疾病大分類別・性別・病名数(入院)

(令和5年度)

分類 番号	分類名	男	女	総数	構成比(%)
	総数	948	1,265	2,213	100.0
I	感染症及び寄生虫症	14	31	45	2.0
II	新生物<腫瘍>	70	161	231	10.4
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4	3	7	0.3
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	70	68	138	6.2
V	精神及び行動の障害	1	1	2	0.1
VI	神経系の疾患	45	38	83	3.8
VII	眼及び付属器の疾患	74	101	175	7.9
VIII	耳及び乳様突起の疾患	6	15	21	0.9
IX	循環器系の疾患	136	140	276	12.5
X	呼吸器系の疾患	137	94	231	10.4
XI	消化器系の疾患	185	207	392	17.7
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	7	7	14	0.6
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	46	59	105	4.7
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	40	133	173	7.8
XV	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	0	9	9	0.4
XVI	周産期に発生した病態	0	0	0	0
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	0	1	1	0
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	0	0	0
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	93	188	281	12.7
XX	傷病及び死亡の外因	0	0	0	0
XXI	健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	0	0	0	0
XXII	特殊目的用コード	20	9	29	1.3

※小数点第2位を四捨五入

(2)点数表小分類別・上位手術別・手術数(入院)

(令和5年度)

順位	コード	分類名	件数
1	K282	水晶体再建術	171
2	K046	骨折観血的手術	69
3	K888	子宮附属器腫瘍摘出術(両側)	51
4	K476	乳腺悪性腫瘍手術	40
5	K721	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	28
6	K082	人工関節置換術	27
7	K654	内視鏡的消化管止血術	26
7	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	26
7	K867	子宮頸部(腔部)切除術	26
10	K081	人工骨頭挿入術	25
10	K743	痔核手術(脱肛を含む。)	25
12	K872-3	子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリープ切除術	24
13	K048	骨内異物(挿入物を含む。)/除去術	23
14	K633	ヘルニア手術	21
14	K687	内視鏡的乳頭切開術	21

順位	コード	分類名	件数
16	K059	骨移植術(軟骨移植術を含む。)	18
17	K653	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	17
18	K142	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。)	16
18	K719	結腸切除術	16
18	K865	子宮脱手術	16
18	K877	子宮全摘術	16
22	K618	中心静脈注射用植込型カテーテル設置	14
22	K722	小腸結腸内視鏡的止血術	14
24	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	13
25	K000	創傷処理	12
25	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	12
25	K664	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	12
28	K614	血管移植術、バイパス移植術	11
29	K280	硝子体茎頭微鏡下離断術	9
29	K718-2	腹腔鏡下虫垂切除術	9
29	K873	子宮鏡下子宮筋腫摘出術	9

5. がん診療に関する指標

(1) 部位(中分類)別・性別・腫瘍数(令和4年)

部 位	男	女
鼻咽頭	0	5未満
食道	5	0
胃	36	20
結腸	22	16
直腸S状結腸移行部	5未満	5未満
直腸	13	6
肝及び肝内胆管	7	5未満
胆のう	5未満	5未満
その他及び部位不明の胆道	5未満	5未満
膵	5	5未満
喉頭	5未満	0
気管支及び肺	14	5未満
心臓、縦隔及び胸膜	5未満	0
造血系及び細網内皮系	5未満	5未満

部 位	男	女
乳房	0	69
子宮頸	0	34
子宮体部	0	5未満
卵巣	0	5未満
前立腺	5未満	0
腎	5未満	5未満
腎盂	0	5未満
尿管	5未満	0
膀胱	5	5未満
髄膜	0	5未満
脳	5未満	5未満
リンパ節	5未満	5未満
原発部位不明	5未満	5未満

(2) 症例区分別

	診断のみ	自施設診断 自施設 初回治療開始	自施設診断 自施設 初回治療継続	他施設診断 自施設 初回治療開始	他施設診断 自施設 初回治療継続	初回治療終了後	その他
平成30年	62	238	0	14	3	85	1
令和 1年	79	234	0	13	10	31	0
令和 2年	73	204	0	8	3	31	1
令和 3年	79	216	0	10	9	23	3
令和 4年	85	191	0	11	1	18	1

(3) 発見経緯別

	がん検診・健康診断・ 人間ドック	他疾患の経過観察中 の偶然発見	剖検発見	その他	不明
平成30年	114	40	0	177	72
令和 1年	110	53	0	185	19
令和 2年	90	51	0	161	18
令和 3年	97	49	0	177	17
令和 4年	92	56	0	152	7

6. リハビリに関する指標

(1) FIM利得

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般病棟	16.61	16.75	17.15
回復期リハビリテーション病棟	25.09	29.24	26.13
地域包括ケア病棟	23.96	23.62	25.77

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
回復期リハビリテーション病棟 実績指数(施設基準35以上)	48.8	47.23	45.81

FIM利得:退院時FIM-入院時FIM

→点が高いほどリハビリやケアの効果が高いということ

(点が高いほど患者自身でできることが多くなり、介助してもらった量が少なくなったということ)

医療の質可視化プロジェクト

我が国の全病院を対象に、指標を活用して医療の質を可視化するプロジェクトです。病院の役割・規模等にかかわらず、本事業で検討した質管理に重要な指標を計測し、医療の質のさらなる向上を目指すオールジャパンの取組です。

目的

全国の医療機関との比較や自院の経年的なデータの推移から、自院の立ち位置を客観的に把握し、医療の質改善活動の契機とすることを目的としています。

対象

全国の病院

計測する指標

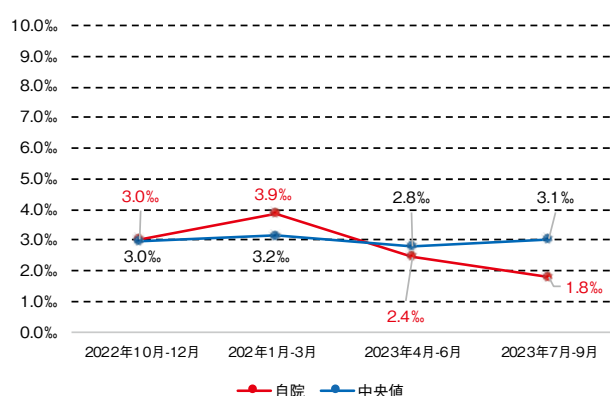
- ① 転倒・転落(件数)
入院患者に発生した転倒・転落件数/入院患者延べ件数(%)
- ② 転倒・転落(3b 以上)
入院患者に発生したレベル3b 以上の転倒・転落件数/入院患者延べ件数(%)
- ③ 肺塞栓の予防(リスクレベル「中」以上)
分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数/リスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数(%)
- ④ 血培2セット
血液培養オーダが1日に2件以上ある日数/血液培養オーダ日数(%)
- ⑤ 広域抗菌薬使用時の細菌培養
分母のうち入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数/広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数(%)
- ⑥ 予防的抗菌薬投与
分母のうち、手術開始前1時間以内に予防的抗菌薬が投与開始された手術件数/手術室で行った手術件数(%)
※分母は全手術件数で算出
- ⑦ 褥瘡発生(d2 以上)
d2(真皮までの損傷)以上の院内新規褥瘡発生患者数/入院患者延べ数(%)
- ⑧ 入院早期の栄養ケア(65 歳以上)
分母のうち、入院3 日目までに栄養ケアアセスメントが行われたことがカルテに記載された患者数/65 歳以上の退院患者数(%)
- ⑨ 身体拘束率
分母のうち、物理的身体拘束を実施した患者延べ数/入院患者延べ数(%)

メリット

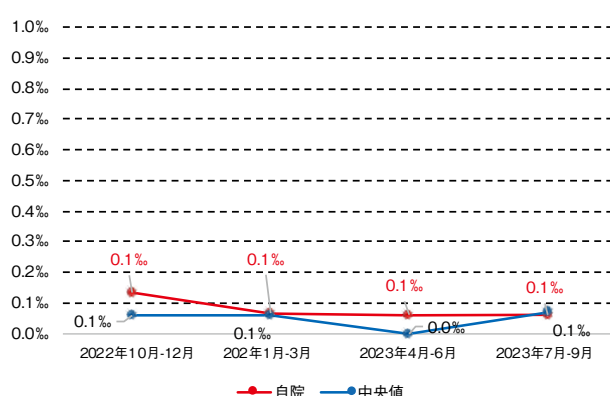
- ・医療安全、感染管理、ケアに関連した代表的な指標を可視化できる
- ・自院における経時的変化および他施設比較をとおりて、自院の現状を客観的に把握できる

博愛病院のデータ(令和5年度)

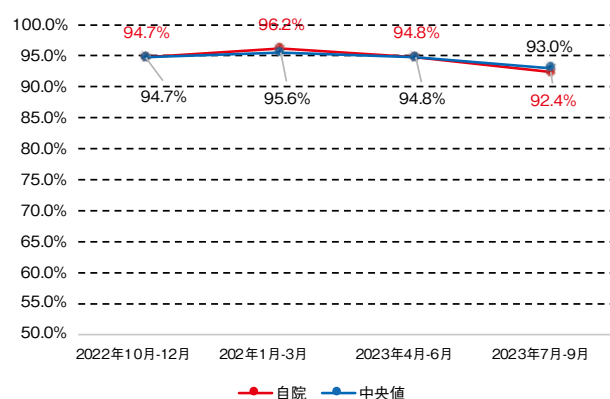
[MSM-01] 転倒・転落(件数)



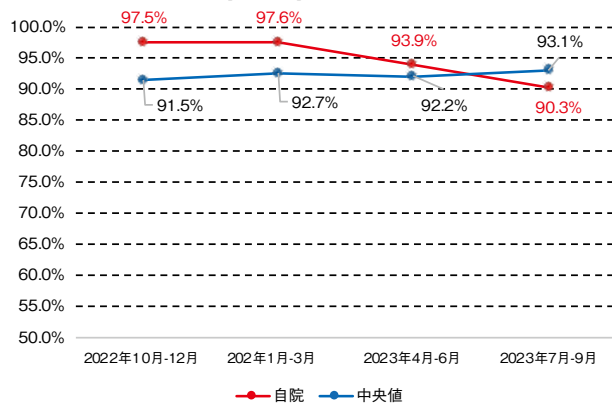
[MSM-02] 転倒・転落(3b以上)



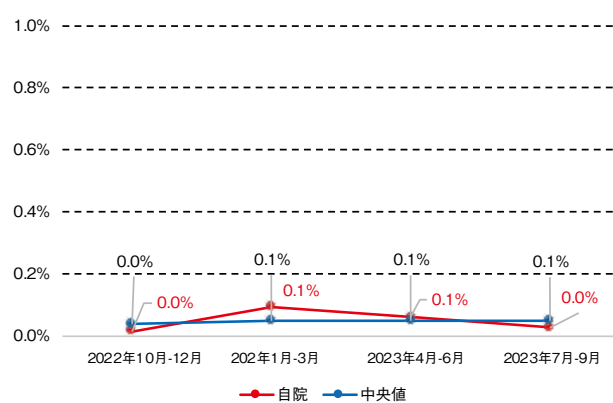
[MSM-03] 肺塞栓の予防(リスクレベル「中」以上)



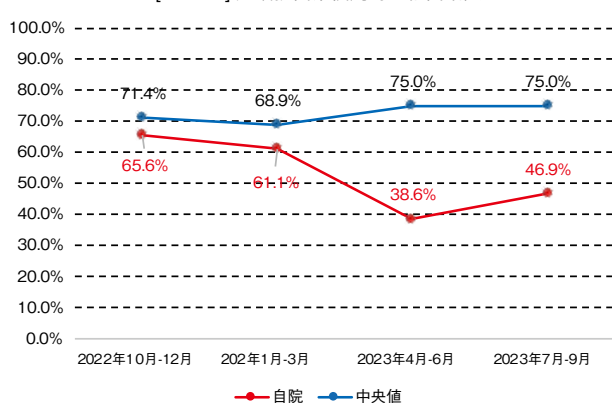
[IFC-01] 血培2セット



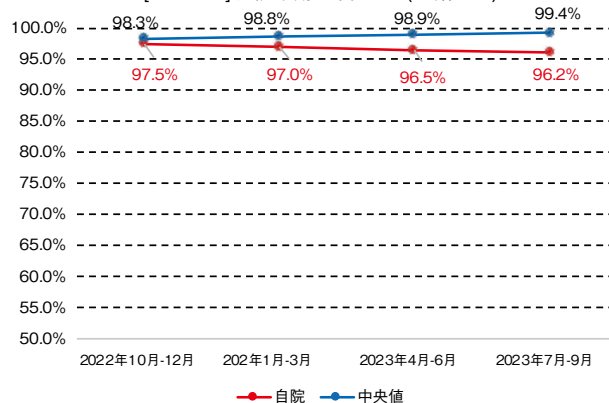
[CRM-01] 褥瘡発生(d2以上)



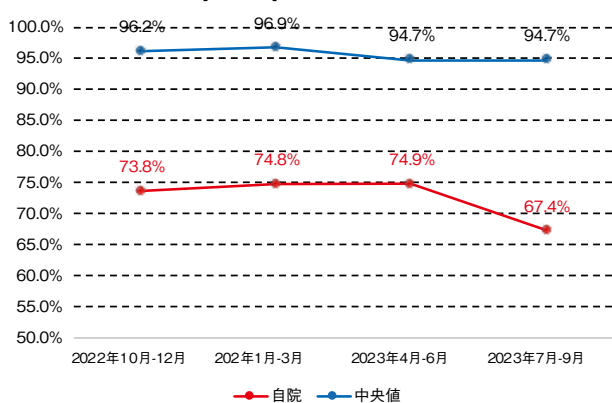
[IFC-02] 広域抗菌薬使用時の細菌培養



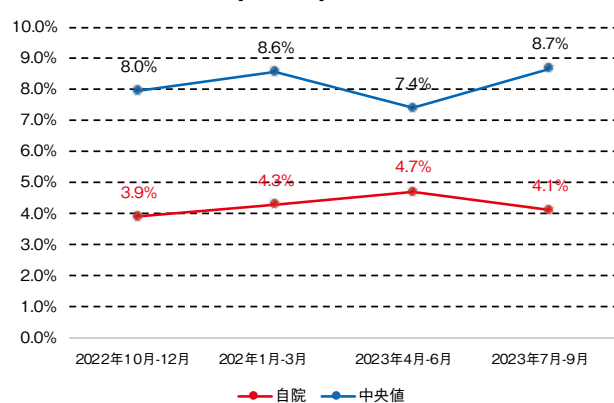
[CRM-02] 入院早期の栄養ケア(65歳以上)



[IFC-03] 予防的抗菌薬投与



[CRM-03] 身体拘束



[1] 令和5年度院内研修会

No.	主催者名	年月日	題 目	講 師	対 象	参加人数
1	医療安全対策委員会	R5.8.10～R5.9.10	第1回医療安全研修会 「基礎から学ぶ医療安全」(オンライン)	東京農工大学 保健管理センター教授 原田賢治	全職員	475
2	医療安全対策委員会	R5.9.25～ R5.10.15	医療安全研修会 「アラーム鳴り過ぎを防ぐMACTの活動を見学して」(オンライン)	臨床工学技士主任 田儀匡史	全職員	386
3	医療安全対策委員会	R6.1.15～ R6.2.15	第2回医療安全研修会 「患者誤認を防ごう」(オンライン)	医療安全対策委員 看護部リスク対策委員	全職員	412
4	医療安全対策室	R5.10.24 オンラインR5.10.12～ R5.10.22	医療安全研修会 「生体情報用モニタの運用変更について」(オンライン)	臨床工学技士 福田智	全職員	250
5	医療ガス安全管理委員会 医療安全対策室	R6.2.19～ R6.3.17	医療ガス安全管理研修会(オンライン)	臨床工学技士主任 田儀匡史	全職員	415
6	感染対策委員会 (AST)	R5.9.22 オンラインR5.9.25 ～R5.10.20	第1回AST研修会 抗菌薬の適正使用について考えるー抗菌薬を未来に残すためにはー(オンライン)	感染制御認定薬剤師 中山卓	全職員	55
7	感染対策委員会	R5.11.10～ R5.11.30	第1回感染対策研修会 「基礎からわかるインフルエンザ対策」(オンライン)	江南厚生病院 仲田勝樹	全職員	461
8	感染対策委員会	R6.3.4 オンライン R6.3.12～R6.3.31	第2回AST研修会 血液培養検査について	臨床検査技師副主任 塚田康弘	全職員	52
9	感染対策委員会	R6.2.9～ R6.2.29	第2回感染対策研修会 「医療廃棄物の概要と管理」(オンライン)	感染管理認定看護師 田原由紀子	全職員	457
10	糖尿病療養指導委員会	R5.9.1	糖尿病療養指導委員会研修会 CGMについて	糖尿病・内分泌内科主任部長 藤岡洋平	全職員	19
11	教育委員会	R5.6.20	接遇リーダー接遇研修	2F病棟師長 藤居貴子	全職員	28
12	教育委員会	R5.6.30	接遇研修	鳥取大学医学部附属病院 病院長特別補佐 安養寺亨 外来看護師長 金坂尚子	全職員	46
13	教育委員会	R5.8.4	病院研修 職場の心理的安全性を高めるコミュニケーションのコツ	鳥取大学医学部附属病院 WBL支援センター 公認心理師 大羽沢子	全職員	47
14	教育委員会	R5.9.12 オンラインR5.9.22 ～R5.10.20	人権・倫理研修会 倫理コンサルテーションの実際/ 事例を交えて	腎臓外科部長 杉谷篤	全職員	479
15	教育委員会	R5.9.19～ R5.10.23	メンタルヘルス研修 「ストレスと上手につきあおう」(オンライン)	中央労働災害防止協会 課長補佐・心理相談員 山口英郎	全職員	494
16	教育委員会	R5.11.14～ R5.12.17	個人情報保護研修 「個人情報保護・サイバーセキュリティについて」(オンライン)	医療情報技師 矢倉征道	全職員	497
17	教育委員会	R5.11.13～ R5.11.30	ハラスメント研修会 「企業と人権 職場からつくる人権尊重社会」(オンライン)	法務省 啓発教材	全職員	506
18	虐待防止対策委員会	R6.2.8 オンライン R6.2.22 ～R6.3.17	虐待防止研修会児童虐待防止	MCS認定マザーズティーチャー 看護師 万波知佳	全職員	464
19	診療放射線部 運営委員会	R5.8.28～ R5.10.31	診療用放射線に係わるスタッフの安全管理研修 「診療用放射線の安全利用」(オンライン)	公益社団法人 日本医師会公式チャンネル	全職員	156
20	NST委員会	R5.10.6	NST研修 リフィーディング症候群について	大塚製薬 前田貴史	全職員	35
21	看護部教育委員会	R5.4.17	電子カルテの使用方法	看護師副主任 細田めぐみ	新人看護師	10
22	看護部教育委員会	R5.4.18	感染研修(標準予防策と感染経路別予防策)	感染管理認定看護師 田原由紀子	新人看護師	10
23	看護部教育委員会	R5.4.18	看護記録	2F病棟師長 藤居貴子	新人看護師	10
24	看護部教育委員会	R5.4.19	①静脈注射・持続点滴・経管栄養 ②清潔操作	看護師副主任 藤景彩、高橋久美子、 荒濱敬信、田中靖子、和泉真弓	新人看護師	10
25	看護部教育委員会	R5.5.8	臨床検査部の構造と役割 ～検体提出・輸血・その他～	臨床検査技師 技師長 先瀬浩功、 副主任 塚田康弘、大太好恵、川上麻衣	新人看護師	10
26	看護部教育委員会	R5.5.8	十二誘導心電図、心電図モニターについて	臨床検査技師 杉村香奈、福井雪乃	新人看護師	10
27	看護部教育委員会	R5.5.9	診療放射線科部での注意点について	臨床放射線技師 技師長 池嶋道夫、 副主任 白石蒼之、上野裕介、山澤学志	新人看護師	10
28	看護部教育委員会	R5.5.13、 R5.6.10	呼吸・循環フィジカルアセスメント 看護協会主催	鳥取大学医学部附属病院 集中ケア認定看護師 中本有史	新人看護師	10
29	看護部教育委員会	R5.5.15	栄養管理について NSTの役割・栄養アセスメント方法・栄養評価	4B病棟師長 加藤美樹、 管理栄養士 前田夏穂	新人看護師	10
30	看護部教育委員会	R5.5.16	ローテーション業務について説明	看護師副主任 矢倉綾子、小島こころ	新人看護師	10
31	看護部教育委員会	R5.5.16	糖尿病看護について	看護師 柿元明美、西村朋美	新人看護師	10
32	看護部教育委員会	R5.5.19	新人期の社会人基礎力をたかめよう	鳥取県看護協会(WEB研修)	新人看護師	10
33	看護部教育委員会	R5.5.22、24、26	薬局での点滴作成(高カロリー輸液などの ダブルバック製剤)	薬剤師主任 中山卓	新人看護師	10

No.	主催者名	年月日	題 目	講 師	対 象	参加人数
34	看護部教育委員会	R5.6.1	内視鏡検査・治療	看護師副主任 坂田和美	新人看護師	10
35	看護部教育委員会	R5.6.5	医療機器の取り扱い (シリンジポンプ・輸液ポンプの取り扱い)	臨床工学技士主任 田儀匡史	新人看護師	10
36	看護部教育委員会	R5.6.6	医療機器の取り扱い 人工呼吸器の取り扱い	臨床工学技士副主任 物部智也	新人看護師	10
37	看護部教育委員会	R5.6.6	認知症・高齢者の意思決定支援	鳥取大学認知症看護認定看護師 大櫃恵子	全看護職員	48
38	看護部教育委員会	R5.6.8、14	看護補助者研修 看護補助業務の役割とは～日々の業務で配慮すること	外来看護師長 西川厚子	看護助手、 介護福祉士	25
39	看護部教育委員会	R5.6.12	退院調整パス ～退院支援・退院調節～	看護師主任 川内由理、副主任 藤景彩、 大森真希子、中原恵美子	新人看護師	10
40	看護部教育委員会	R5.6.12	自分たちの思う看護師像	看護師副主任 荒濱敬信	新人看護師	10
41	看護部教育委員会	R5.6.13	抗がん剤の取り扱い ハイリスク薬の取り扱い	薬剤師主任 中山卓 薬剤師 加藤淳一	新人看護師	10
42	看護部教育委員会	R5.6.19	看護診断(基礎編)	鳥取大学医学部保健学科 野口佳美	新人看護師	10
43	看護部教育委員会	R5.6.29	メンバーシップ研修	看護師主任 佐近みどり	ラダーⅡ申請者	19
44	看護部教育委員会	R5.7.6	管理者リフレクション研修	鳥取大学医学部保健学科 基礎看護学講座 奥田玲子	看護師長	9
45	看護部教育委員会	R5.7.7	リーダーシップ研修	副看護部長 足塚則子	ラダーⅢ申請者	14
46	看護部教育委員会	R5.7.18	リフレクション研修	鳥取大学医学部保健学科 基礎看護学講座 奥田玲子	ラダーⅢ申請者	14
47	看護部教育委員会	R5.7.21	心不全研修会	循環器内科主任部長 田中保則 心臓リハビリテーションチーム	全看護職員	45
48	看護部教育委員会	R5.7.23～8.22	訪問看護研修	博愛病院訪問看護ステーション	ラダーⅢ申請者	13
49	看護部教育委員会	R5.8.9、23	BLS研修	臨床工学技士主任 田儀匡史	看護助手、 介護福祉士	35
50	看護部教育委員会	R5.8.18	死後のケア	緩和ケア認定看護師 佐野晴美	新人看護師	10
51	看護部教育委員会	R5.8.18	新人体験学習についての説明	看護師副主任 荒濱敬信	新人看護師	10
52	看護部教育委員会	R5.9.19	前期学びの会	看護師主任 内藤泰子、佐野晴美、 看護師 秦野貴子、永海明音、松本翔矢	全看護職員	51
53	看護部教育委員会	R5.10.10	医療安全	看護師長 (GRM) 松岡洋子	新人看護師	10
54	看護部教育委員会	R5.10.25	急変時対応研修(ICLS研修)	脳神経内科部長 安井建一 外来ICLSスタッフ	全看護職員	50
55	看護部教育委員会	R5.11～12	事例学習報告会	看護師 角双葉、権田岬、井上瑞稀	各部署で発表	
56	看護部教育委員会	R5.12.4	SBAR	鳥取大学医学部附属病院 ティーチングナース 小村美穂、田中結乃	新人看護師	10
57	看護部教育委員会	R5.12.7	神経難病研修会	脳神経内科部長 安井建一	全看護職員	49
58	看護部教育委員会	R5.12.19	口腔ケア・経口摂取研修会	言語聴覚士副主任 濱田由香理	全看護職員	30
59	看護部教育委員会	R6.1.15、16	新人体験学習発表会	新人看護師	新人看護師	9
60	看護部教育委員会	R6.2.5	訪問看護研修	訪問看護師長 渡部明代 訪問リハビリ 作業療法士主任 増原世子	新人看護師	10
61	看護部教育委員会	R6.3.7	後期履修報告会	看護師 日向愛海、津田朱理、 高本早紀、藤本駿、前田千尋	全看護職員	30
62	薬剤部	R5.11.17	医薬品安全管理研修会 ポリファーマシーに取り組もう ～高齢者に対する薬剤管理の観点から のポリファーマシー対策について～	薬剤師 大谷聡子	全職員	52
63	臨床工学室	R6.1.15、29、 2.1	2023年度BLS研修会(看護師対象)	循環器内科主任部長 田中保則、 脳神経内科部長 安井建一、臨床工学技士	全職員	74
64	臨床工学室	R6.2.5、6、15	2023年度BLS研修会 (コメディカル・事務対象)	臨床工学技士	全職員	83
65	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	R5.6.14	ミュージックケアについて	保育士副主任 中原奈穂	クリニック全 職員	
66	博愛こども発達・ 在宅支援クリニック	R5.7.5	医療的ケア児等の発達を促す支援・遊 びの重要性について	作業療法士 杉原典子	クリニック全 職員	

No.	主催者名	年月日	題 目	講 師	対 象	参加人数
67	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.11.21	心理的安全性の創り方	院長 玉崎章子	クリニック全職員	
68	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.9.1	多職種連携とチームワーキング	院長 玉崎章子	グループホーム入職者	
69	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.9.4	重症心身障がい者の支援	院長 玉崎章子	グループホーム入職者	
70	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.9.5	障害福祉サービスについて	クラーク 門脇千紗	グループホーム入職者	
71	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.9.6	ポジショニング	理学療法士主任 石原亜紀子	グループホーム入職者	
72	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.9.13	重症心身障害者とは～知っておきたい基本知識①～	看護師 瀬川千春	グループホーム入職者	
73	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.9.20	重症心身障害者とは～知っておきたい基本知識②～	看護師 瀬川千春	グループホーム入職者	
74	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.9.22	感覚統合と生活支援/重度障がい者の意思伝達方法	作業療法士 杉原典子 理学療法士主任 石原亜紀子	グループホーム入職者	
75	博愛こども発達・在宅支援クリニック	R5.9.27	感染対策(標準予防策・感染防護具の着脱・吐物処理)	看護師 美甘由雅子、小川絵美	グループホーム入職者	

[2]論文紙上发表

No.	著者	共著者	タイトル	誌名	巻	号	始頁~終頁	年	担当部署	備考
1	Kawaguchi K	Yoshida A, Yuki T, Shibagaki K, Tanaka H, Fujishiro H, Miyaoka Y, Yanagitani A, Koda M, Ikuta Y, Hamamoto T, Mukoyama T, Sasaki Y, Kushiya Y, Yuki M, Noguchi N, Miura M, Ikebuchi Y, Yashima K, Kinoshita Y, Ishihara S, Isomoto H	A multicenter prospective study of the treatment and outcome of patients with gastroduodenal peptic ulcer bleeding in Japan.	Medicine (Baltimore)	101	49	e32281	2022	診療部(消化器内科)	
2	浜本哲郎	高野友爾、岸本幸廣、矢倉征道、山澤学志、上野裕介、松井孝文、池嶋道夫、磯本一	便潜血陽性者に対する大腸CT検査の意義—大腸内視鏡拒否例並びに内視鏡中断例の検討—	日本消化器がん検診学会雑誌	61	3	307-318	2023	診療部(消化器内科)	
3	杉谷篤	—	日本臨床腎移植学会 学術・教育委員会報告	日本臨床腎移植学会雑誌	11	1	巻頭	2023	診療部(腎臓外科)	
4	杉谷篤	—	「腎臓リハビリテーション」(腎リハ)とは	鳥取県腎友会創立50周年記念誌				2023	診療部(腎臓外科)	
5	杉谷篤	原田大樹	腎移植維持期における運動習慣の関連因子	日本腎臓リハビリテーション学会誌	2	2	226-234	2023	診療部(腎臓外科)	
6	杉谷篤	—	乳幼児ドナーからの腎移植	腎と透析 特集腎移植2023	95	6	748-754	2023	診療部(腎臓外科)	
7	杉谷篤	柿元明美、西川厚子	腎移植後、透析再導入となったが免疫抑制療法を継続した2例	中国腎不全研究会誌	32		39-40	2023	診療部(腎臓外科)	
8	杉谷篤	—	上腕のシャント瘤を切除後、自己静脈で血行再建できた1例	中国腎不全研究会誌	32		163-164	2023	診療部(腎臓外科)	
9	森亮太	廣江理沙	回復期リハビリテーション病棟作業療法士における生活指導のポイント 一歩行獲得後の在宅復帰を目指した関わりについて	メディカルリハビリテーション こままでやろ! 大腿骨近位部骨折の包括的リハビリテーションアプローチ	295		38-44	2023	リハビリテーション部	全日本病院出版社
10	中河真吾	—	大腿骨近位部骨折急性期のリハビリテーション治療	メディカルリハビリテーション こままでやろ! 大腿骨近位部骨折の包括的リハビリテーションアプローチ	295		31-36	2023	リハビリテーション部	
11	松岡洋子	—	業務改善計画書の考え方、書類へのまとめ方	病院安全教育	第11巻	第3号	23-29	2023	医療安全対策室	日総研

[3]研究会・学会発表(院外)

No.	演者	共同発表者	タイトル	学会名	場所	年月日	担当部署
1	安井翔	山本宗平、竹本大樹、松本栄二、浜本哲郎、堀立明、岸本幸廣、鶴原一郎、磯本一	上行結腸に発症した大腸炎により全周性狭窄を生じ外科的切除を行った1例	第130回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	広島大学霞キャンパス	R5.7.9	診療部(消化器内科)
2	浜本哲郎	—	Bio/JAK導入のタイミング・使い分けについて	Crohn' disease Conference in 鳥取	web開催(JANA クラウンプラザ ホテル米子)	R5.9.13	診療部(消化器内科)
3	謝花典子	向山智之、八島一夫、浜本哲郎、野坂美仁、岸本幸廣、磯本一、三浦邦彦	対策型胃内視鏡検診における発見胃癌の検討	第61回日本消化器がん検診学会大会	神戸市	R5.11.2~11.5	診療部(消化器内科)
4	安井翔	山本宗平、松本栄二、堀立明、浜本哲郎、岸本幸廣、鶴原一郎、磯本一	粘膜下腫瘍様の形態を呈しESMR—Lで切除を行い診断した大腸弾性線維腫様ポリープの1例	第131回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	松江市 くにびきメッセ	R5.11.19	診療部(消化器内科)
5	足立晶子	板垣康司、築谷英佑、亀山怜央	帯状疱疹ウイルスによる第Ⅷ,Ⅸ,X,XI脳神経障害で高度嚥下障害を呈した1例	第49回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会	米子コンベンションセンター	R5.8.6	診療部(脳神経内科)・リハビリテーション部
6	足立晶子	安井建一	多職種連携でPX向上をはかり、自宅退院調整の過程で症状の改善を認めた進行性核上性麻痺の一例	第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	横浜市	R5.9.2	診療部(脳神経内科)
7	安井建一	—	2023年度神経難病緩和ケア研修	難病緩和ケア研究会	web開催	R6.2.24、R6.3.3	診療部(脳神経内科)
8	藤岡洋平	竹内龍男	SGLT2阻害薬投与により増悪した真性多血症の一例	日本糖尿病学会中国四国地方会第61回総会	くにびきメッセ	R5.10.27	診療部(脳神経内科)
9	角賢一	角賢一、近藤亮、工藤浩史	当院における男性乳がん5例の検討	第31回 日本乳癌学会学術総会	パシフィコ横浜ノース	R5.6.29~7.1	診療部(外科)
10	近藤亮	竹本大樹、角賢一	胆嚢筋症が原因と考えられた胆嚢出血の一例	第85回臨床外科学会総会	岡山市	R5.11.16	診療部(外科)

No.	演者	共同発表者	タイトル	学会名	場所	年月日	担当部署
11	角賢一	竹本大樹、近藤亮、工藤浩史、杉谷篤	両側多発乳房腫瘍Follow中発見された乳癌の一例	令和5年度 西部地区乳がん症例検討会	鳥取県西部医師会館	R6.2.21	診療部(外科)
12	角賢一	竹本大樹、近藤亮、工藤浩史、杉谷篤	当院における男性乳がん6例の検討	第32回 鳥取乳腺疾患研究会	国際ファミリープラザ	R6.3.2	診療部(外科)
13	杉谷篤	山本司生	当院における腎移植患者のCOVID-19(コロナ)感染対応	鳥取県医学会	鳥取県西部医師会館	R5.6.11	診療部(腎臓外科)
14	杉谷篤	—	本邦初の脳死下腎同時移植を受け、23年経過した患者の現状	鳥取県医学会	鳥取県西部医師会館	R5.6.11	診療部(腎臓外科)
15	杉谷篤	—	生体腎移植後、血液透析再導入になった1例	第68回日本透析医学会	神戸コンベンションセンター	R5.6.18	診療部(腎臓外科)
16	杉谷篤	—	シャント吻合、グラフト再建におけるスプーン型ドバイキ血管鉗子の有用性	第68回日本透析医学会	神戸コンベンションセンター	R5.6.18	診療部(腎臓外科)
17	杉谷篤	—	急性抗体性拒絶の診断で治療が奏功した一例	第26回移植腎病理研究会	名古屋市	R5.7.8	診療部(腎臓外科)
18	杉谷篤	—	シンポジウム「移植現場における倫理的問題」(口演) シンポジウム「腎移植ドナーの術後の心のケア」(座長)	第34回日本サイネフロロジー学会	大垣市	R5.7.22~23	診療部(腎臓外科)
19	杉谷篤	—	腎移植専門医第25回集中教育セミナー	日本臨床腎移植学会学術教育委員会	web開催	R5.8.6	診療部(腎臓外科)
20	杉谷篤	—	腎生検にて急性細胞性拒絶、急性抗体性拒絶と診断して治療が奏効した2例	第40回中四国臨床臓器移植研究会	高知市	R5.8.19	診療部(腎臓外科)
21	杉谷篤	—	腎移植後の外来・入院フォローアップ体制の構築—腎移植通算101例を達成して—	第59回日本移植学会	京都市	R5.9.21	診療部(腎臓外科)
22	杉谷篤	—	高齢透析患者の退院支援に関する多職種連携—倫理コンサルテーション(倫理コンサル)の有用性—	第19回日本医療マネジメント学会鳥取県支部学術集会	米子市	R5.9.23	診療部(腎臓外科)
23	杉谷篤	柿元明美、西川厚子	ポスター発表:腎移植後、透析再導入となったが免疫抑制療法を継続した2例	第32回中国腎不全研究会	広島コンベンションセンター	R5.12.3	診療部(腎臓外科)
24	杉谷篤	—	ポスター発表:上腕のシャント瘤を切除後、自己静脈で血行再建できた1例	第32回中国腎不全研究会	広島コンベンションセンター	R5.12.3	診療部(腎臓外科)
25	杉谷篤	—	座長:一般啓発・普及啓発・臓器提供・社会システム	第57回日本臨床腎移植学会	名古屋コンベンションセンター	R6.2.15	診療部(腎臓外科)
26	杉谷篤	柿元明美、西川厚子	ポスター発表:県内の心停止ドナーからの献腎移植後、8年経過した一例	第57回日本臨床腎移植学会	名古屋コンベンションセンター	R6.2.16	診療部(腎臓外科)
27	杉谷篤	山本司生、柿元明美、西川厚子	口演:当院における腎移植後のCOVID-19感染症の現状	第57回日本臨床腎移植学会	名古屋コンベンションセンター	R6.2.16	診療部(腎臓外科)
28	杉谷篤	—	座長:集中セミナー3 移植医療におけるアカデミア活動 腎移植専門医第26回集中教育セミナー	第57回日本臨床腎移植学会	名古屋コンベンションセンター	R6.2.16	診療部(腎臓外科)
29	杉谷篤	—	座長:一般演題9 倫理コンサルテーション5	第11回日本臨床倫理学会年次大会	東京・順天堂大学	R6.3.16~3.17	診療部(腎臓外科)
30	杉谷篤	—	口演:高齢透析患者の退院に際し、事前指示書作成まで到達できた多職種倫理コンサルテーションの経験	第11回日本臨床倫理学会年次大会	東京・順天堂大学	R6.3.16~3.18	診療部(腎臓外科)
31	杉谷篤	—	口演:高校生の課題研究でみる「脳死と臓器提供・移植」	第11回日本臨床倫理学会年次大会	東京・順天堂大学	R6.3.16~3.19	診療部(腎臓外科)
32	中村達彦	—	ポスターセッション座長	第19回 日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会	独立行政法人国立病院機構米子医療センター	R5.9.23	診療部 整形外科
33	山崎厚志	特別講演	硝子体手術 ケースバイケース	第51回瀬戸内硝子体クラブ	米子市ANAクラウンプラザホテル	R5.9.23	診療部(眼科)
34	飯淵潤	小泉宇弘、星太、阿部竜三郎、山田布沙絵、田中崇広、西塚弘一、山崎厚志、小幡博人	小児睫毛内反の臨床的特徴と手術成績	第77回日本臨床眼科学会総会	東京国際フォーラム	R5.10.6~10.9	診療部(眼科)
35	梅田宗希	小宮山大輔、小泉宇弘、西塚弘一、山崎厚志、小幡博人	外眼筋の筋腹厚と視神経径の正常値の計測	第78回日本臨床眼科学会総会	東京国際フォーラム	R5.10.6~10.9	診療部(眼科)
36	小宮山大輔	小泉宇弘、西塚弘一、山崎厚志、小幡博人	ステロイドの全身投与が著効した小児の急性涙囊炎の1例	第79回日本臨床眼科学会総会	東京国際フォーラム	R5.10.6~10.9	診療部(眼科)
37	中山卓	大谷聡子、砂刈貴、加藤淳一、本村映人、大野史織、植上真聖	末梢静脈栄養療法中に、亜鉛欠乏性皮膚炎を来し、薬疹を合併した一症例	第62回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	高知ホール 高知県立大学他	R5.10.28~10.29	薬剤部
38	前田千尋	松岡洋子、山崎博美	急性期病棟における身体拘束に頼らない看護	鳥取県看護研究学会	鳥取県看護研修センター	R5.11.11	看護部(4A)
39	松本侑樹	竹内龍男、藤岡洋平、岡本みゆき、松重智大、杉村香奈、福井雪乃、栗本菜々子	糖尿病受診患者における合併症早期発見の取り組み	2023(R5)年度日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会(第56回)	松山市	R5.9.16	臨床検査部
40	松井孝文	—	胃の潰瘍病変	中海・宍道湖消化管撮影研究会第92回 水島会	web開催	R5.4.22	診療放射線部
41	白石蒼之	—	当院におけるMR 医療安全の現状と課題	第23回山陰リスクマネジメント研究会	鳥取大学医学部記念講堂	R5.6.18	診療放射線部(医療安全対策室)
42	山澤学志	—	当院の救急体制について～緊急画像への対応～	山陰救急&STAT画像報告勉強会	米子コンベンションセンター	R5.7.8	診療放射線部
43	矢倉征道	—	胸部X線診断支援システムCXR-AIDの導入から活用について	鳥取県診療放射線技師会 令和5年度 第1回西部地区研修会	web開催	R5.7.27	診療放射線部

No.	演者	共同発表者	タイトル	学会名	場所	年月日	担当部署
44	矢倉征道	—	患者紹介等に付随する医用画像についての合意事項とは	第14回島根医療情報技術フォーラム	松江赤十字病院	R5.8.19	診療放射線部
45	池嶋道夫	—	バランス・スコアカード(BSC)を用いた部門運営	鳥取県診療放射線技師会 第5回マネジメント研修会	倉吉体育文化会館 中研修室	R5.10.14	診療放射線部
46	白石誉之	—	頭部MRI症例 私の失敗談&後輩のGood Job	第19回 Tottori BIRT Meeting	鳥取県立中央 病院(Zoom/ハ イブリッド)	R6.1.25	診療放射線部
47	上野裕介	—	除菌に関するあれこれ～背景粘膜について	第11回鳥取県消化管撮影研究会	web開催	R6.3.24	診療放射線部
48	矢倉征道	—	新型コロナウイルス感染症パンデミックで情報 システム管理室が関わったこと	第7回中国医療情報技師会研修会	web開催	R5.8.26	診療放射線部・情報 システム管理室
49	加藤淳一	—	当院におけるアレルギー情報の取り扱い ～現状報告～	第12回山陰文化圏医療情報 技術研究会	鳥取大学附属 病院 臨床講 義棟3階	R5.9.9	情報システム 管理室
50	矢倉征道	—	米子市ヘルスケアプラットフォーム事業 画像連携についての進捗報告	第13回山陰文化圏医療情報 技術研究会	鳥取大学医学 部附属病院	R6.2.3	診療放射線部・情報 システム管理室
51	野々村賢	廣江理沙、足川栄一、 往西優	自動車運転再開に影響する要因～運転評価 結果における検討～	第54回中国四国リハビリ テーション医学研究会	米子コンベン ションセンター	R5.8.6	リハビリテーション部
52	吾郷秀吉	—	多職種連携によるチーム医療 リハビリテーション専門職の立場から	第19回日本医療マネジメン ト学会 鳥取支部学術集会	独立行政法人 国立病院機構米 子医センター	R5.9.23	リハビリテーション部
53	築谷英佑	—	当院回復期リハビリテーション病棟での倫理 カンファレンスを通じた多職種連携	第33回リハビリテーション 研究会in Yonago	鳥取大学医学部 記念講堂	R5.10.28	リハビリテーション部
54	桑村美帆	岩本朋美、今岡美里、吉野祐奈、足川栄一、 野々村賢、安井建一、足立晶子	嚥下障害のみを主訴に受診した破傷風疑いの 一症例	リハビリテーション研究会 in 米子	鳥取大学医学部 記念講堂	R5.10.28	リハビリテーション部
55	板垣康司	木村悠仁、亀山怜央、内田貴基、 足立晶子	意思疎通方法を統一し短期間で離床・摂食嚥 下状況が改善した失語症の一症例	第18回日本シーティング・ シンポジウム	東京保健医療 専門職大学	202.11.18 ～11.19	リハビリテーション部

[4] 講演会実績(院外からの委託分)

No.	講師	主催者名	題目	年月日	部署	備考
1	浜本哲郎	ヴィアトリス製薬	慢性便秘症診療の現状～便通異常症 診療ガイドライン2023を踏まえて～	R5.9.1	診療部(消化器内科)	
2	浜本哲郎	鳥取県西部医師会 消化管研究会	H.pylori 未感染胃癌～ラズベリー 型胃腫瘍と印鑑細胞癌を中心に～	R6.1.23	診療部(消化器内科)	
3	岸本幸廣	鳥取県国民健康保険団体連合会	肝炎ウイルスマーカーの施行意義	R6.2.6	診療部(消化器内科)	
4	藤岡洋平	ノボノルディスクファーマ	糖尿病の注射療法	R5.4.24	診療部(糖尿病内科)	
5	藤岡洋平	興和株式会社	2型糖尿病と脂肪肝	R5.9.15	診療部(糖尿病内科)	
6	藤岡洋平	協和キリン株式会社	新しい糖尿病治療薬の使い分け	R5.9.22	診療部(糖尿病内科)	
7	藤岡洋平	ノボノルディスクファーマ 株式会社	サクビトリル・バルサルタンを使用した2型 糖尿病を合併した高血圧の一例	R5.10.31	診療部(糖尿病内科)	
8	藤岡洋平	鳥取県糖尿病療養指導士認定機構	特殊な状況・病態時の療養指導①	R5.11.12	診療部(糖尿病内科)	
9	藤岡洋平	NPO法人中海エリア糖尿 病療養研究機構	病態を考慮した糖尿病治療	R6.3.10	診療部(糖尿病内科)	
10	安井建一 (座長)	Parkinson s Disease Web seminar in 鳥取	進行性核上性麻痺の臨床診断に ついて	R5.5.12	診療部(脳神経内科)	演者:瀧川洋史 先生 鳥取大学医学部脳神経科学講座 脳神経科学分野 講師
11	足立晶子	鳥取県民カレッジ、 鳥取県西部医師会	いつまでも「食べる」を楽しむために～摂食嚥下 障害について～	R5.5.18	診療部(脳神経内科)	
12	安井建一	鳥取県西部医師会 協和キリン株式会社	災害医療講演会～災害医療×神経難病～ 神経難病の災害対策～石川県難病診療分野別拠点病院として～	R5.5.26	診療部(脳神経内科)	鳥取県西部医師会館3階講堂
13	安井建一 (ディスカッサント)	アッヴィ合同会社	山陰地区PD講演会 総合ディスカッション 個々の症例に適切なDAT療法を考える	R5.6.12	診療部(脳神経内科)	ANAクラウンプラザホテル米子
14	安井建一	レコルダティ・レア・ディジ ズ・ジャパン株式会社	成人ホモシチン尿症の経験症例	R5.9.6	診療部(脳神経内科)	日常診療に潜むホモシチン尿症 (Webセミナー)
15	足立晶子、 安井建一	米子医療センター附属看護学校	疾病論Ⅳ 脳神経(計7回)	足立R5.9.26、10.3、10.17、10.24 安井R5.10.31、11.7、11.14	診療部(脳神経内科)	
16	安井建一	鳥取大学医学部医学科	臨床神経学講義 パーキンソン病	R5.12.11	診療部(脳神経内科)	鳥取大学医学部医学科3年
17	杉谷篤	鳥取県医師会総会	第32回鳥取医学賞受賞講演:鳥取県と当院における 腎移植医療の軌跡-当院通算101例を達成して-	R5.6.17	診療部(腎臓外科)	ホテルニューオータニ鳥取
18	杉谷篤	鳥取県立倉吉総合看護 専門学校	移植医療の現状と展望-腎不全と腎移植、 糖尿病と膵移植を例にとって-Part1	R5.12.12	診療部(腎臓外科)	
19	杉谷篤	日本手術看護学会	手術室看護師の倫理-倫理問題に気づき言語化し、他者 と共有できる-Part1 倫理とは、4分割表、倫理コンサル	R5.12.16	診療部(腎臓外科)	第2回中国地区研修会
20	杉谷篤	日本手術看護学会	手術室看護師の倫理-倫理問題に気づき言語化し、他者 と共有できる-Part 2事例検討	R5.12.16	診療部(腎臓外科)	第2回中国地区研修会
21	杉谷篤	鳥取県立倉吉総合看護 専門学校	移植医療の現状と展望-腎不全と腎移植 、糖尿病と膵移植を例にとって-Part2	R6.1.23	診療部(腎臓外科)	
22	中山卓	第8回鳥取県感染制御薬 剤師セミナー	LINEWORKSを活用したAST活動 の取り組み	R5.4.22	薬剤部	

No.	講師	主催者名	題目	年月日	部署	備考
23	矢倉延道	富士フィルムメディカル	胸部X線診断支援システムCXR-AIDの導入から活用について	R6.1.12～ 22	診療放射線部	
24	吾郷秀吉	鳥取県立境港総合技術高等学校	・リハビリテーションの実際 ・多職種連携について	R5.10.11	リハビリテーション部	「生活支援技術」における社会人講師
25	田原由紀子	介護老人保健施設やわらぎ	高齢者施設における呼吸器感染症の感染拡大防止～新型コロナウイルス対応の振り返りから～	R5.8.21	感染対策室	
26	田原由紀子	鳥取県福祉保健部	新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る緊急現地指導	R5.9.25	感染対策室	現地指導
27	田原由紀子	社会福祉法人博愛会	施設における基本的な感染予防対策	R5.10.5	感染対策室	鳥取県看護協会委託事業
28	田原由紀子	鳥取県福祉保健部	新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る緊急現地指導	R5.10.24	感染対策室	現地指導
29	田原由紀子	やすぎ博愛クリニック	医療廃棄物の概要と管理	R6.3.12	感染対策室	
30	石橋佐智子	在宅医療推進のための看護師育成支援事業	在宅における診療報酬～介護保険と医療保険	R5.7.12	訪問看護ステーション博愛	鳥取大学医学附属病院
31	渡部明代	鳥取大学医学部保健学科	ヘルスプロモーション実習	R5.4.26、5.17	訪問看護ステーション博愛	鳥取大学保健学科2年生16名に講義
32	渡部明代	米子北高等学校	探求学習仕事体験	R5.10.16～18	訪問看護ステーション博愛	高校1年生6名に講義
33	藤本駿	倉吉市上灘小学校	夢の実現に向けて～12歳のハローワーク～	R6.2.6	訪問看護ステーション博愛	小学6年生へ看護師への道(訪問看護も含めて)、やりがい感などを話し興味を持ってもらう
34	本多千鶴	NPO法人中海エリア糖尿病療養機構	糖尿病のスティグマ(食事療法編)	R5.8.17	法人本部経営統括部戦略推進室	令和5年度糖尿病治療支援勉強会
35	本多千鶴	鳥取県医師会	糖尿病の食事療法	R5.9.10	法人本部経営統括部戦略推進室	鳥取県糖尿病療養指導士試験受験資格取得のための講習会
36	本多千鶴	博愛こども発達・在宅支援クリニック	食と栄養	R5.12.6	法人本部経営統括部戦略推進室	保護者交流会
37	本多千鶴	ニッポン高度紙工業株式会社	脂質異常症と食事～今日からできること～	R6.2.14	法人本部経営統括部戦略推進室	
38	本多千鶴	NPO法人中海エリア糖尿病療養機構	食事と栄養	R6.3.10	法人本部経営統括部戦略推進室	第17回臨床糖尿病セミナーミニレクチャー
39	玉崎章子	Readyfor	民間病院でもクラウドファンディングは活かせる～地域に向けた社会福祉事業立ち上げプロジェクト～	R5.6.3	博愛こども発達・在宅支援クリニック	オンデマンド配信あり
40	玉崎章子	加茂公民館・令和5年度加茂公民館大学	病气や障がいのある子どもたちの暮らし～地域でできる子育てとは?～	R5.6.21	博愛こども発達・在宅支援クリニック	
41	玉崎章子	鳥取県看護協会	医療的ケア児等の地域生活支援を担う看護職員等養成研修インテンシブコース「乳幼児期の支援」	R5.6.24	博愛こども発達・在宅支援クリニック	
42	玉崎章子	鳥取県西部薬剤師会 薬剤師スキルアップセミナー	小児在宅医療における薬剤師の役割	R5.6.30	博愛こども発達・在宅支援クリニック	
43	玉崎章子	鳥取県看護協会	医療的ケア児等の地域生活支援を担う看護職員等養成研修インテンシブコース「学童期の支援」	R5.7.22	博愛こども発達・在宅支援クリニック	
44	玉崎章子	鳥取県看護協会	医療的ケア児等の地域生活支援を担う看護職員等養成研修インテンシブコース「思春期の支援」	R5.8.20	博愛こども発達・在宅支援クリニック	
45	瀬川千春	鳥取県看護協会	こどものフィジカルアセスメント	R5.9.2	博愛こども発達・在宅支援クリニック	
46	玉崎章子、瀬川千春	鳥取県看護協会	医療的ケアのあるこどもの緊急時の対応	R5.10.4	博愛こども発達・在宅支援クリニック	
47	玉崎章子	鳥取県看護協会	医療的ケア児等の地域生活支援を担う看護職員等養成研修インテンシブコース「成人期の支援」「小児の緩和ケア」	R5.10.22	博愛こども発達・在宅支援クリニック	
48	鬼木徳子	日本臨床作業療法学会	自己研鑽やモチベーションを保つにはどうして?	R5.7.29	やわらぎリハビリテーション部	COTフェス2023「今さら聞けないけど、聞いてみたい」
49	鬼木徳子	鳥取県作業療法士協会	令和5年度第2回生活行為向上マネジメント研修会 基礎研修会	R5.10.22	やわらぎリハビリテーション部	概論の講師を担当

[5]メディア掲載実績

No.	氏名	掲載メディア	主催者名	タイトル	年月日	担当部署
1	本多千鶴	日本栄養経営実践協会ホームページ	一般社団法人 日本栄養経営実践協会	栄養経営士活動報告	R5.4.14～	法人本部経営統括部戦略推進室
2	本多千鶴	日本医療機能評価機構ホームページ	公益財団法人 日本医療機能評価機構	ポートフォリオ分析を用いた職員やりがい度調査結果の活用	R5.5.30～	法人本部経営統括部戦略推進室
3	吾郷秀吉	中海テレビ	鳥取県境港総合技術高等学校	鳥取県境港総合技術高等学校 社会人講師 リハビリテーションの実際について	R5.10.12	リハビリテーション部

[6]おしかけ出前講座実績

No.	年月日	講座開催場所	講座タイトル	部署	職種	講師名	参加人数
1	R5.4.12	シンワ技研コンサルタント	がんセミナー～身近にある「がん」への対策～	ドック健診センター	ドック健診センター長	木村修	38+リモート配信
2	R5.7.12	聴覚障害者就労継続支援センターふくろう	嚥下障害ってなんだ?	リハビリテーション部	言語聴覚士	桑村美帆	13
3	R5.8.29	熊党集会所	加齢がもたらすカラダの変化と予防	ドック健診センター	ドック健診センター長	木村修	11
4	R5.10.12	ふくよね博愛クリニック	自宅でできる腰痛予防	リハビリテーション部	理学療法士	桑村龍司	6
5	R5.10.18	米子ガス株式会社	生活習慣病と栄養	法人本部	管理栄養士	本多千鶴	16
6	R5.11.7	熊党集会所	認知症予防	やわらぎ看護部	看護師長 認知症ケア専門士	土井恵子	11
7	R5.12.14	ふくよね博愛クリニック	認知症予防	やわらぎ看護部	看護師長 認知症ケア専門士	土井恵子	3
8	R6.1.18	浜戸崎自治会館	加齢がもたらすカラダの変化と予防	ドック健診センター	医師	木村修	18

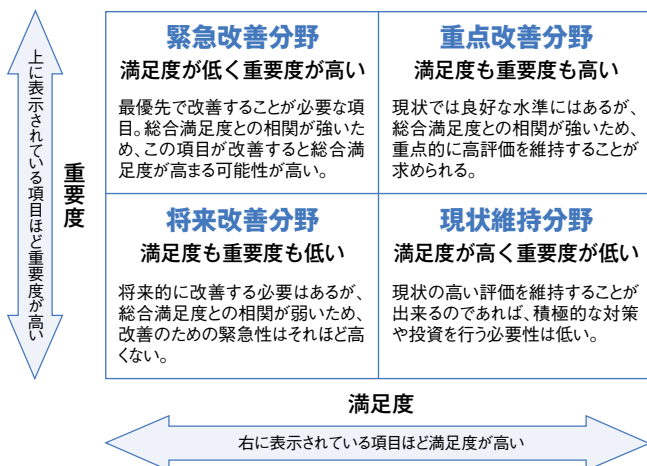
満足度調査集計方法

ポートフォリオ分析

(患者満足度調査・開業医満足度調査・職員満足度調査)

項目別満足度と総合満足度から、重点改善項目を抽出する分析する方法

「項目ごとの満足度」を横軸、総合満足度と項目別満足度との相関係数(関係の強さ)を縦軸にとり、各項目をプロットして重点的に改善すべき項目を明らかにする。「総合満足度への影響度」と「個別項目の満足度」の2軸の空間に各項目をプロットすることにより、改善点(総合満足度と強く相関しているのに、現状の満足度が低い項目)の抽出を行い、改善施策立案・優先順位付けの判断資料とする。



外来・入院・透析患者満足度調査実施報告

【実施期間】

【外来】令和5年11月6日～11月10日(月～金の午前中 5日間)

622件

【入院】令和5年10月16日～11月30日 104件

【透析】令和5年10月16日～11月30日 30件

【実施方法】

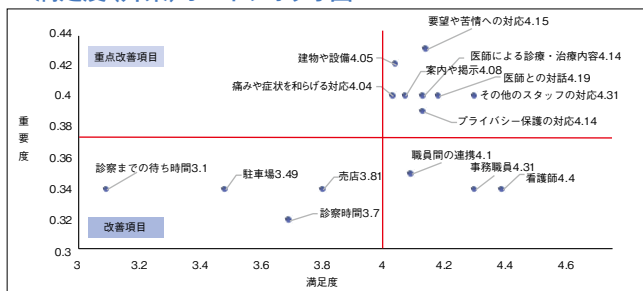
バインダーにアンケート用紙を挟み、外来・入院および透析中の患者さんに、アンケートの主旨と記入要項等を説明し、無記名方式で回答していただいた。

【目的】

患者さんの声を分析し、今後のより良い病院運営と診療サービスの充実に努めるため

患者満足度アンケート<外来>

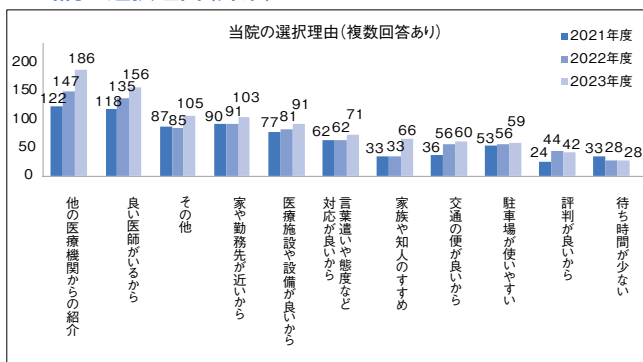
1.満足度(外来)ポートフォリオ図



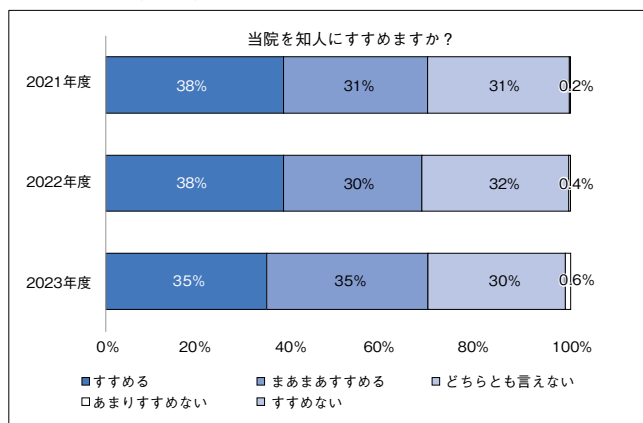
【結果】

令和5年度は緊急改善分野にあがる項目はなかった。満足度は、「看護師の対応」⇒「その他スタッフの対応」⇒「事務職員の対応」⇒「医師との対話」の順に高く、「診察までの待ち時間」⇒「駐車場」⇒「診察時間」⇒「売店」の順で低かった。下図には示していないが、昨年度と比較すると総合評価はほぼ変わらないが、他全ての項目の平均値がUPした。中でも「要望や苦情への対応」と「職員間の連携」については、前年度と比較して満足度の平均値が大きくUPした。

2.当院の選択理由(外来)

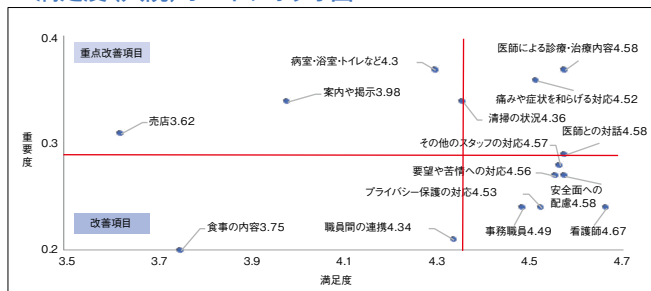


3.総合評価(外来)



患者満足度アンケート<入院>

1.満足度(入院)ポートフォリオ図

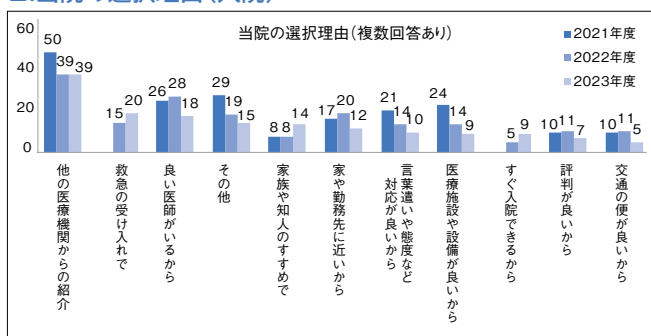


【結果】

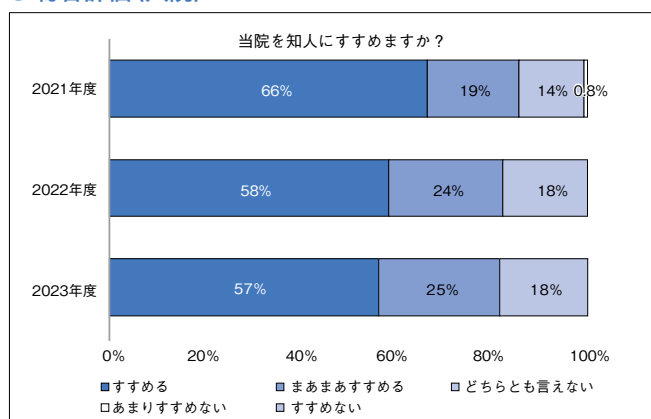
満足度は、「看護師の対応」が一番高く、「安全面への配慮」「医師による診療・治療内容」「医師との対話」が同数で二番番目に高かった。

緊急改善分野は「売店」「案内や掲示」「病室・浴室・トイレ」の3項目があがった。将来改善分野は「食事の内容」「職員間の連携」の2項目があがった。「病室・浴室・トイレ」「職員間の連携」は満足度が4点台で満足度としては高いが、全体の平均値(4.36)より低かったため、緊急改善および将来改善項目としてあがっている。

2.当院の選択理由(入院)

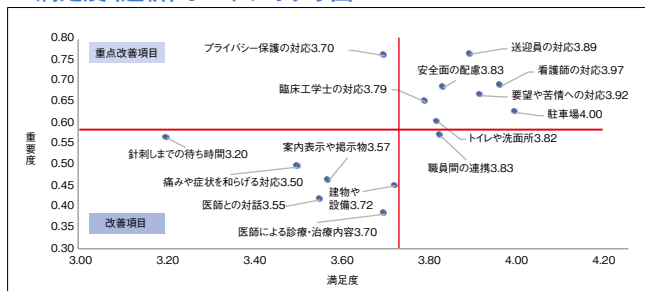


3.総合評価(入院)



患者満足度アンケート<透析>

1.満足度(透析)ポートフォリオ図

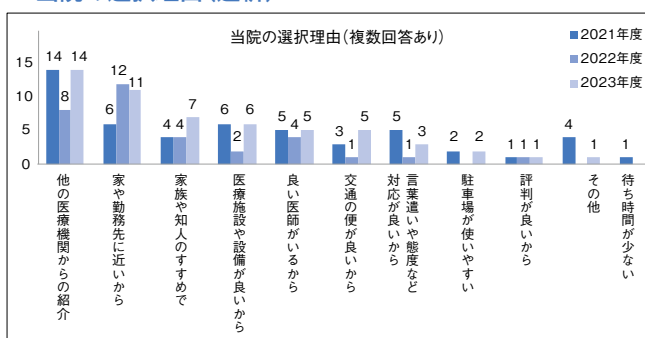


【結果】

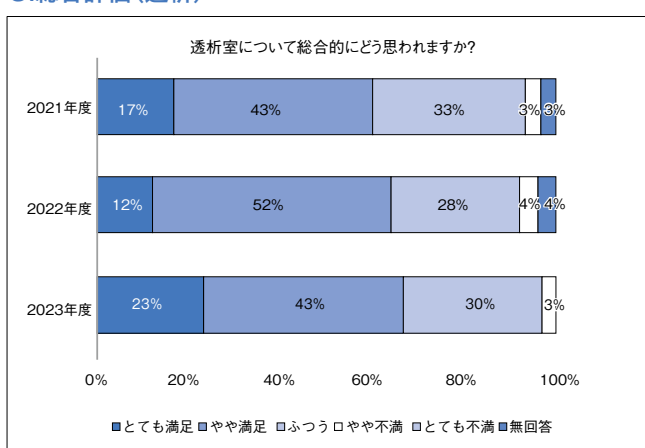
満足度は、「駐車場」が一番高く、「看護師の対応」「要望や苦情への対応」の順で満足度が高かった。

緊急改善分野は「プライバシー保護の対応」の項目があがった。将来改善分野は「針刺しまでの待ち時間」「痛みや症状を和らげる対応」「医師との対話」「案内表示や掲示物」「建物や設備」「医師による診療・治療内容」の6項目があがった。2023年度総合評価の割合は過去2年と比較し、やや満足、とても満足が66%となり上昇傾向となった。

2.当院の選択理由(透析)



3.総合評価(透析)



2024年度 開業医満足度調査結果報

【実施期間】

令和6年5月中旬～6月中旬

【対象者】

西部地区開業医

【実施方法】

アンケート用紙を郵送し、返信用封筒にて返信、またはWEBフォームで回答

【目的】

開業医の皆様から率直なご意見をいただき、地域の先生方と患者さんに満足して頂ける病院となるために、今後のより良い病診連携につなげる。

【配布枚数】

183枚

【回収枚数(回収率)】

89枚(49%)

【設問内容】

①博愛病院の広報内容(年誌博愛便・季刊free magazine博愛すまいるん・ホームページ等)は、情報源として活用しやすいと思いますか？

思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
(ご意見:)

以下設問(②～⑨)は、博愛病院にご紹介等の経験がある方のみ、お答えください。

②博愛病院は患者さんを紹介しやすいと思いますか？

思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
(ご意見:)

③救急時・時間外の受け入れ体制はいかがですか？

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

④職員の電話対応はいかがですか？

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑤地域連携室の対応はいかがですか？

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑥紹介された患者さんへの診療内容はいかがですか？

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑦返書や診療情報提供書(検査結果等の添付資料を含む)の内容はいかがですか？

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑧博愛病院を受診された患者さんの反応はいかがですか？

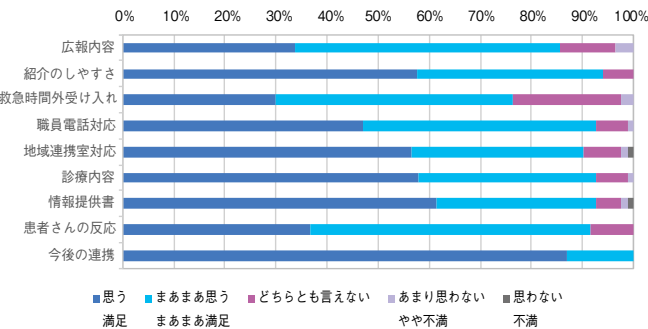
満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑨博愛病院との連携を続けたいと思いますか？

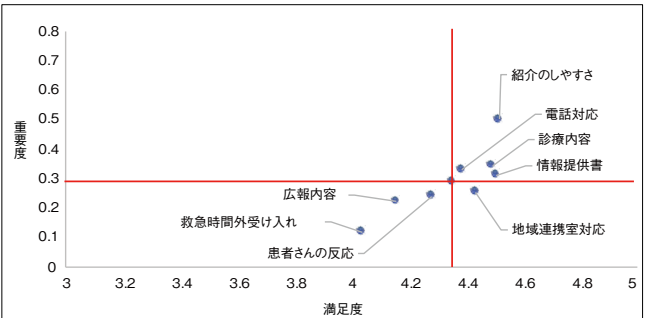
思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
(ご意見:)

⑩博愛病院に希望されることを記載してください。

【結果①】満足度



【結果②】ポートフォリオ分析



【結果③】フリーコメント内訳

項目	良いところ	良くないところ
広報内容	4	0
紹介しやすさ	2	1
救急時間外の受け入れ	1	1
電話対応	1	1
地域連携室対応	3	1
診療内容	2	1
診療情報提供書	0	5
患者さんの反応	1	1
今後の連携	3	0
その他	11	1

開業医の皆様より、貴重なご意見をいただきました。
病院執行部会が中心となり、関係部署とともに改善に努めてまいります。

2023年度 職員満足度調査実施報告

【実施期間】

令和5年9月1日(金)～10月16日(月)

【対象者】

令和5年9月1日時点で同愛会に就業している全職員
(正規職員・嘱託職員・短時間職員)
(長期欠勤者・派遣・出向職員・外部委託業者は除く)

【実施方法】

日本医療機能評価機構 病院機能評価事業支援システムの利用

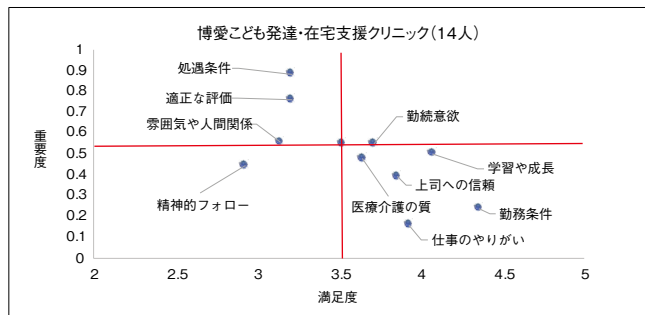
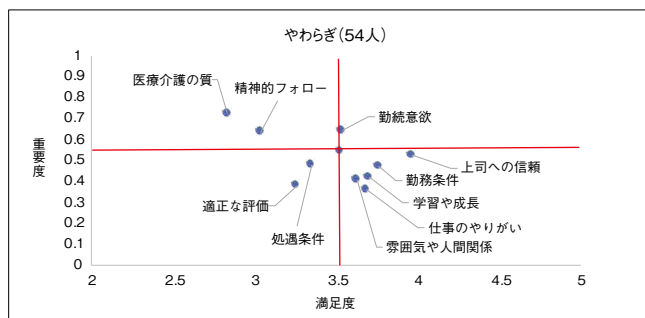
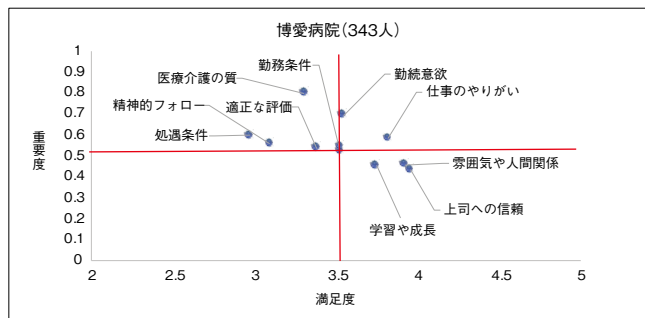
【目的】

組織の強みと弱み、職員のモチベーションの状況を可視化するほか、職員の声(自由記述の内容)を分析することで、提供される医療の質を高める糸口となり、今後のより良い組織づくりにつなげるため

【回答数(回答率)】

416人(82%)

【施設別ポートフォリオ分析】



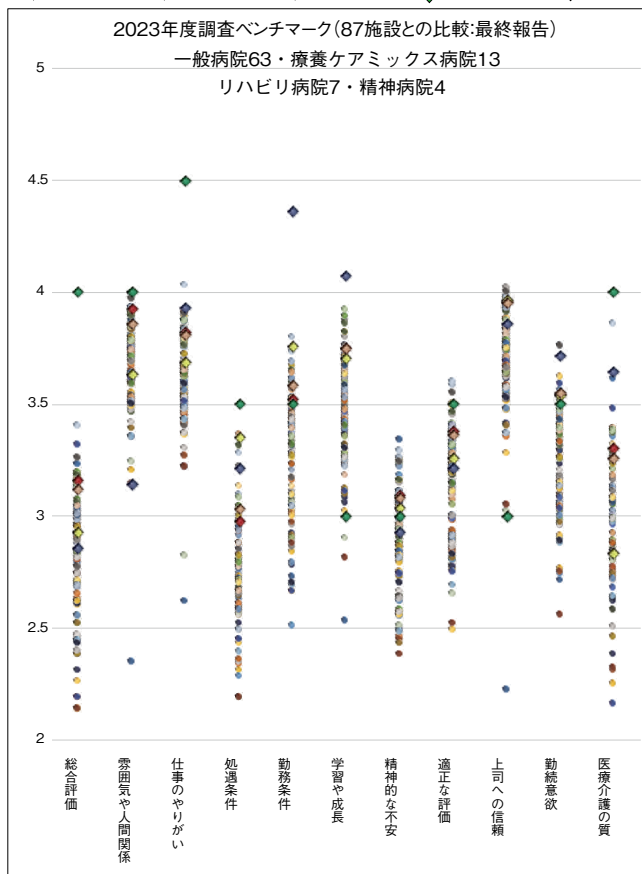
ふくよね博愛クリニック(2人)

全項目において、
DATA上、相関係数がエラーとなるため
ポートフォリオ分析は不可

満足度調査

【日本医療機能評価機構ベンチマーク比較】

◆ 博愛病院 ◆ やわらぎ ◆ 博愛こども ◆ ふくよね博愛 ◆ 同愛会



広報物紹介

WEB 随時情報を更新しています

社会医療法人同愛会

<https://www.doaikai.jp/>



HP

ふくよね博愛クリニック

<https://fukuyone.doaikai.jp/>



HP



フェイスブック

介護老人保健施設やわらぎ

<https://yawaragi.doaikai.jp/>



HP



フェイスブック



インスタグラム



X

博愛病院

<https://hakuai.doaikai.jp/>



HP



フェイスブック

博愛こども発達・在宅支援クリニック

<https://kodomo.doaikai.jp/>



HP



フェイスブック



インスタグラム

医療支援型グループホーム博愛

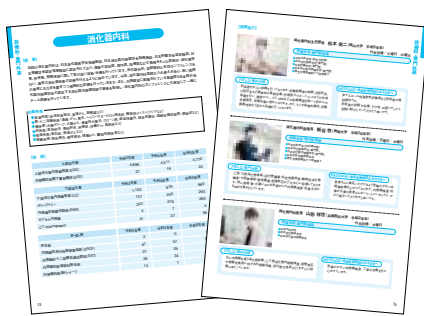
<https://g-home-h.doaikai.jp/>



HP

広報誌等

社会医療法人同愛会 年誌 博愛便



発行: 年1回発行
発行部数: 700部
対象: 医療・福祉・行政等

博愛病院



院外広報誌 博愛すまいるん



院内広報誌 博愛かるがもニュース

介護老人保健施設やわらぎ



広報誌 しおかぜだより

発行: 年4回(春号、夏号、秋号、新年号)
発行部数: 4,000部/回
対象: 地域のみなさま

発行: 毎月定期発行
対象: 院内職員

発行: 年4回
(春号、夏号、秋号、冬号)
発行部数: 500部/回

※誤植のため発行部数修正
(4,000部⇒3,500部)

財務概況

同愛会貸借対照表（令和6年3月31日現在）

（単位：千円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流 動 資 産	1,244,592	I 流 動 負 債	1,254,150
現金及び預金	409,387	買 掛 金	162,806
事業未収金	798,666	短期借入金	450,000
たな卸資産	15,882	1年内返済長期借入金	189,995
前払費用	25,052	未 払 金	169,910
その他の流動資産	1,666	未 払 費 用	60,890
貸倒引当金	△6,064	預 り 金	44,320
II 固 定 資 産	2,968,684	賞与引当金	119,908
1 有形固定資産	2,847,617	前 貸 金	52,704
建 物	1,768,958	その他の流動負債	3,614
構 築 物	53,029	II 固 定 負 債	2,601,765
医療用器械備品	356,850	長期借入金	1,908,314
その他の器械備品	37,832	預り保証金	73,695
車両及び船舶	2,555	退職給付引当金	608,420
土 地	597,843	役員退職慰労引当金	8,200
建設仮勘定	14,960	その他の固定負債	3,135
その他の有形固定資産	15,587		
2 無形固定資産	109,489	負 債 合 計	3,855,916
ソフトウェア	107,912	純 資 産 の 部	
その他の無形固定資産	1,576	科 目	
3 その他の資産	11,577	I 積 立 金	357,360
出 資 金	121	設立等積立金	1,000,000
敷金及び保証金	2,779	圧縮積立金	97,836
長期前払費用	8,327	繰越利益積立金	△ 740,476
長期貸付金	11,850		
返還免除引当金	△11,500	純 資 産 合 計	357,360
資 産 合 計	4,213,276	負 債 ・ 純 資 産 合 計	4,213,276

同愛会 損益計算書（令和3年度から令和5年度）

（単位：千円）

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
医業収益	5,177,119	5,451,568	5,068,466
病院収益	4,384,311	4,618,970	4,177,021
施設運営事業収益	792,808	832,598	891,444
医業費用	5,025,044	5,283,031	5,388,157
人件費	2,958,494	2,993,781	3,146,429
材料費	775,469	925,568	867,876
経費	946,763	1,005,854	1,001,078
研究研修費	6,396	9,272	11,103
減価償却費	337,474	348,398	361,836
その他	448	158	△ 165
医業利益	152,075	168,537	△ 319,691
医業外収益	139,198	92,697	169,405
受取利息配当金	3	3	48
その他	139,195	92,694	169,357
医業外費用	54,907	35,247	28,311
支払利息	35,934	29,585	27,017
その他	18,973	5,662	1,294
経常利益	236,367	225,987	△ 178,597
特別利益	150	0	0
固定資産売却益	150	0	0
特別損失	48,948	113,948	52,287
退職給与引当金繰入	43,776	43,400	43,400
固定資産除却損	3,730	51,297	8,886
その他	1,442	19,250	0
税引前当期純利益	187,569	112,039	△ 230,884
法人税及住民税	2,820	3,294	601
当期純利益	184,749	108,746	△ 231,485

【外来診療予約・放射線科検査予約】について

予約受付時間 平日8時30分～17時00分

外来診療の予約

紹介元医療機関

事前予約受付用FAX用紙

ご記入後FAX送信

(ご希望の診療科・医師名・受診希望日等記載)

地域連携室直通
FAX (0859) 48-0376

放射線科(MRI/CT)の予約

紹介元医療機関

放射線部に直接電話

TEL (0859) 48-0418

放射線部担当者が予約をお取りします。
電話にて予約後、紹介患者予約受付用
FAX用紙にてFAX送信をお願いいたします。

地域連携室直通
FAX (0859) 48-0376



地域連携室

予約手続きを行い、折り返し『予約票』をFAXにて送信いたします。(10～15分程度)



紹介元医療機関

患者さんへ『予約票』・『紹介状』を渡していただき、当日持参していただくようお願い下さい。

※紹介患者さんの来院日が決まりましたら、先に診療情報提供書をFAXしていただきますようお願いいたします。

患者さん 〈診療・検査当日〉

総合受付(1Fロビー)に紹介状等を持参の上、お越し下さい。各診療科への受付を行います。

※セカンドオピニオン外来の予約は、完全予約制となっていますので
下記までご連絡をお願いいたします。

患者支援部 地域連携室：TEL (0859) 48-0377

ご不明な点がございましたら、患者支援部 地域連携室までお問い合わせください。



FAX: (0859) 48-0376

博愛病院 紹介患者予約受付用FAX用紙

年 月 日

患者様は貴院でお待ちでしょうか ☐ はい ☐ いいえ

紹介目的	診療科	☐ 循環器内科 ☐ 消化器内科 ☐ 脳神経内科 ☐ 糖尿病内科 ☐ 呼吸器内科 ☐ 外科 ☐ 乳腺外科 ☐ 整形外科 ☐ 産婦人科 ☐ 眼科 ☐ 放射線科 ☐ 泌尿器科 ☐ 皮膚科 ☐ その他記載 ()				
	指定医師	有	医師名			緊急性 ☐ 有
	主訴(病名等)					
受診希望日	第1希望日	年	月	日	担当医師 への事前 連絡	有 医師名 ()
	第2希望日	年	月	日		
	第3希望日	年	月	日		

※緊急時や当日の場合、電話で事前の来院連絡をいただいている患者様は、下記のみご記入ください。
事前にカルテをご用意します。(保険情報は保険証もしくはカルテのコピーをFAXしていただいてもかまいません。)

フリガナ	M・T・S・H・R			性別
氏名	様	旧姓 ()	年 月 日 (歳)	男・女
住所	〒 — TEL () —			当院受診歴 有・無

保険情報 ☐ 本人 ☐ 家族	
保険者番号	
記号・番号	■
負担割合	☐ 1割 ☐ 2割 ☐ 3割
公費	負担者番号
	受給者番号
☐ その他記載事項	
病院・診療所名	
施設名	
医師氏名	
TEL	
FAX	
地域連携室受付時間	本書送信先
平日 8:30~17:00	博愛病院 患者支援部 地域連携室
休診日 土曜・日曜・祝日・年末年始(12/29~1/3)	TEL (0859) 48-0377
	FAX (0859) 48-0376

※折り返し、「予約票」をFAX致します。患者様にお渡しくださいますようお願い致します。
※時間外・夜間・休日の電話・FAXは代表番号へ切り替わります。予約手続きは翌平日となりますので、ご了承ください。
※当日紹介については、FAX予約は致しかねますご了承ください。

博愛病院 外来診療担当医師 一覧表

令和6年7月1日現在

診療科目			月	火	水	木	金
内 科	午 前	1 診 (循環器内科)	ペースメーカー外来 田中 保則	田中 保則	井川 剛	田中 保則	井川 剛
		2 診 (消化器内科)	紙谷 悠	浜本 哲郎	山形 祥世	紙谷 悠	浜本 哲郎
		3 診 (脳神経内科)	足立 晶子	●鳥取大学医師 (診療:9時~)	足立 晶子	安井 建一	安井 建一
		4 診 (肝臓内科)		松本 栄二	堀 立明	松本 栄二	堀 立明
		5 診 (糖尿病内科・内分泌内科)	藤岡 洋平	竹内 龍男	藤岡 洋平	竹内 龍男	藤岡 洋平
		6 診 (呼吸器内科)	山本 司生	●鳥取大学医師 (診療:9時~)	西井 静香	山本 司生	西井 静香
		7 診 (総合診療内科)			重白 啓司	●鳥取大学医師 (総合診療内科・血液内科) (第1・第3・第5) (診療:9時~)	重白 啓司
		8 診 (消化器内科)	岸本 幸廣				岸本 幸廣
	禁 煙		重白/山本/西井 交 代 (診療:14時~)				
午 後		予約再来					
小児科	小児リハビリテーション (13時30分~14時30分)		●博愛こども発達在宅 支援クリニック医師	●博愛こども発達在宅 支援クリニック医師		●博愛こども発達在宅 支援クリニック医師	●博愛こども発達在宅 支援クリニック医師
外 科	午 前	1 診	竹本 大樹	安宅 正幸	近藤/竹本/安宅 交代	竹本 大樹	安宅 正幸
		3 診	近藤 亮	角 賢一	【アミノインデックス外来】 木村 修	近藤 亮	角 賢一
	午 後		予約再来				
	乳 腺 ※午後(予約制) (14時~15時30分)		午前 工藤 浩史 午後	角 賢一 角 賢一	角 賢一 (新患のみ) 工藤 浩史/ 角 賢一 (新患のみ)		角 賢一 (新患のみ)
腎臓外科	午前/午後		杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤
整形外科	午 前	1 診	根津 明菜	中村 達彦	根津 明菜	中村 達彦	●奥野 誠
		2 診			●鳥取大学医師 (診療:9時~)		根津 明菜 (診療:~10時まで)
		3 診	●岸本 英彰 (診療:9時~)	三木 純		三木 純	
		人工関節	●岸本 英彰 (診療:9時~)				
	骨粗鬆症	●岸本 英彰 (診療:9時~)	中村 達彦		中村 達彦		
午 後		三木 純	三木 純 (第1・第3・第4)		三木 純	三木 純	
リハビリテーション科	午 後			中村 達彦		中村 達彦	
産婦人科	午 前		片桐 千恵子	下雅意 るり	下雅意 るり	片桐 千恵子	石原 幸一
	午 後		石原 幸一	片桐 千恵子	石原 幸一	片桐/石原/下雅意 交 代	
	女性内分泌・思春期 (14時~16時)						片桐 千恵子 (予約制)
泌尿器科	午 前 (受付:11時まで)		●鳥取大学医師 (診療:9時~)			●鳥取大学医師 (診療:9時30分~)	●宮川 征男
眼 科	午 前		小松 恵子 (予約外:~11時まで)	山崎 厚志 (予約外:~10時まで)	小松 恵子 (予約外:~11時まで)	山崎 厚志 (予約外:~10時まで)	小松 恵子 (予約外:~11時まで)
	午 後		山崎 厚志 (予約外:~15時30分まで)		山崎 厚志 (予約外:~15時30分まで)		
放射線科	午前・午後		中村 希代志/ ●鳥取大学医師	中村 希代志	中村 希代志	中村 希代志	中村 希代志/ ●鳥取大学医師
皮膚科	午 後 (受付:13時30分~16時まで)					●鳥取大学医師 (診療:14時~)	
ドック健診センター	1 診		鶴原 一郎		鶴原 一郎		鶴原 一郎
	2 診			工藤 浩史	工藤 浩史	工藤 浩史	
	3 診		木村 修	木村 修		木村 修	木村 修

※内科、外科、整形外科の午後は原則、予約再来ですが、救急、紹介患者さんにつきましては従来通り対応しています。
●は非常勤医師です。

各診療科とも、緊急手術等のため休診となる場合もあります。

受付・診療時間	午 前	午 後	お問い合わせ
受付時間	8時00分~12時00分まで	14時30分~16時50分まで	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地
診療時間	8時30分より	15時00分より	TEL(0859) 29-1100(代)

社会医療法人同愛会年誌

「博愛便2024」HAKUAI information

発行日 令和6年7月

発 行 社会医療法人同愛会

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地

TEL (0859) 29-1100 (代)

FAX (0859) 29-6322

印 刷 東京印刷株式会社



社会医療法人同愛会 事業所連絡先

博愛病院

〔代 表〕	TEL(0859)29-1100	FAX(0859)29-6322
〔地 域 連 携 室〕	TEL(0859)48-0377	FAX(0859)48-0376
〔診療放射線部(共同利用)〕	TEL(0859)48-0418	FAX(0859)48-0376
〔ドック健診センター〕	TEL(0859)48-0880	FAX(0859)48-0881
〔訪問看護ステーション博愛〕	TEL(0859)24-8119	FAX(0859)24-8120
〔訪問リハビリテーション博愛〕	TEL(0859)29-1136	FAX(0859)24-8120
〔サービスプラン博愛〕	TEL(0859)48-0366	FAX(0859)48-0367
〔ヘルパーステーション博愛〕	TEL(0859)29-2322	FAX(0859)48-0367

博愛こども発達・在宅支援クリニック

TEL(0859)29-8010 FAX(0859)29-8020

ふくよね博愛クリニック TEL(0859)21-0171 FAX(0859)34-5676

介護老人保健施設やわらぎ TEL(0859)31-1000 FAX(0859)31-1003

医療支援型グループホーム博愛

TEL(0859)30-3318 FAX(0859)30-3319

